

飛驒市民病院年報

第 12 号

2022 年度（令和 4 年度）

国民健康保険飛驒市民病院

巻頭言

国民健康保険 飛騨市民病院
管理者兼病院長 黒木 嘉人

2019 年末から新型コロナウイルス感染症が全世界に拡大して以来、各種社会活動が制限される中で 2022 年度も人類とウイルスの闘いが続きました。しかし、第 8 波の収束とともに少しずつ明るい兆しがみられるようになり、2023 年 5 月には感染法上の 5 類への変更となつて、ウィズコロナとして社会経済活動が再び活性化を取り戻す方向になりました。当院においては新型コロナワクチンの接種事業として院内個別接種推進を精力的に行ない、また発熱外来を設置し診療体制を整えました。しかし 2023 年 1 月、入院患者さんや職員が多数感染し、院内クラスターが発生したため、新規入院や救急車の受け入れを一時的に止めざるを得ないことになり、地域住民の皆様にはご心配とご不便をおかけしました。職員も複数名感染したため病棟は災害時対応をとり少ないスタッフで大変な苦勞をしながらようやく乗り切りました。

そんな中でしたが 2022 年 11 月 19 日には、初めての地区持ち回り制による第 27 回岐阜県国保地域医療学会が飛騨市文化交流センターにて開催されました。黒木が学会長を拝命し、「コロナを乗り越え新たなステージへ」の学会メインテーマのもと 206 名もの参加で成功裏に終えることができました。しかも優秀研究発表には最優秀賞に宮腰結衣看護師、優秀賞に大庭のり子看護師、星合紀美子看護師、巢之内大輔理学療法士が受賞し、すべての賞が当院で独占するという快挙を成し遂げました。より良い医療を目指そうとする職員の日頃の努力が実を結んだものと思われます。また今年度の病院祭は、YouTube 動画配信という形で日頃の当院の取り組みを広く皆様にご覧頂くようにしました。

医師につきましては富山大学総合診療部から佐藤悠紀先生の継続と、自治医大出身の神谷理斗先生に、総合診療専攻医の鈴木良平先生と枚方公済病院内科専攻医の島田大揮先生を向かえたことで、常勤医師 7 名体制をとることができました。初期研修医も 39 名を受入れて、病棟主治医チーム制により時間外勤務を減らし働き方改革へとつながりました。岐阜大学および富山大学の医学生の地域医療実習は継続しながら、富山大学長期間統合型臨床実習も開始し、まさに学生・研修医・専攻医・指導医の屋根瓦式体勢が整いました。さらに看護師教育と人材確保については「里山ナース院内認定制度」を一層推進しながら、看護学校や看護大学とも連携強化し、初の大学新卒の畠山圭看護師の採用となりました。また職員の行動規範の策定を行い、その浸透のためにホスピタリティ推進ワーキンググループを立ち上げ、患者さんや職員も気持ちのよい病院の姿の実践に努めてきました。NST を中心に当院の特色である「完全側臥位法」による摂食嚥下ケアも院外への普及を精力的に開始しました。医療機器については、今年度は MRI 検査機器と透析装置も最新鋭のものに入れ替えました。

今後はコロナの先にある地域医療の新たな姿に向かって、地域住民の皆様にご安心安全な医療を提供すべく更なる努力を続ける所存でありますので、引き続き宜しくご理解とご支援をお願い申し上げます。

2023 年 6 月吉日

飛騨市民病院年報 目次

巻頭言	
目次	1
基本理念、基本方針	3
2022（令和4）年度活動目標と成果、総括 研修、研究業績等	
■ 第Ⅰ診療部	
医局	4
■ 第Ⅱ診療部	
薬剤科	6
検査科	7
放射線科	8
リハビリテーション科	10
栄養科	12
■ 看護部	
看護部管理委員会	14
看護部教育委員会	16
看護記録委員会	18
認知症・せん妄チーム	19
第1病棟	20
第2病棟	22
外来	24
手術室	25
透析室	27
地域連携室	27
看護部学会等研究発表状況	28
表彰	29
看護部研修会	29
■ 病院管理室	
管理課	31
2022（令和4）年度決算の概況	33
■ 院内委員会	
緩和ケアチーム	35
栄養サポートチーム（NST）	37
ICLS 研修チーム	39
システム管理委員会	40
診療録管理委員会兼 DPC コーディング委員会	40

医療安全委員会・透析機器安全管理委員会	41
院内感染委員会	43
輸血療法委員会	46
広報・ホームページ委員会	47
S P D委員会	47
医療ガス・医療廃棄物委員会	48
衛生委員会	49
ホスピタリティ推進チーム	50
5 S委員会	52
災害対策委員会	53
■ 人材育成プロジェクト（JIP）チーム	54
■ 月例朝礼	56
■ 高原郷ケアネット	57
■ 飛騨市健康コミュニティ・メディカルデザイナー養成講座	57
■ 研修医・学生実習状況	
初期臨床研修医 地域医療研修	59
後期研修医	60
学生実習	60
■ 神通川プロジェクト	61
■ ボランティア受入	63
■ ボランティア等活動への参加	63
■ 2022（令和4）年度 飛騨市民病院行事・事業等	64
資料	
病院祭 チラシ、日程表等	70
病院祭 病院長プレゼンテーション資料	71
病院組織 機構表（令和5年2月1日）	76
委員会名簿（令和4年4月1日）	77
飛騨市病院管理室事業概況	81
目次	82
施設の概況	83
業務の概況	118
財務の概況	127
経営分析	135

◆基本理念◆

- 一、思いやりの心
- 一、信頼される医療
- 一、地域を愛し愛される病院

◇基本方針◇

1. 地域に寄り添い、医療・介護・福祉・保健・生活が一体となった「地域包括医療・ケア」を実践します
2. 医療水準の向上に自助努力します
3. 安全で確実かつ温かいチーム医療を目指します
4. 患者さんの権利と尊厳を重視し、その人らしい生涯を過ごせるよう支援します
5. 存続可能な健全な経営を目指します

令和4年度活動目標と成果、総括 研修・研究業績等

■第I診療部

●医局

1. 活動目標と成果

- ① 入院収益増加による単年度黒字化の実現：(数値目標) / (成果) について以下に示す。入院患者>1日あたり62人/61人、1日あたり外来患者数>211人/237人、入院単価¥28,800/¥28,220、外来単価¥7,850/¥7,504と外来患者数以外は目標を下回った。
- ② 研修医、専攻医にとって学びある医療の提供
指導医、専攻医、研修医による毎日のチームカンファレンスによる互いの知識をSHAREする環境づくりは2年目に入り、確立してきた。研修医満足度>80%維持も目標を大きく上回る93.4%を達成した
- ③ 医師の働き方改革による魅力ある病院作り
病棟チーム制の導入・定着は問題なく施行することができた。
時間外勤務<25時間/月は31.6時間と目標をややオーバーした。
休暇取得7日/年以上は全員が達成した

2. 総括

完全主治医制からチーム制の導入は定着した感があり、順調に施行できている。それに伴い研修医の満足度にもよい効果がみられている。週末はオンコール体制となり、しっかり休める環境作りもできたと考える。医師にとって働きやすい、学びの多い職場環境づくりはできしており、来年度以降はこれを患者増、収益増加につなげていきたい。

3. 学会等研究発表状況

- 1) 黒木嘉人：宿日直許可と教育研修推進が医師の働き方改革につながった小規模病院の取り組み。第62回全国国保地域医療学会 シンポジウム；2022.9.16-17. 千葉県木更津市かずさアカデミーホール
- 2) 黒木嘉人、工藤 浩、中林玄一、佐藤悠紀、鈴木良平、神谷理斗、島田大揮、上葛健介、佐藤直樹：学生・研修医・専攻医と屋根瓦式研修体制の達成～神通川プロジェクト10年の成果～。第62回全国国保地域医療学会；2022.9.16-17. 千葉県木更津市かずさアカデミーホール
- 3) 黒木嘉人、工藤 浩、中林玄一、佐藤悠紀、鈴木良平、神谷理斗、島田大揮、上葛健介、佐藤直樹：学生・研修医・専攻医と屋根瓦式研修体制を達成し医師確保につながった神通川プロジェクト10年の成果。第37回岐阜県病院協会医学会；2022.10.23. 岐阜県多治見市セラミックパーク MINO
- 4) 工藤 浩。完全側臥位法で切り開くこれからの嚥下障害診療。～実臨床における完全側臥

- 位法の使い方～. 口から食べるを支える勉強会; 2022 Jun 7; 笠間 (オンライン)
- 5) 工藤 浩. 赤ちゃんから老人まで誰でもできる完全側臥位法～誤嚥性肺炎ゼロの高原郷を目指して～. 高原郷ケアネット; 2022 Jun 20; 飛騨 (オンライン)
- 6) 工藤 浩. 完全側臥位法で切り開くこれからの嚥下障害診療. ～実臨床における完全側臥位法の使い方～. 高岡市民病院 NST 研修会; 2022 Jul 22; 高岡
- 7) 工藤 浩. 完全側臥位法で切り開くこれからの嚥下障害診療. ～実臨床における完全側臥位法の使い方～. 第 1 回飛騨市民病院 NST 摂食嚥下研修会; 2022 Mar 24; (オンライン)
- 8) 工藤 浩. プライマリケアにおける嚥下障害の診方・考え方. ～開業医の先生方にぜひ知ってもらいたい完全側臥位法～. 第 2 回飛騨市民病院 NST 摂食嚥下研修会; 2022 Jun 15; (オンライン)
- 9) 工藤 浩. 自分の口からご飯を食べることの意義とは? 飛騨メディカルハイスクール; 2022 Oct 4; 高山
- 10) 工藤 浩. 完全側臥位法で切り開くこれからの嚥下障害診療. ～実臨床における完全側臥位法の使い方～. Otsuka Nutrition Webinar. 枚方地域セミナー; 2022 Oct 28; 枚方
- 11) 工藤 浩. 飛騨市民病院の嚥下障害診療. ～実臨床における完全側臥位法の使い方～. 第 2 回地域関係機関と病院の連携に関する会議; 2022 Nov 25; 高山 (オンライン)
- 12) 工藤 浩. 理論で理解する誤嚥のメカニズムと完全側臥位法. ～誤嚥性肺炎診療のパラダイムシフト～. 大塚製薬工場社内研修会; 2022 Nov 28; 岐阜 (オンライン)
- 13) 工藤 浩. 嚥下障害診療の未来を変える完全側臥位法. ～誤嚥性肺炎診療のパラダイムシフト～. 飛騨市民病院メディア発表会; 2022 Nov 30; 飛騨
- 14) 工藤 浩、小林洋子、稲松絵美、田口純子、谷口敬康、今井亮貴、古沢晃也、日比野一輝. 誰でもできる! 明日から使える! 完全側臥位法. ～誤嚥性肺炎ゼロの飛騨を目指して～. 第 3 回地域関係機関と病院の連携会議; 2023 Feb 24; 高山
- 15) 工藤 浩. 座長. 褥瘡研修会 in 飛騨高山. ～コロナ禍でも職種間の壁を越えて繋がろう～; 2023 Mar 10; 高山
- 16) 工藤 浩. 人生最後までおいしいご飯を食べるための完全側臥位法. ～誤嚥性肺炎ゼロの飛騨を目指して～. 朝霧連合会; 2023 Mar 14; 飛騨
- 17) 工藤 浩. 完全側臥位法で切り開くこれからの嚥下障害診療. ～誤嚥性肺炎診療のパラダイムシフト～. Otsuka Nutrition Webinar. 南京都地区 地域連携カンファレンス; 2023 Mar 16; 京都
- 18) 工藤 浩、小林洋子、稲松絵美、谷口敬康、洞口拓也、今井亮貴、日比野一輝. 誰でもできる! 明日から使える! 完全側臥位法. ～誤嚥性肺炎ゼロの飛騨を目指して～. 穂高の庭出張研修会; 2023 May 26; 高山

4. 表彰

- 1) 第 37 回岐阜県病院協会医学会 優秀演題賞 黒木 嘉人「学生・研修医・専攻医と屋根瓦式研修体制を達成し医師確保につながった神通川プロジェクト 10 年の成果」

5. 論文・執筆等発表状況

- 1) 黒木嘉人：特集 医師の働き方改革と国保直診. 地域医療 2022；60（3）：246-256
- 2) Kudo H, Kusakabe S, Sato Y, Nakabayashi M, Kuroki Y. The complete lateral position method reduced the mortality rate among elderly patients with severe dysphagia. Intern Med. 2022;61(22):3335-3341

6. 学会新規認定資格等取得状況

1. 該当なし

7. 院内研修会状況

(場所：飛騨市民病院内)

開催日	講師	内 容
2022. 5. 27	工藤 浩	嚥下障害の見方・考え方と完全側臥位法
2022. 5. 31	工藤 浩	飛騨市民病院における 5S 活動
2022. 7. 20	工藤 浩	嚥下精査・強化リハビリ入院について
2022. 12. 19	工藤 浩	誰でもできるケトジェニックダイエットの始め方

8. 院外教育研修の運営・支援活動

開催日	講師	内 容	場 所
2022. 11. 9	黒木 嘉人	第 214 回 JPTEC 更新コース	古川町公民館（総合会館）
2022. 12. 3	黒木 嘉人	第 48 回 ICLS さるぼぼコース	飛騨市民病院
2022. 11. 26	黒木 嘉人	令和 4 年度飛騨地域緩和ケア研修会	高山赤十字病院

9. 一般市民向け出前講座

開催日	参加者	内 容	場 所
		該当なし	

■第Ⅱ診療部

●薬剤科

1. 活動目標

<薬事委員会>

- 1) 医薬品の使用変化に対応した採用薬品の見直しを行うとともに、一般名処方への切り替えを進めていきます。
- 2) 薬品説明会を利用して、採用薬品および採用中止薬品の選定や医療安全情報等を参照に

副作用・配合禁忌など薬事に関する協議を進めていきます。

3) 医局の協力のもと、後発医薬品の採用や使用促進を進めていきます。

<薬剤科運営委員会>

1) 在庫薬品の定数・発注点を随時見直し、在庫金額の軽減を進めます。

2) 各部門の定数薬品の見直しや有効期限管理を進め、安全な医薬品供給体制を進めていきます。

3) 院内委員会に積極的に参加し、医療品質の向上を進めていきます。

2. 成果・総括

2022年度は後発医薬品採用を継続的に行い、後発品使用体制加算の最上位点数を維持しました。

外来診療における院外処方せん疑義照会不要プロトコールを実施推進しました。

3. 研修会

研修会、学会への参加（オンラインも含む）をしました。

●検査科

1. 活動目標

- 1) 検査件数の維持、検査試薬の費用削減
- 2) 外部精度管理評価の維持、COVID-19 検査の確保
- 3) タスク・シェアの推進、代わりの効く検査体制

2. 成果・総括

<検体検査部門>

1) 前年度件数の維持（年間 25 万 3200 件）を達成した。

グルコース試薬の会社を一本化、梅毒 RPR 試薬の変更を実施した。

尿蛋白定量測定用の比色計が故障したが、古い機器のため修理不能だった。

2) 外部精度管理に参加、総合評価で日本臨床衛生検査技師会精度管理調査 95.8%、岐阜県臨床検査技師会精度管理調査 98.5%を取得した。

COVID-19 の流行期・クラスター発生時は関連部署と連携し、試薬の確保に努めた。

3) 新型コロナウイルスワクチン接種業務に積極的に参加した。

研修医プログラムへの参加を再開、委員会へ出席出来る様に科内で協力した。

3. 学会・研修会

開催日	参加者	研修会名	場 所
2022. 11. 19	中桐あさ子	第 27 回 岐阜県国保地域医療学会	飛騨市文化交流センター
2023. 1. 22	中桐あさ子	(一社) 岐臨技精度管理事業部報告会	WEB 開催

●放射線科

1. 活動目標

- 1) 検査件数の維持
- 2) 患者の人権を尊重した接遇をし、医療安全に努める
- 3) 業務のスリム化、被ばく線量管理

2. 成果・総括

- 1) C T検査今年度実績は 2989 件で 99%達成
 内臓脂肪解析 C Tの今年度実績は 15 件で 94%達成
 MR I 検査今年度実績は 575 件で 68%達成
 他医撮影の写真診断料今年度実績 221 件で 183%達成
 一般撮影の今年度実績は 9886 件で 99%達成
 マンモグラフィの今年度実績は 223 件で 100%達成
 骨密度今年度実績は 200 件で 93%達成
- 2) クレーム 0 件、レベル 3 b のアクシデント 0 件は継続中
- 3) 職場や科内にとって” ためになること” を提案、実行する。一人一つ以上 (学習会に参加し業務に還元等)
 医療放射線管理委員会の活動継続(線量管理、医療放射線研修会開催)
 “学研メディカルサポート e-ラーニングシステム” 活用
 ホスピタリティ会議から当科への改善策の実現 (被ばく線量、安全性についてメディネットで情報提供中)

放射線安全利用のための講習会を WEB にて開催した。開催期間は 11 月 8 日～30 日
 “学研メディカルサポート e-ラーニングシステム” 活用
 対象者 67 人、視聴/回答済み者 46 人、視聴済み/未回答者 5 人、未視聴 16 人
 視聴参加率 83% (☆未視聴の職員のため 12 月 8 日まで延長した)

☆ クエンチ事故 ①2022. 4. 30 ②2022. 9. 7

☆ MRI 工事、2023. 1. 6～2023. 3. 29

☆ コロナ禍でもWEBでの学会、勉強会等に参加し知識や技術を習得、実務に取り入れるように心がけた

3. 学会・研修会

開催日	参加者	学会・研修会名	場 所
2022. 6. 2 ～ 9. 1	西 達也	富士フィルムヘルスケア WEB セミナー 原理 2/4、アーチファクト 4/4、K 空間 3/3、臨床 編 3/3、ハード編 2/3	WEB 開催
2022. 6. 5	田口 リエ	診療放射線技師基礎技術講習 乳房撮影	金沢大学
2022. 6. 11	西 達也	第 63 回 MRI 技術研究会	WEB 開催
2022. 7. 9 ～ 7. 10	西 達也 田口 リエ	第 23 回 NTRT 全国 X 線撮影技術研究会	WEB 開催
2022. 7. 17	田口 リエ	精中委 マンモグラフィ読影講習会	名古屋医療 センター
2022. 7. 22	西 達也	第 50 回神奈川 MRI 技術研究会	WEB 開催
2022. 7. 24	田口 リエ	フジエクセレントカンファレンス (マンモ)	WEB 開催
2022. 8. 13	西 達也	第 18 回 GE DWIBS 研究会	WEB 開催
2022. 8. 20	西 達也	第 85 回静岡県 MRI 研究会	WEB 開催
2022. 8. 27	西 達也	第 12 回 tokai MRI synergy lite	WEB 開催
2022. 9. 2	西 達也	第 18 回遠州 CT 懇話会	WEB 開催
2022. 10. 8～9	久保 満	業務拡大に伴う統一講習会	岐阜医療 科学大学
2022. 10. 15	西 達也	第 16 回中部マルチスライス CT シンポジウム	WEB 開催
2022. 10. 29 ～10. 30	田口 リエ	第 24 回全国 X 線撮影読影研究会	WEB 開催
2022. 11. 5	西 達也	第 5 回 body MRI 技術研究会	WEB 開催
2022. 11. 25	西 達也	第 19 回茨城 MRI 研究会	WEB 開催
2022. 12. 3	田口 リエ	死亡時画像診断症例報告会	WEB 開催

2022. 12. 14	西 達也 田口 リエ	令和4年度第1回骨関節撮影分科会セミナー	WEB 開催
2023. 1. 27	田口 リエ	令和4年度第2回骨関節撮影分科会セミナー	WEB 開催
2023. 3. 6	西 達也	第11回富山臨床画像セミナー(TCIS)	WEB 開催
2023. 3. 11	西 達也	第19回 GE DWIBS 研究会	WEB 開催
2023. 3. 22	西 達也	令和4年度第2回飛騨地域勉強会	WEB 開催

●リハビリテーション科

1. 活動目標

- 1) リハビリ単位数の増加
- 2) 安全で効果的なリハビリテーションの提供
- 3) 医療水準向上、新人教育、業務の平準化

2. 成果・総括

- 1) 院内リハビリ業務では、一人1日18単位(1単位20分)を目標としたが、達成に至らなかった。訪問リハビリについては、1日、5～6人を限度とし、空いた時間にスムーズな新規受け入れ、祝日などの振替日を設けることで、スタッフも無理なく、利用者も休むことなく効果的なリハビリが受けられることを目標としたが、需要が多くスムーズな新規受入は今後も課題となった。
- 2) 研修会や勉強会への参加は、Web開催が多くみられた。今後も自助努力に励みたい。
安全についてはレベル3以上が0件と目標達成した。今後もリスクに注意して安全に努める。また、今後も感染対策に気を付け、患者様の意見も参考にして適切な感染対策を続けたい。
- 3) 院外事業への積極的参加
 - ① 高原郷ケアネットへの参加
 - ② 新人教育も兼ね、毎月のリハビリテーション部会にて勉強会を開催。
 - ④ 介護事業所支援
ケアマネ・たんぽぽ苑・まごの手からの要請により、カンファレンス参加やリハビリ指導を理学療法士2名が行っている。また業務の平準化を図るためカンファレンスについては業務時間内に変更した。

院外事業 まごの手訪問 山之村 1/月 神岡 1/月 巣之内 洞口
たんぽぽ苑特養 ポジショニング指導 1/月 谷口

院外研修、発表、講師

開催日	参加者	学会・研修会名	場所
2022. 4. 28 ～ 5. 8	古沢晃也	摂食嚥下障害に対するリハビリテーション	VIDEO 配信
2022. 5. 22	古沢晃也	第 3 4 回活動分析研究会	WEB 開催
2022. 5. 17	洞口拓也	健康教室「栄養と嚥下の体操」：講師	神岡包括
2022. 6. 20	牛丸航希 古沢晃也 巢之内大輔	高原郷ケアネット	WEB 開催
2022. 6. 21	洞口拓也	NPO 法人ブライトライフセラピストの新しい働き方教えます！	WEB 開催
2022. 6. 26	古沢晃也	バランスの評価と転倒予防	WEB 開催
2022. 7. 9～7. 10	洞口拓也	第 57 回日本理学療法学術研修大会 in 富山	WEB 開催
2022. 7. 16	牛丸航希	第 47 回 ICLS さるぼぼコース ：インストラクター	高山赤十字 病院
2022. 7. 22	古沢晃也	歩行動作～フォワードステップとバックステップ～	WEB 開催
2022. 7. 23 ～7. 24	洞口拓也	令和 4 年度訪問リハビリテーション管理者養成研修会 STEP1	WEB 開催
2022. 7. 30 ～7. 31	牛丸航希 古沢晃也	臨床実習者指導者講習会	WEB 開催
2022. 8. 5	古沢晃也	食事～頭頸部、嚥下機能の評価と介入～	WEB 開催
2022. 9. 12	巢之内大輔	MedicalCareStation 説明会：講師	古川町公民館
2022. 9. 29	牛丸航希 巢之内大輔	高原郷ケアネット	WEB 開催
2022. 9. 30	古沢晃也	ITT 勉強会にて発表 「痛みについて」	WEB 開催
2022. 10. 15	巢之内大輔	あしから伸ばそう健康寿命：講師	神岡町公民館
2022. 10. 29 ～10. 30	洞口拓也	職場の腰痛予防教室を行うために必要な理学療法士の臨床能力	WEB 開催
2022. 11. 10	洞口拓也	オーストラリアでの腰痛に対するアプローチの実際－オーストラリアの大学で学んだことと実際に働いている経験を通して	WEB 開催
2022. 11. 19	古沢晃也 牛丸航希 巢之内大輔 洞口拓也 今井亮貴 井本愛李	第 27 回岐阜県国保地域医療学会 巢之内、洞口 ポスター発表	飛騨市文化 交流センター

2022. 11. 26～27	洞口拓也	令和 4 年度訪問リハビリテーション管理者養成研修会 STEP2	WEB 開催
2022. 12. 3	古沢晃也	リハ栄養フォーラム 2022	WEB 開催
2022. 12. 3	牛丸航希	第 48 回 ICLS さるぼぼコース ：インストラクター	神岡ふれあい センター
2023. 1. 15 ～1. 29	洞口拓也	認定理学療法士（地域理学療法）臨床認定カリ キュラム	藤田医科大学
2023. 1. 24	洞口拓也	健康教室「栄養と嚥下の体操」：講師	神岡包括
2023. 1. 27	古沢晃也	靴・装具の着脱について	WEB 開催
2023. 2. 8	洞口拓也	健康教室「栄養と嚥下の体操」：講師	ハートピア 古川
2023. 2. 19	巢之内大輔	岐阜県リハビリテーション情報共有研修会	WEB 開催
2023. 3. 18	巢之内大輔	みんなで伸ばそう運転人生：講師	神岡ふれあい センター

●栄養科

栄養科では、給食業務を㈱日清医療食品に業務委託しており、病院管理栄養士 1 名、㈱日清医療食品は、栄養士 0 名、調理師 4 名、短時間調理員 3 名、合計 7 名で業務している。

1. 目標

<給食管理部門>

- 1) 研修参加による自己研鑽を行う
- 2) 食事の工夫
- 3) 衛生管理の徹底

<栄養管理部門>

- 1) 研修参加による自己研鑽を行う
- 2) 栄養指導の実施継続
- 3) 地域住民への啓発活動

2. 成果・総括

<給食管理部門>

- 1) 厨房業務を止めることができないため、チーフが代表で研修を受け後日職場へフィードバックさせる体制をとった。
- 2) 毎月 1 回季節の果物、毎月 2 回高級魚を出す取り組みを行った。
- 3) 厨房には衛生点検者が定期的に来てチェックをすることで衛生管理及び T/T 管理（時間と温度を組み合わせることで食品の衛生面と品質を管理すること）等の徹底を図っている。

<栄養管理部門>

- 1) 今年度は、新型コロナウイルス感染症のため多数の研修会が中止となった。しかし online での開催があったため参加し自己研鑽を行った。また NST（栄養サポートチーム）専門療法士の資格を取得した。
- 2) 栄養指導の実施継続 実施数 5.1 件/月(61 件/年)
今年度は予約なしでの栄養指導依頼が昨年度より多く 10 件近く実施した。また小児科からの依頼も過去 3 年で 1 件、2 件、5 件と増加傾向にある。
- 3) 今年度、市の地域包括課と連携し、地域住民への嚥下機能についての講演を 3 回（神岡 2 回、古川 1 回）実施した。

3. 学会・研修会

開催日	参加者	学会・研修会名	場 所
2022. 5. 21	日比野 一輝	Abbott Nutrition Web Seminar Meet the Experts	WEB 開催
2022. 5. 31~6. 1	日比野 一輝	第 37 回日本臨床栄養代謝学会学術集会	WEB 開催
2022. 6. 14	日比野 一輝	Abbott Nutrition Web Seminar Meet the Experts	WEB 開催
2022. 6. 18	日比野 一輝	関西 PEG・栄養とリハビリ研究会 特別講演 Web セミナー	WEB 開催
2022. 8. 6	日比野 一輝	岐阜県栄養士会 第一回医療事業部研修会	WEB 開催
2022. 9. 15	日比野 一輝	他職種で学ぶ亜鉛セミナーハイブリッド in 岐阜	WEB 開催
2022. 9. 8 ~10. 7	日比野 一輝	リハ栄養フォーラム 2022 Part1	WEB 開催
2022. 11. 10 ~12. 9	日比野 一輝	リハ栄養フォーラム 2022 Part2	WEB 開催
2022. 11. 12	日比野 一輝	フードケアシンポジウム	WEB 開催
2022. 11. 19	日比野 一輝	第 27 回岐阜県国保地域医療学会	飛 騨
2022. 12. 17	日比野 一輝	岐阜県栄養士会 第二回医療事業部研修会	WEB 開催
2023. 2. 18	日比野 一輝	岐阜県栄養士会 第三回医療事業部研修会	WEB 開催
2023. 3. 10	日比野 一輝	褥瘡研修会 in 飛騨高山	WEB 開催

■看護部

●看護部管理委員会

1. 理念

私たちは患者さん中心の看護を目指します

2. 基本方針

- 1) 患者さんに満足される安全で安心な看護を提供します
- 2) 地域と連携した看護を推進します
- 3) 看護水準の向上に努めます
- 4) 接遇の向上に努めます
- 5) 看護の立場で経営に参画します

3. 2022 年度看護部目標

- 1) 倫理観と安全を大切に思いやりのある看護をしよう
- 2) 自ら学びやりがいを見つけ成長し続けよう
- 3) 対話を大切にお互いを尊重し合う職場をつくろう
- 4) 自分事として有事に備えよう
- 5) 患者・家族の生活に寄り添い地域に目を向けよう
- 6) 看護の立場で経営に参画しよう

4. 活動報告と成果

- 1) 倫理観と安全を大切に思いやりのある看護をしよう

入院、外来患者の高齢化が著しく、認知症患者の増加に加え転倒転落の危険リスクが高まり、一番近くでケアする看護師・看護補助者は、安心・安全な療養環境の提供のために細心の注意を払っている。それでも防ぎきれない現状があり、ヒヤリハットの中で最も多いのが転倒転落である。積極的なチーム活動と病棟では転倒転落カンファレンスを行い、患者の尊厳と安全を守る視点でその人に合ったケアを導き出し、スタッフの意識変化が身体拘束件数の減少に繋がっている。看護部のすべてのヒヤリハット事例は、毎月の管理委員会でも再発防止対策について検討を行っているが、防ぎきれない場合も多い。スタッフ皆で知恵を出し合い転倒しても骨折に至らないような工夫をし、安全で質の高い看護の提供ができるようハード面とソフト面の両面から検討を行なっていきたい。

- 2) 自ら学びやりがいを見つけ成長し続けよう

看護協会が推奨しているクリニカルラダーの導入を行って4年が経過した。教育委員会が中心となって、学研ナースニングサポートを有効に活用した学習体制を整えている。クリニカルラダーレベルⅡ・Ⅲは、正規職員全員が申請し課題に取り組んでもらっている里山ナース院内認定制度は、2019年6月に「SUPER」レベルを28名が申請し2020年3月

5 日には飛騨市長が来院されての修了式を終えた。2020 年度は「HYPER」レベルに 23 名が申請し 5 分野（慢性期・急性期・終末期・在宅看護・地域理解）それぞれ個人が研修計画を立て受講し自己研鑽を積んできた。これらの制度の導入は、看護部全体が継続して学習する雰囲気に繋がっており、頑張っていることを可視化し次のステージに向けてのモチベーションアップに繋がっている。2022 年度は「SUPER」レベル 2 名、「HYPER」レベル 7 名が修了した。

3) 対話を大切にお互いを尊重し合う職場をつくろう

人事評価の機会を活用し各部署の部署長とスタッフと目標面談を丁寧に行いながら、スタッフ個々の強みを活かす事ができるように情報共有を行っている。また、看護部長個人面談を行い問題・課題への早期対応ができる開かれた看護部を目指している。

4) 自分事として有事に備えよう

災害対策委員会主催の病院全体災害訓練や各部署でも有事に備えた活動を行っている。病院としてチームをつくり定期的に災害訓練を実施している。3 名の災害支援ナースは災害訓練に積極的に参画し病院全体の士気を高めている。

5) 患者・家族の生活に寄り添い地域に目を向けよう

地域連携室と病棟看護師が連携し、家族背景など個別性を重要視した退院支援を実施している。病棟看護師がさらに具体的に退院後の生活のイメージができるよう、退院前訪問や退院後訪問を積極的に実施できる体制を構築したい。

6) 看護の立場で経営に参画しよう

看護師も病院経営を意識し参画することが大切であるため、この目標を掲げている。看護師も加算取得や病床利用率など経営に対する意識向上につながってきていることを実感する。「看護必要度」は入院基本料に関係するため、記録委員会が中心となってチェックを行っている。「認知症患者ケア加算」は、対応力とケアの質向上を目的として担当チームが中心となり活動している。新たな加算取得はケアの質向上への追い風となるため、今後も加算取得に向けた検討を行いたい。

5. 総括

2022 年度は、主任 2 名が昇格し各病棟に新主任が配置となった。主任 1 名は「認定看護管理者教育課程ファーストレベル」を修了した。今後も継続的に看護管理者教育課程を受講してもらい、マネジメントを学んで看護部活性化に向けて活躍してもらえることを期待している。

コロナウイルス感染症に対しての対応では、外来スタッフと総合（外来・透析・内視鏡）看護師が協力し合って新型コロナウイルスワクチン接種と通常外来受診、発熱外来を平行してスムーズに運用できるように工夫している。病棟では、感染ワーキングチームが中心となり安心して感染者の受け入れができるように設備などを整えてもらった。チームメン

バーが丸となって当院の役割を理解し、地域貢献できていることに大変感謝している。

「たんたかひだ会議」は、たんぼぼ苑・たかはら介護医療院・飛騨市民病院の職員同士の連携と理解を深めるため、令和2年9月30日より開始している。目的は、患者（入居者・利用者）さんにとって、その人が望む場所でその人らしく人生を送れるようそれぞれの施設の特徴を活かし支援することである。奇数月に幹部会議を開催し、施設運営などについて情報共有を行っている。偶数月に症例検討を中心にした会議は、令和4年6月9日に顔合わせを行い令和4年8月4日から実際の困難症例などの検討を行っている。

人材育成では、頑張っている看護師の活動を可視化できるよう工夫している。看護協会が推奨するクリニカルラダーに加え「里山ナース院内認定制度」を導入して4年が経過した。岐阜県看護協会が主催する研修のZOOM研修体制が整い順調に研修受講ができています。里山ナース院内認定制度の『里山ナース』は、令和4年5月6日登録日として商標登録された。

人材確保対策は、2019年より「オープンホスピタル」、2020年中部学院大学看護学科の実習受け入れは間近になって新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、2021年度より継続して実施している。ホームページ更新、看護師採用DVD活用、看護職員採用パンフレット・チラシ内容の更新、就職サイトでの職員紹介や就職フェアへの参加、飛騨市の地域包括ケア課と連携しながら検討を行っている。

これらの取り組みの成果で2022年度に新卒1名の就職につながった。新人教育体制プログラムの見直しを行って活用しているが、今後もさらに更新を行っていく必要がある。2022年度「岐阜県保健師助産師看護師実習指導者講習会」にスタッフ1名が受講し無事修了しているため、今後の活躍を期待している。

スタッフ同志が協力して毎週金曜日15時30分より30分間の院内デイケアを継続しているが、病院を守る会の方々にもご支援をいただいている。療養病棟での食事介助にも入っていただきケアの負担軽減と、社会の風が入る意味で患者さんも楽しみにしてみえる。住民の方々とスタッフが顔の見える関係性を築く良い機会であるため、しっかり感謝の気持ちを伝え地域に寄り添い愛し愛される病院に繋がる機会として大切にしていきたい。人は財産であるので、ひとり一人を大切に遣り甲斐をもって働ける環境、やりがい合いながらの休暇取得しやすい雰囲気、安全で安心な看護の提供のための学習の継続、少しゆとりを持ってケアにあたれるような人材確保、さらには先を見据えた地域の医療を守ることができる魅力的な組織の維持・向上に向けて今後もスタッフと共に創り上げていきたい。

●看護部教育委員会

1. 目標

- 1) 看護専門職としての自覚を持ち、論理的思考と正確な看護技術を身に着けるため、研修会や看護部会の参加を支援する。
- 2) 新職員（特に新卒採用者）が安心して良い指導を受けられるようバックアップする。

2. 活動報告・成果

1) クリニカルラダーⅠ：1名課程修了

クリニカルラダーⅡ：1名課題終了

クリニカルラダーⅢ：17名課題終了 *各レベル課題修了者には看護部長より認定証交付済み

引き続き次年度継続していく。新たにクリニカルラダーⅣ開始予定

2) 看護部会開催 (奇数月開催 今年度5回/年) 平均参加率 94.6 %

3) クリニカルラダーⅠ・Ⅱ・Ⅲ対象院内研修開催

①医師による院内研修：救急患者対応について 講師 島田医師

②医師による院内研修：嚥下強化入院について 講師 工藤医師

③看護師による院内研修：感染対策チーム 手指衛生・PPE 着脱訓練 講師 感染チーム

④看護師による院内研修：緩和ケア委員会 STAS-Jについて 講師 下萩看護師

⑤(院内研修(看護部会)中止)

4) 岐阜県看護協会研修参加支援

今年度は出張での研修を1人1研修とし、復命書を提出。自己研鑽としての研修は各自が申請し参加。今年度はZOOMに加え、会場での研修も増えた。

5) オンデマンド研修視聴

今年度から学研ナースिंगサポートへ変更。12回/年を必須項目とし、平均視聴率 91.6%であった。期日内に視聴できていない対象者にはワークシートなどの課題を提出してもらった。推奨項目10回/年の視聴率は低く、来年度も声がけなど継続する必要あり。

6) 中部学院大学看護学部統合実習受け入れ

実習学生：3名 期間：8月9日～8月12日

前年度に引き続き2年目の実習受け入れとなり、スタッフ全員が学生実習に対して意識を高め、対応出来た。

7) クリニカルラダーⅣ研修内容検討

当院にあった内容となるよう検討を重ね、新たに作り上げることができた。

8) 新人看護職員研修プログラム見直し

今年度の新人指導担当者の意見をききながら、前年度の研修プログラムを見直した。来年度の新卒採用者用のプログラムは新人指導担当者が中心となって作成し見直し中である。

9) 基準手順

既存の基準手順ファイルを破棄し、学研ナースिंगサポートのファイルを作成し1病棟と2病棟に置いた。膨大な量となるため時間がかかるが随時見直し中である。

10) 看護補助者研修

オンデマンド視聴研修を対象者全員できた。

3. 統括

今年度もクリニカルラダーの管理を中心に活動を行った。学研ナースिंगサポートのオンデマンドに変更となり、新鮮な気持ちで学習に取り組むことができたように思う。また2年に渡り検討してきたクリニカルラダーⅣの内容を完成することができ安堵した。次年度はラダー

IVの進行や管理に力を注ぎたい。

新人看護職員研修プログラムについては実際に現場に関わった新人指導担当者の意見をききながら見直しを行っていった。次年度も2人の新人が1病棟に配属となり、プリセプター、アソシエイトナースだけでなくスタッフ全員で育てる風土作りを実践していく。また、学研ナーシングサポートをうまく利用し、皆が気軽に学べる環境体制の構築を行う。

●看護記録委員会

1. 活動目標

- 1) 看護記録を充実させ、看護行為に繋がる記録を目指す。
 - ① 看護記録監査を継続する。
 - ② 看護行為との繋がりを意識して統合アセスメント・看護診断・SOAPのチェックを行い、結果をフィードバックする。
看護診断についてはデータベースと連動しているかチェックを行う。
- 2) 看護サマリーを充実させ、地域連携に役立つ看護サマリーの提供を目指す。
 - ① 地域連携を意識して看護サマリーのチェックを行い、フィードバックする。
- 3) 必要度評価の精度を上げ、該当患者割合一般病床は18%以上、地域包括病床は12%以上を維持する。
 - ① 看護必要度チェック及び監査を継続し、精度を上げる。
 - ② 院内必要度研修を計画・実施する（年1回）。

2. 成果

- 1) ① 病棟看護師を対象に前期、後期の2回に分け看護記録監査を実施した。昨年度見直しを行った看護記録監査表を用いて自己監査の後、委員による監査を実施し、結果を本人へフィードバックした。
 - ② データベース内の統合アセスメント・看護診断・SOAPでの記録についてそれぞれ2ヶ月間の強化月間を設け委員により項目に沿ったチェックを実施した。結果は委員会でもちより総評にまとめ翌月にはスタッフへフィードバックした。看護診断についてはデータベースから導き出されているかに重点を置きチェックを実施した。
- 2) ① 看護サマリーの強化月間を設け、委員によりチェックを行い、結果をスタッフにフィードバックした。医療的専門用語や略語を使用せず誰がみてもわかる看護サマリーとなるように、中でも日常生活欄については具体的な介助内容や方法がわかるように記載できているかをチェックし地域連携へ繋げた。
- 3) ① 委員及び看護必要度指導者研修終了者により毎日の必要度記録チェックと毎月の必要度監査を実施した。
チェック用紙を用いて不備がある時は個人へフィードバックし正しく修正がされているかを確認した。

- ② 11月の看護部会にて病棟看護師を対象に、院内必要度研修を実施した。

3. 総括

前年度より1人少なく5人でのスタートとなった。重症度・医療・看護必要度では2年毎の法改正もあり評価対象者が減少した。厳しい状況ではあったが急性期一般院基本料を5→4へワンランクアップすることができ約240万円の増収見込みとなった。これは委員および病棟スタッフによる日々の徹底した記録チェックの成果である。また日頃看護必要度割合が高かったことによって1月のコロナクラスターによる看護必要度割合の落ち込みにも耐えることができた。今年度は意図的に多くの病棟スタッフにチェックメンバーとして協力を頂いた。これはチェック者の負担軽減と参加し意識づけすることで記録の精度が向上することを狙いとしたものである。委員会としては新たに書面開催を取り入れ、集会によるコロナ感染予防、時間外削減など病院経営にも参画することができた。

●認知症・せん妄チーム

1. 活動目標

認知症・せん妄患者に対してより良い看護の提供にむけて取り組む

- 1) せん妄ハイリスク患者ケア加算・認知症ケア加算3について
- 2) 身体拘束・転倒転落予防カンファレンス
- 3) せん妄対策・薬剤について
- 4) 転倒転落

2. 活動内容・成果

- 1) せん妄ハイリスク患者ケア加算・認知症ケア加算3について取得継続している。

継続して所得できるよう、メンバーによる監査を継続している。

認知症高齢者の日常生活自立度判定について、それぞれ判断があり、統一して判断が行えるよう勉強会を開催し、身体拘束を行う際の手順等についての説明を病棟会議等で繰り返し行うなど、慣れない加算取得に対してフォローできるよう取り組んできた。また、10月には病院全体で認知症に対する勉強会の案内を出し、オンデマンド視聴による研修を行うことができた。

- 2) 身体拘束・転倒転落予防カンファレンス

1 病棟では毎週火曜日にせん妄・認知症カンファレンスを行っており、そこで転倒転落リスクや事故の危険がある患者さんの話し合いも行い、対策を話し合うことができた。カンファレンスが毎週継続でき、定着できたことが良かった。カンファレンスの患者リストアップや記録のチェックなどもメンバーで行った。

2 病棟では毎週火曜日に身体拘束カンファレンスを実施し、解除に向けての話し合いを行うことができた。

3) せん妄対策・薬剤について

高齢化率の高い高原郷地域では、病院への入院という環境の変化や身体の状態や治療によりせん妄となる患者が多く、安全に治療や療養生活が送れるようせん妄対策が課題となっている。そこで急なせん妄に対応できるよう「薬剤選択フローチャート」を作成し使用できないか検討している。医局や薬局と協力しながら、当院でフローチャートが使用できるよう検討中である。

認知症やせん妄患者の対応に苦慮した時には、須田病院の垣内無一先生に ZOOM で相談し、助言をいただくことができた。また、対応困難な時には転院するなど、他病院とのつながりをもつことができた。

4) 転倒転落

転倒転落予防のため、当院での事例を参考にして、どのような対策が行えるか検討したが、なかなか驚くような意見はせず、効果的な話合いが難しかった。

今年度認知症せん妄チームと転倒転落チームが合併したことで、方向性が曖昧となった。来年度は認知症せん妄患者の事故防止対策の1つとしての転倒転落として検討できたら良い。

3. 総括

認知症・せん妄患者に対してより良い看護の提供にむけての、加算の取得やカンファレンス・フローチャートの作成や転倒転落対策について検討することができた。高原郷地域の人口の高齢化が進む中、高齢者にとっての体調不良や治療、入院という環境の変化によって、本人が望まないような（せん妄やBPSD）症状が出た時に、本人はもちろん家族にとって安心して入院生活が送れるような病院を目指して取り組んでいく必要がある。コロナ禍であり家族との面会が行えず、不安を感じる患者もあると思うが、安全に治療が行えるよう、また安全に療養生活が送れるよう取り組みを継続していきたい。

●第1病棟

1. 病棟目標

1) 看護の立場で経営に参画する。

①病床利用率の向上

- ・一般病床＋地域包括ケア病床（75%）
- ・地域包括ケア病床（90%）
- ・在宅復帰率（80%）
- ・自宅からの受け入れ率（包括：20%）：3ヶ月で9人

②診療単価の向上（看護必要度）

- ・一般病床（18%）
- ・地域包括ケア病床（12%）

③認知症ケア加算の増収

2) 患者・家族に寄り添い安全で思いやりのある看護の提供

- ①認知症高齢者の転倒・転落予防と尊厳を守る看護の提供
 - ・身体拘束・認知症・せん妄カンファレンスの実施
- ②転倒・転落による医療事故（3b 以上）の発生件数の減少。
- ③専門知識高める看護・介護水準の向上
 - ・新人教育（プリセプターシップ制度の導入）
 - ・クリニカルラダー、里山認定ナースの取得
 - ・院内外研修の推奨
- 3) 相手を敬い尊重しあう職場をつくる
 - ①積極的な委員会・ワーキンググループ活動による「ちょこっと改善」
 - ②看護・介護の効率的な業務の推進
 - ③年休の法的取得日数（5 日）＋夏期休暇（3 日）の完全取得

2. 成果

1) 看護の立場で経営に参画する。

病床利用率：一般病床＋地域包括ケア病床	目標 75% → 結果 73%
地域包括ケア病床	目標 90% → 結果 78%
在宅復帰率	目標 80% → 結果 82%
自宅からの受け入れ率	目標 20% → 結果 26%
診療単価の向上：看護必要度（一般病床）	目標 18% → 結果 19.8%
〃（地域包括ケア病床）	目標 12% → 結果 25.7%
認知症ケア加算取得	→ 232,752 円 → 結果 1,386,280 円

病床利用率は、一般病床、地域包括ケア病床共に目標を下回る結果となった。これは、令和 4 年 1 月中旬から 2 月中旬まで、新型コロナウイルス感染症患者によるクラスターが発生した事が大きな原因と考える。そのため、PPE の正しい着脱方法の周知徹底と、感染委員会と協力しマニュアルの見直しを行った。認知症ケア加算 3 の取得を維持する為、看護計画や看護記録の充実を図り、前年度の約 6 倍の収益をあげることができた。

2) 患者・家族に寄り添い安全で思いやりのある看護の提供

- ①認知症高齢者の転倒・転落予防と尊厳を守る看護の提供
 - ・認知症・せん妄カンファレンスの充実（転倒・転落・身体抑制：週 1 回）
- ②転倒・転落による医療事故 5 件 → 1 件に減少
- ③専門知識を高め看護・介護水準の向上
 - ・新人教育（プリセプターシップ制度の導入）により新人 1 名が目標を達成できた。
 - ・クリニカルラダーは申請者全員が合格し里山認定ナースは 4 名取得した。
 - ・院内外研修の推奨 → 院外研修はオンライン研修により多数参加した。
 - ・院内デイケア開催（週 1 回）

毎週金曜日に季節の催し物を取り入れた院内デイを実施したことで、在宅での生活に少しでも近づく事ができ、楽しみながら治療を行う事につながったと考える。
クリスマス会では、ボランティアを含む多くのスタッフの協力を得て開催する事が

できた。患者からは「楽しかった」という声が多く聞かれたため、今後は、夏に納涼祭も取り入れながら更に喜んでいただけるよう継続していきたい。

3) 相手を敬い尊重しあう職場をつくる

①積極的な委員会・ワーキンググループ活動による「ちょこっと改善」

委員会に積極的に参加し、それぞれの活動内容を病棟会議で報告したり、休憩室の掲示板に提示するなど工夫しながら他のスタッフへの情報共有に努めた。

②看護・介護の効率的な業務の推進

業務改善チームと協力し、看護師、会計年度任用職員、看護補助の業務内容を見直した。夜勤看護師の業務の一部を日勤帯や他の職種に振り分けた。

③年休の法的取得日数（5日）＋夏期休暇（3日）の完全取得

夏期休暇は全員3日取得、年休休暇は平均6日取得できた。

3. 今年度の看護研究

テーマ：「家族とともに行う環境調整 ～せん妄予防、ケアの観点から～」

担当：南下夏美・大坂高子・神田敏子

せん妄予防ケアとして、環境調整に焦点をあてた看護を実践した。看護部として環境調整の重要性を認識し、家族と協調して患者の日常生活に近い環境にと整えることがせん妄予防とケアに繋がった。

4. 総括

今年度も委員会やワーキンググループを中心に、感染対策・転倒転落対策・災害対策・業務改善に積極的に取り組み、大きな成果を出すことが出来た。また、病棟主任やプリセプターを中心に新人教育にも取り組み、1年目の看護師としての目標を達成する事が出来たと考える。

次年度は更に新人職員が入ることが決まり、パートナーシップナーシングの導入に向けてシミュレーションを行い看護水準の向上に努めていきたい。

●第2病棟

1. 病棟目標

1) 看護の立場で経営に参画

- ① 入院患者の向上
- ② コスト意識をもつ

2) 質の高い看護の提供

- ① 看護水準の向上
- ② 思いやりの心をもつ

- 3) 安心して働きやすい職場環境
- ① オン・オフつけて健康に
 - ② 互いを認め合う

2. 病棟目標に対する成果

- 1) 安定したレスパイト入院がなく在宅やその他施設へ移行する方も少なく在宅復帰率、病床回転率とも安定して取得できない状況となり、後期は入院患者数を確保し、病床利用率の向上に努めた。自宅退院が少ない中、在宅療養に向かう場合もあり退院後訪問へ2件訪問した。コスト意識を持つために電子カルテ新版になってから抜けやすいコストや処置、記録のチェックしコスト漏れの動向などを医事スタッフと確認し、よりわかりやすく実施につなげられるようコストノートの作成を行い、病棟内でコスト意識に努め漏れの数も減少した。医事スタッフが病棟内に配属となり確認がその場で出来る事でスタッフ周知が行えたと考える。
- 2) 安全で質の高い看護の提供では、入院中の疾患や病態、スキンケア、在宅療養についての勉強会を病棟会議でおこなった。小テストや実際の症例からケアの具体例を上げより実践に近いものであり、早速実践している姿から知識の向上につながったと考える。

里山ナース2ndや教育ラダーの継続は個人面談で目標に挙げる事で参加も増えた。また自己研鑽では自分の得意分野や知識を付けたい分野など自分を分析した学習に向かって取り組んでいた。他者のポイント獲得やご褒美のスクラブに影響を受けており良い刺激であったと考える。

今年度は研究テーマとして患者さんの思いに寄り添い、その人らしく過せるよう尊厳ある看護について研究を行った。病棟で学習していく中でロールプレイでは、自分ごととして考えることや、実際の場面で戸惑ったのでじっくり係わる事や、思いやりを持って係わること、患者との対話に意識をしたスタッフもあった。ACPを看護に活かす必要性を理解できていると考える。

- 3) 様々な働き方、年齢、背景などを互いに理解できるよう感謝の気持ちを言葉にして伝え合うことや業務改善チームでは人材背景に応じた業務への見直しを重ねていった。完全に希望通りの勤務希望ではなかったが、人員配置のなか譲りあいしっかり休暇が取れるよう互いに声に出して休暇取得へ取り組んだ。スタッフが一同にそろうことが少ない部署でありカンファレンスなどは多くの意見を求める事ができないため、その場にいる意見が反映することが多い。互いの意見の相違など行き違いもあり、文章にして残すこと、正しく伝え正しく聞き取ることなど今後の課題もある。

3. 今年度の研究

テーマ：「ACP その人らしさを大切にする看護を目指して」

担当：松葉明美・下方幸子

療養中の患者の思いを聞きケアにつなげ、尊厳ある看護について研究した。今後も患者がその人らしく生きられるようにACPへの理解を深めていけるよう、定期的に勉強会を行って行きたい。

4. 総括

今年度は、スタッフ同士学ぶ環境をつくり学びを活かすことを部署方針に挙げた。毎月の勉強会を二人ペアの担当制とし、病棟内で知って欲しい事や情報提供を行い自分の学びを広げる工夫を行った。興味深い部分を掘り下げて資料にするなど自分もスタッフも学べる環境を作れたと考える。直ぐにその情報を活用したケアや看護を行う姿から、互いを認め合った組織目標にもリンクした。少人数だからこそ、一人ひとりの力を発揮でき目標に向かえたと考える。

●外来

1 外来・総合看護目標

1) 看護ケアの質の向上に努める

- ①相手の立場や思いに寄り添い、看護の視点で関わりを持つ
- ②研修などへの積極的な参加

2) 看護の立場で経営に参画しよう

- ①整理整頓し不要なものは減らし、コスト削減に努める
- ②他職種と連携し加算の増加に向けて意識する

3) 魅力のある職場づくり

- ①他職種との連携・コミュニケーションを図り協力体制の強化

2 活動

1) 災害訓練

目的：昨年度の訓練の流れを参考に問題点がないか確認し、当院の「電子カルテのシステムダウン時の運用マニュアル」を完成させる。

①電子カルテのシステムダウン時の紙カルテ運用

12月9日（金）17：30～18：30 参加者：42名

電子カルテシステムダウン時の外来診療対応（紙カルテ運用）を医師、外来看護師、コメディカル（放射線技師・薬剤師・検査技師）・受付・管理課と協力して実施した。

3ブースに分かれ、模擬患者と実際の患者を設定して受付～会計までの流れを訓練した。終了時はそれぞれ（患者役とスタッフ役）にアンケートを実施した。

アンケート結果

訓練の狙いはどの程度達成できたか？

とてもできた：0% まあできた：45% ややできなかった：50% できなかった：5%

②外来看護師のみで電子カルテシステムダウン時の紙カルテ運用訓練実施

2月21日（火） 参加者 9人

2月22日（水） 参加者 6人

2月24日（金） 参加者 7人

12月の訓練時の反省を踏まえて3回に分けて実施した。看護師がペアになり医師役と看護師役に分かれて一通りの流れを行った。複雑な訓練内容ではなく基礎となる内容として訓練した。

基礎となるマニュアルを作成した 課題→マニュアルをフローチャート式を検討

2) 月間目標

月ごとに外来目標を朝礼で発表した (4月～3月)

4月 情報共有しながら事故のないよう取り組む

5月 私語を慎む

6月 5月と同様

7月 病院経営を意識する

8月 コミュニケーションを大切にする

9月 情報共有・ヒューマンエラーをおこさない

10月 体調管理に気をつける

11月 10月同様

12月 環境を整える (床が濡れていたなら拭く、椅子の位置、サーキュレーター位置)

1・2・3月 まごころキャンペーン 言葉づかい・態度・表情に気をつけて対応する

3) ヒヤリ・ハット報告

転倒 (1) 件

椅子に足を引っかけてよろけるように転倒した 骨折はなく経過観察

4) 発熱外来対応 14時～16時

受付後、ピロティーにてドライブスルー形式でコロナ抗原検査 (時期によってインフルエンザ検査も実施) を実施した。

3 総括

外来+総合看護スタッフ 14人体制に 10月から総合 (透析中心勤務) に霜出が加わり 15人体制となった。総合スタッフ (宮本・植野・横井・本田・岡田) によって内視鏡と透析室の運用を行っている。外来では、勤務するスタッフ数によって 1人の看護師が 2～3人の医師の診療についたり、処置室に 2人看護師を配置するなど業務改善をして外来運用がスムーズにいくよう工夫した。

昨年度に続き、コロナ対応やワクチン接種対応には人員がとられ昼休憩がしっかりとれない中、協力しながら乗り越えてきた。ホスピタリティーでは、環境整備として、掲示物の整理整頓、処置室の枕とベットの交換を行い体調不良の患者が少しでも楽に休めるような環境を提供できた。また、患者への接遇もまごころキャンペーンをもとに皆で考え対応した。外来は、豊かな経験を持つスタッフで構成されているという強みを持ち、スタッフ同士が協力し支え合いプロフェッショナルの側面を十分発揮して業務を遂行できている。

●手術室

1. 目標

看護部目標に準ずる (手術室として立案しておらず)

2. 成果

1) 手術・検査依頼に柔軟に対応する

スタッフ2人体制継続。(人事異動により1人スタッフ交代)

新規スタッフの育成に重点をおきながら、検査・手術件数に対応した。

手術：14件(－10件) 上部内視鏡：1371件(+94件) 下部内視鏡：223件(+5件)

ERCP：0件(－3件)

前年度と比べERCP・手術共に件数が減少したが、上部・下部内視鏡検査は増加した。緊急の内視鏡やその他の処置には柔軟に対応でき業務は円滑に遂行した。

2) 上部内視鏡検査を受ける患者の満足度の向上

当日の上部内視鏡検査の予定件数を表示し、検査を待つ患者様の気持ちの緩和に努めた。上部内視鏡看護マニュアルを作成し、どのスタッフでも同じように患者様の対応・声けができるようにした。

上記2項目施行前後に患者様にアンケートを実施した。

待ち時間が短かったと感じた人 実施前比 14%増加

待ち時間が長かったと感じた人 実施前比 16%減少

検査がよかったと感じた人 実施前比 21%減少

3) 外来・病棟・透析との連携を図る

病院の目標である働き方改革の一貫として、病棟、外来、透析室との連携を図りそれぞれの業務支援を行い、人員不足の解消を補うことができた。臨床工学師が昨年3名から本年4名に増員となった。

他病院の内視鏡室では臨床工学師もスタッフの一員として配属されている所もあり、本院も臨床工学師の内視鏡室へのタスクシフティングを試みてみた。しかし、臨床工学師学会より、内視鏡での咽頭麻酔の手技は禁止されており、当病院ではかえって他スタッフに負担がかかることがわかり、臨床工学師の内視鏡室タスクシフティングは断念せざるを得なかった。

3. 総括

手術件数が減少し本来の業務が出来ない現状であるが、内視鏡業務は柔軟に対応し、上部・下部内視鏡件数は昨年度に比べ増加した。また、他部署との連携を図ることで業務が円滑に遂行し、スタッフの仕事への負担の軽減に繋がった。

手術や検査は患者にとってとても不安であり苦痛も伴う。その中で接遇の強化ができ、満足度の高評価を得たことはスタッフにとって強みとなった。今後もより良いサービスを提供できるよう自己研鑽はもちろん新人の教育にも力を入れていく。

●透析室

1. 目標

1) 経営

- ①安全が確保できる上での患者受け入れ
- ②オーバーホールは必要最低限とし、近い将来現在よりコスパの優れた機種を導入も相談していきたい保守点検の見直し

2) 医療

- ①透析効率管理表を作成し、患者指導に活用する
- ②今年もレベル3以上を起こさない事を目標とする

3) 組織

- ①タスクシフティングの継続
- ②透析室新スタッフの透析業務教育

2. 評価

1) 新機種の導入

2) 達成（毎月算出し、随時指導）

3) タスクシフティングは今後も継続

3. 総括

- 1) 透析室としては、今後とも患者さんへの透析業務に支障のない範囲でできる限り受け入れる方針。
- 2) 今後ともレベルⅢ以上を起こさない
- 3) 今後もタスクシフティングは継続

●地域連携室

1. 目標

- 1) 院内外を問わず、スムーズな連携と気配りを意識した患者対応に努める。
- 2) 看護の立場で経営に参画する。
- 3) 学ぶ意識を継続する。

2. 成果

- 1) スムーズな連携を意識し、昨年度に引き続き入退院支援の強化に取り組んだ。昨年同様、基本的に面会禁止の状況は変わらず、主治医からはご家族に対し病状についての説明はされているが、ご家族としては元気になったというイメージがつきにくい状況が続いていたため、リハビリスタッフに協力してもらいリハビリの様子など動画にとり来院された際に確認していただいたり、頑張っている様子を伝え、退院後の生活がイメージできるようすすめた。同様にケアマネジャーに対しても、ADL 状況など動画にて伝え、ご家族の不安に対

応してもらえよう情報共有した。退院支援にむけ昨年度は病棟スタッフとの連携強化に取り組んだが、今年度は動画を積極的に利用することで、リハビリスタッフやケアマネジャーとの連携強化に繋がったと考える。気配りに関しては、地域の中での1部署であることを意識し在宅スタッフとの関係性の構築に努めるとともに、患者様やご家族に対しても、言葉使いだけでなく、心のこもった声かけや対応となることを意識した。そんな中、アンケート葉書にて好意的なご意見をいただけたことはとても励みとなった。

- 2) 経営面では、「入退院支援加算」を継続できたことは成果である。施設基準である近隣施設との連携強化はコロナ禍では困難な面もあったが、オンラインの活用もスムーズとなり算定基準を維持することができた。具体的な算定件数に関しては、コロナ感染症によるクラスター発生の影響もありやや目標値を下回ったが、算定に繋がる流れに関しては整えることができたと考える。地域包括ケア病床の安定的な運用に関しても目標値を下回る結果となった。その要因としてはコロナ感染症によるクラスター発生も大きい、入院患者の高齢化に伴い、せん妄や転倒・転落への対応の影響も大きく今後の課題と考える。
- 3) 学ぶ意識の継続に関しては、クリニカルラダー・里山ラダーとも積極的に参加し、今年度里山ラダー2ndに1名合格した。社会福祉士も認知症初期集中支援や退院支援などの研修に参加し、日々の業務への幅が広がったと考える。

3. 総括

とにかく日々慌ただしく、院内外との電話対応や面会者との対応などに追われる毎日である。その要因についていくつかのデータから考えた。認知症検査件数は今年度166件/年と令和1年の72件/年の2倍以上となり、同様に介護保険主治医意見書や訪問看護指示書を準備する件数も増加している。また、当院から手術や高度治療目的にて転院となるケースが増えたこともあり、他院からの転院調整の件数もここ3～4年で1.5倍に増加しており、転院目的はリハビリを含めた退院調整のことが多い。この状況は今後もしばらく続くことが予想される中、少ない人員でどう工夫し取り組んでいくか今後の課題である。

●看護部学会発表

【第62回全国国保地域医療学会】

令和4年9月16日（金）～9月17日（土）千葉県 かずさアカデミアホールにて

1) 岐阜県国保地域医療学会最優秀演題

他職種チーム医療で変える周術期ケア ～ERAS導入で患者もスタッフも楽になりました～

○ 稲松絵美 黒木嘉人 小林洋子 大庭のりこ 逢坂ゆきみ 曾根恭子
松葉明美 日比野一輝 洞口拓也 古沢晃也

2) 岐阜県国保地域医療学会優秀演題

療養環境における不快な音の改善 ～患者・看護師の立場より～

○ 曾根恭子 今井晴美 中野亜李紗 後藤弘子 岩崎美幸

3) 演題：「里山ナース院内認定制度」でイノベーションへの挑戦

○ 岩崎美幸 宮腰結衣 中野亜李紗 荒家千夏 逢坂ゆきみ 豊坂梨緒
佐藤直樹 黒木嘉人

●表彰

【第 27 回岐阜県国保地域医療学会】

令和 4 年 11 月 19 日（土）飛騨市文化交流センターにて

（口演発表）

1) 優秀演題：「院内デイケアで入院生活を活性化する～見えてきた成果と今後の課題～」

○ 大庭のりこ 橋本留美子 稲松絵美 溝口香津恵 曾根恭子 大坂高子
宮腰結衣 山端美奈子 山越美佳 今井亮貴 井本愛李 谷口敬康

（ポスター発表）

2) 最優秀演題：「魅力ある里山ナース院内認定制度について」

○ 宮腰結衣 中野亜李紗 荒家千夏 岩崎美幸 洞口拓也 谷口敬康
巢之内大輔 豊坂梨緒 佐藤直樹

3) 優秀演題：患者情報の共有化 ～ピクトグラムで可視化して～

○ 橋本留美子 清水佳菜子 荒井仁美 後藤弘子 岩崎美幸

4) 演題：その人らしくを支える退院支援をめざして

○ 星合紀美子 西本明子 逢坂ゆきみ 荒家千夏 岩崎美幸

●看護部研修会

【岐阜県看護協会研修】

開催日	参加者	テーマ（内容）	場所
2022. 5～ 7	大庭のりこ	看護管理者研修 ファーストレベル	協会
2022. 6	畠山 奎	新人看護職員教育事業プログラム	
2022. 7. 8	坂腰 朋子 清水佳菜子	循環のアセスメント（病院・初級編）	WEB 開催
2022. 7. 30	箕成 史恵	2040 年に働く看護師のために	WEB 開催
2022. 8. 25	溝口香津恵	聴き方、伝え方、信頼関係づくり	WEB 開催

2022. 8. 31	南下 夏美	看護研究 今から看護研究を始める人へ	WEB 開催
2022. 9. 22	松葉 明美 下方 幸子	人生の最終段階にある人とのコミュニケーション	協会
2022. 9. 26	大坂 高子	認知症対応力フォローアップ研修	協会
2022. 9. 29	宮本 洋子	在宅・施設で療養する摂食嚥下障害者の看護	WEB 開催
2022. 10. 7	今井 晴美 番 一枝 山越 美佳	高次脳機能障害が見える！	WEB 開催
2022. 10. 12	大門みどり 星合紀美子	エンドオブライフケア	協会
2022. 10. 24	荒家 千夏 橋本留美子	退院支援と退院調整に求められる看護師の役割	ふれあい会館
2022. 10. 25	西本 明子 坂口 友恵	慢性腎臓病患者の保存期から終末期までの関わり	WEB 開催
2022. 11. 4 ～11. 5	稲松 絵美 田口 純子	認知症高齢者の看護実践に必要な知識	WEB 開催
2022. 11. 15	神田 敏子 山越 亜衣 下萩 亮太	慢性疾患患者の療養生活支援（循環器・呼吸器）	WEB 開催
2022. 11. 17	山本 里美	エビデンスに基づいた感染予防対策	WEB 開催
2022. 11. 25	中口 幸恵	医療安全研修 医療とコミュニケーション	WEB 開催
2022. 12. 7	小林 洋子 曾根 恭子 阪上亜由美	看護実践に活かせるスキンケア	WEB 開催
2022. 12. 9	稲松 絵美 田口 純子 中野亜李紗	災害支援ナースフォローアップ研修	協会
2023. 2. 16～2. 17	山端美奈子	糖尿病重症化予防	協会

【看護必要度研修】

開催日	参加者	テーマ（内容）	場所
2022. 6～ 8	今井 晴美 清水佳菜子 山越 美佳 阪上亜由美 畠山 奎	「重症度・医療・看護必要度」評価者及び院内 指導者研修 オンラインセミナー	WEB 開催

■病院管理室

●管理課

1. 医師の招聘

2022年度は、常勤医師は年間を通じて6名（一時的に7名）の体制（常勤医3名、自治医科大学卒業医師（岐阜県派遣）1名、富山大学総合診療部医師1名、松波総合病院からの専攻医1名、枚方公済病院からの専攻医1名（4月から7月の4ヶ月））であった。

非常勤医師は、富山大学附属病院や特定医療法人財団五省会西納病院の協力により26名の応援を得て15診療科の体制を維持したことで、高齢等の理由で遠距離通院ができない住民に対し専門医を受診する機会が提供できた。

「患者を断らない」救急医療体制を維持するために常勤医師は日夜献身的に従事しているが、医療法に定める医師定数が充足していない状況において、富山大学や高山赤十字病院などから外来診療や日当直業務に対し応援をいただいた。また、初期臨床研修医の地域医療研修では、10病院から39名の研修医を受け入れ、延べ1,083日、常勤換算で3.0人相当が実務研修に従事した。これらの外部医師に支えられて、常勤医師の負担を軽減しつつ患者を断らない救急医療体制を維持することができた。

2019年度に参加した国立成育医療研究センターこころの診療部による『子どもの心の診療交換研修』をきっかけに同センターからの後期研修医の受け入れが始まり、4週間の研修で1名を受け入れた。

2012年度から始まった富山大学地域医療支援学講座の学生地域医療実習、岐阜大学地域医療医学センターの医学部医学科地域配属実習では、富山大学から11名、岐阜大学から2名の学生の受け入れを行った。積極的に学生教育に協力することで、大学から必要とされる病院としての存在感を高めていきたい。

2. 看護師、医療技術職の確保

看護師については、看護協会推奨のラダー教育と併せて院内独自の教育カリキュラムとして推進している『里山ナース院内認定制度』の第2段階『HYPER』コースを昨年度に引き続き開講した。新規採用職員を対象とした第1段階の『SUPER』コースも開講し、受講ポイント取得に必要な研修費用について、3万円/人を上限として支援した。また、昨年度に引き続き中部学院大学の看護実習生について4名の受け入れを行っている。

看護師の確保に関しては、正規職員を3名採用したが、5名の退職者があったため、全体の人員は減少した。

医療技術職については、薬剤師1名が定年により退職し、臨床工学技士は1名の採用と1名の退職があった。

3. 経営の健全化

病院の経営状況を職員が情報共有し把握できるよう毎月の代表者会議で報告を行っている。

4. 請求事務

レセプトの査定がより厳格化されているため、点検業務に時間を要することが増えている。また、週 1 回勤務の非常勤医師の診療が多いことから、病名やコメントの内容確認に手間取ることがあるが、業務手順の見直しや改善により時間外勤務時間は年々抑制傾向となっている。

5. 診療材料等の管理

院内 SPD システムのバーコード管理により、適正な在庫管理を実施し、期限切れや未使用品の減少に努めている。また、類似品の同一規格化についても、発注段階で確認するように改善している。さらに年に 3 回の棚卸し時には、各部署の SPD 委員にも協力してもらい取扱数量や不用在庫等がないかを確認し、コストの削減に努めた。

6. 未収金対策

未収金リストを整備し、督促記録、督促を定期的に行った。

また、未納者との入金日の約束、約束日前日の確認電話、入金日の訪問等の業務を行うことにより、継続して未収金の減少に努めている。さらには、未納者それぞれの生活や家庭環境に配慮し、必要に応じて分納を認めることで滞納金の回収に努めた。

7. 設備管理

院内設備の安全使用のための維持管理を委託業者に依頼して実施した。

定期的に設備の点検を実施し、故障前段階での異常発見に努めた。

8. 健診業務

協会けんぽの健診や事業所の健康診断を積極的に受託した。

9. 高山市との関係強化

当院の診療圏が、旧神岡町・旧上宝村であることから、高山市上宝支所長、上宝町および奥飛騨温泉郷の各町内会長へ当院の現状を報告し、病院経営に関してを求めた。

10. 患者満足度調査

12 月 12 日から 23 日までの 12 日間、患者・職員満足度調査を行い、入院患者 36 名、外来患者 275 名、職員 114 名から回答が得られた。外来患者へのアンケートは、今年度も飛騨市民病院を守る会役員の協力により実施された。寄せられた貴重な意見は、今後の病院運営に反映していきたい。

11. 交換研修制度

社会福祉法人神東会と飛騨市との間で行っている職員の交換研修は令和 4 年度も継続され、研修医や学生の受け入れ業務を行う「研修管理センター」の担当として精力的に実務を行った。

総括

病院の管理運営の根幹を担う管理課においては、施設管理、受付・会計、保険請求、経理財務、労務管理等の多種多様な業務の効率化を常に考え、IT 化の推進等を積極的に進めた。

●2022（令和4）年度の決算の概況

1. 総括事項

1) 市民病院の状況

新型コロナウイルスの感染拡大は収まる気配をみせず、第7波、第8波の感染拡大の波により飛騨市内でも多くの感染者が発生した。当院においては、当初から病棟のゾーニングと気流のコントロールによる換気を行い、職員の感染対策を徹底することで院内における感染を最小限に防いできたが、令和5年1月のウイルス蔓延時には院内でクラスターが発生し、入院患者24名、職員10名が感染した。クラスター発生時には新規入院患者と救急車の受け入れを休止し、病棟内の徹底した検査や換気の強化等により院内の感染拡大防止に全力で取り組んだ結果、発生から23日後にクラスターの収束宣言を行うことができた。

当院における新型コロナウイルス対策として、発熱外来を令和2年度から継続して開設している。通常の患者と発熱等の患者の診察を分けて特別な体制での診療を提供し、人の移動の多い連休時期には臨時的な検査も実施した。令和4年度の発熱外来利用者は2,261名であった。

また、新型コロナワクチンの接種について、希望者に対し5回目までの接種の実施に努めた。

常勤医師は、年間を通じて6名（一時的に7名）の体制（常勤医3名、自治医科大学卒業医師：岐阜県派遣1名、富山大学総合診療科派遣医師1名、松波総合病院からの専攻医1名、枚方公済病院からの専攻医1名（4月から7月の4ヶ月））であった。

非常勤医師は、富山大学附属病院や特定医療法人財団五省会西能病院の協力により26名の応援を得て15診療科の体制を維持したことで、高齢等の理由で遠距離通院ができない住民に対し専門医を受診する機会が提供できた。

初期臨床研修医の地域医療研修では、10病院から39名を受け入れ、延べ1,083日、常勤換算で3.0人相当が実務研修に従事した。また、医師免許取得後3年目以降の専攻医を松波総合病院から1年間、枚方公済病院から4ヶ月間という長期で受け入れたことで、救急車受入時の外来診療停滞頻度の減少や救急搬送への同行など、患者サービスの向上と「原則として患者を断らない」救急医療体制を維持しつつ常勤医師の負担軽減を図ることができた。さらには、富山大学附属病院や高山赤十字病院等から日当直医師の応援を得たことで、常勤医師の勤務負担が軽減された。

医療圏域における相互応援事業として、アナフィラキシーショックを起こす可能性のあるハイリスクな小児への食物負荷試験を実施するために、毎週水曜日の高山赤十字病院への小児科医師派遣を継続した。これにより、飛騨医療圏全体の小児医療の向上に大いに貢献できた。

医師確保対策において大学との関係性の構築はたいへん重要であるため、富山大学及び岐阜大学の医学科学生教育等にも積極的に協力した。平成24年度から取り組んでいる神通川プロジェクトとM2地域配属実習は、当院が『大学から求められる病院』となることで将来的な医師の招聘につなげていく事業である。令和4年度は、富山大学の医学

生 10 名 (内 3 ヶ月の長期実習 1 名) に延べ 141 日間 (内 3 ヶ月の長期実習 1 名が 96 日)、岐阜大学の医学生 2 名に延べ 22 日間の研修を実施した。この事業を継続していることで、学生研修受講者が研修医として当院を選択してくれるケースも増えており、将来の勤務医としての就職に期待が膨らんでいる。充実した研修内容に加えて、令和 2 年度に供用開始された研修医住宅が非常に好評で、研修希望者がますます増加する傾向にあり、調整に苦慮する状況となっている。

医学生の研修事業は、これまでに積み上げた実績が大学や参加学生からの高い評価に結びついており、富山大学総合診療科からの常勤医師派遣の継続に結びついていることは大きな成果といえ、今後も重点的に取り組むべき事業である。なお、神通川プロジェクト事業に対しては、岐阜県から地域医療確保事業費補助金として 2,926 千円の交付を受けた。

職員研修においては、令和元年度から実践している『里山ナース院内認定制度』の第 2 段階『HYPER』コースを昨年度に引き続き開講し、受講ポイント取得に必要な研修費用について 3 万円／人を上限として支援した。また新規採用職員等を対象とした第 1 段階の『SUPER』コースも開講した。令和 3 年度に特許庁に申請をしていた『里山ナース』も商標登録が完了し、ブランド化することで看護職員のみならず全職員のモチベーションを高めることができた。

備品の更新では、主なものとして平成 21 年度に導入して 13 年が経過する超電導磁気共鳴画像診断装置 (MRI) と、平成 18 年度に購入して 16 年が経過する人工透析装置の更新を実施した。更新した超電導磁気共鳴画像診断装置は従来機器と比べ短時間での撮影が可能で且つ詳細で鮮明な画像を生成することができ、また人工透析装置は従来機器に比べ患者の体に負担をかけず、且つより多くのろ過をかけることができる透析療法に対応するため、診療の質の向上、及び診療報酬の上乗せが見込める。

収益面では、入院患者数が前年度比で 622 人増加したが 1 人 1 日平均の料金が前年度比で 2,307 円下がっており、入院収益としては 33,881 千円の減となった。外来患者数は前年度比で 3,714 人増加して外来収益は 6,879 千円の増となったが、入院収益の減少が影響し医業収益全体では 29,564 千円の減となった。医業外収益は、当院の巡回診療として実施したまちなか検査センターの費用と電気料高騰に対する費用に対して市から繰入を受けたことで、一般会計繰入金が前年度比で 16,502 千円の増となった。また、令和 3 年度に実施した電子カルテ更新事業に対して国民健康保険調整交付金を 40,000 千円受けたこと等により医業外収益全体で 68,684 千円の増となった。特別利益を含めた事業収益全体では前年度比で 59,121 千円の増となっている。

費用面では、経費において電気料の価格高騰により光熱水費が 13,669 千円の増、LP ガスの高騰により燃料費が 4,070 千円の増、大規模な修繕として GHP 空調室外機の一部を更新したこと等により修繕料が 35,299 千円増となっている。その他、減価償却費や資産減耗費の増なども影響し、事業費用全体では 123,255 千円の増となっている。

結果として事業収支では 33,275 千円の損失を計上した。今後も空調設備や熱源設備の更新等の大規模な修繕による支出が見込まれていることから、厳しい経営状況が続くこ

とが予想される。

2) 介護医療院たかはらの状況

介護医療院たかはらは、令和元年10月から社会福祉法人神東会の指定管理となり、指定管理の基本協定に基づく市側の収支分のみが決算に計上されている。

この結果、令和4年度の決算状況は次のとおりである。

市民病院	当年度未処理欠損金	746,644,698 円
	(繰越欠損金 713,369,627 円、当年度純損失 33,275,071 円)	
たかはら	当年度未処分利益剰余金	227,241,966 円
	(繰越利益剰余金 248,917,458 円、当年度純損失 21,675,492 円)	
事業全体	当年度未処理欠損金	519,402,732 円
	(繰越欠損金 464,452,169 円、当年度純損失 54,950,563 円)	

施設の健全な運営には常勤職員の安定的な雇用が不可欠であるが、全国的な労働者不足を背景に地域医療の担い手となる医療・介護人材の確保が極めて困難な状況は年々深刻さを増している状況である。人材確保については、地域包括ケア課と連携して、施策の充実やあらたな手法の検討等、様々な角度から取り組みの強化を行っていききたい。

また、令和4年度に策定した飛騨市民病院経営強化プランに基づき、持続可能な地域医療提供体制を確保するための経営力の強化と効率化に取り組み、市民に信頼される安全・安心な医療サービスの継続に努力したい。

■ 院内委員会

● 緩和ケアチーム

今年度の目的

【当チームは緩和ケアを必要とする患者とその家族を総合的に支援することを目的とする】

1. 活動目標

- 1) 症状緩和や対応に必要な患者さん・ご家族に対し迅速な対応ができる。
- 2) 効率的かつ、有効活用出来る情報共有のあり方を考える。
- 3) 家族ケアを含めた尊厳を重要視したエンゼルケアの浸透

2. 具体的な実施内容

- 1) 毎月第1火曜日に委員会の開催
- 2) 毎週火曜日 12:50 より、緩和ケアチームカンファレンスの開催
- 3) 毎週金曜日の総カンファレンス時に対象患者さんのカンファレンスの実施

- 4) 緩和ケア新聞の発行（8月、2月）
- 5) グリーフケアとしてお悔やみのハガキを送付（緩和ケア対象とした方のご遺族に対して忌明け後に送付する）
- 6) 家族ケアとして「これからの過ごし方」パンフレットを活用
- 7) 第32回飛騨緩和医療ネットワーク
令和4年6月16日（木）19:00～20:30 ZOOMによるWEB開催
デスカンファレンスのあり方を考える
～死生観・看護観を育む想起シートを活用して～ 大門みどり
- 8) エンゼルケア物品の見直し 浴衣Sサイズ導入した。
- 9) 「STAS-Jとは」緩和ケアにおける評価尺度について
令和4年11月16日 下萩亮太

3. 総括

緩和ケアチームのカンファレンスは毎週火曜日 12:50 から開催している。病棟の緩和委員が対象患者について、プライマリナースや当日の担当ナースからタイムリーな情報がないか確認している。特に、症状緩和で困っていることを主体とした情報を収集し、それらについて多職種（医師、緩和ケア認定看護師、薬剤師、病棟看護師、栄養士、リハビリスタッフ）による検討を行い、患者の症状緩和につながるよう活動している。

「緩和ケア新聞」は、飛騨市、上宝町の住民対象に発行し、飛騨市全域の公共施設へ配布し住民への回覧も継続して行っている。また過去の新聞を当院のホームページにて回覧できるようアップロードを行った。市民の方に「いざという時の緩和ケア」を知ってもらえるよう情報提供に務めている。

グリーフケアが目的のお悔やみハガキの送付は、2014年4月から開始し、亡くなられた時点で登録し、忌明け後に送付している。ご家族からは入院時の思い出のエピソードなど個別の言葉が「嬉しかった」とコメントを頂いている。

飛騨緩和医療ネットワークは久美愛厚生病院が中心となって行っている。飛騨地区の医療機関が協力しており、高山赤十字病院、久美愛厚生病院、飛騨市民病院等で事例の提供を行い検討している。今年度はZOOMでの開催で当院が症例を発表した。毎年、緩和ケアネットワークに参加し学びを深めている。

緩和ケアについて病院内でも知識の向上を深めようと、適切なケア介入のため、STAS-J（日本語版）の入力をおこない、9項目から他者評価を行って緩和ケアの成果と質の高さを客観的に明らかにしている。

一般病棟の取り組みは 緩和ケア対象者に対して STAS-J（日本語版）を使用。評価後、カンファレンスシートに問題点を挙げてカンファレンスで話し合い、ケアの充実を図れるように検討している。

療養病棟では、STAS-J（日本語版）を入力し、その結果をカンファレンスシートに入力し問題点を明らかとして看護介入にしている。死亡退院後、想起シートの記入し、まとめたものを掲示し病棟スタッフへ情報共有を行っている。

今年度は看護部会で STAS-J（日本語版）の勉強会を行った。勉強会後のアンケートを実施しなかったため、今年度は、勉強会に参加してどのように変化したかの意識調査が出来れば

よいと考えている。

金曜日の午後から行なわれる総カンファレンスでは、多職種のスタッフが多く参加し情報共有できる場である。緩和ケアチーム内で行う火曜日のカンファレンスと金曜日の総カンファレンスでは、デスカンファレンスを行っている。患者さんやその家族との関わりの振り返りを行い今後の緩和ケアに活かせるように意見交換をしている。

● 栄養サポートチーム (NST)

1. 目標

- 1) 栄養管理全般：低栄養患者に対し多角的アプローチを行う。
- 2) 完全側臥位法の普及：新入職員研修を継続、院内臥位への普及活動に努める。
 - ：完全側臥位法の診断・治療を確立する
 - ：嚥下強化リハビリ入院クリニカルパスの内容を充実し、件数を増加させる
- 3) 褥瘡管理：院内発生時の症例を検討し対策をまとめる
 - ：スキンケアの予防と処置を強化する

2. 活動内容

毎週月曜日：VE 回診、褥瘡回診
毎週火曜日：歯科衛生士回診
毎週木曜日：VE 回診、2 病棟栄養カンファレンス、褥瘡回診
毎週金曜日：1 病棟栄養カンファレンス
毎月第二火曜日：NST 委員会、歯科医師回診

3. NST 勉強会の開催

5 月：新入職員対象、完全側臥位法実技研修 6 名参加
6 月：第二回飛騨市民病院 NST 主催 開業医向け研修【ZOOM】 約 30 名参加
7 月：嚥下精査・強化リハビリ入院について (看護部会にて) 当院看護師参加
9-10 月：リハ栄養フォーラム 2022 オンデマンド配信
12 月：NST 主催院内勉強会「ケトジェニック Part1」 職員 27 名 コアメンバー 7 名
健和会病院見学 当院から 2 名参加
1 月 NST 主催院内勉強会「ケトジェニック Part2」 同上
2 月：久美愛厚生病院主催地域連携会議 出張レクチャー 79 名参加

4. 嚥下検査

嚥下内視鏡(VE)件数：130 件(前年度 99 件)
嚥下造影(VF)件数：0 件(前年度 3 件)

5. 栄養カンファレンス

1 病棟栄養カンファレンス：43 回/年

※NST 加算：要件を満たせなかったため 0 件

6. 目標達成状況

栄養管理について、NST 加算が算定できなくなり、昨年度までとは違うカンファレンスのあり方が検討された。食事内容の検討や SMART なゴール設定は昨年度と同様に行い、今年度は、各職種より課題とする患者を選定し、栄養管理について多職種で検討しあえる方式へと変更した。結果、一患者あたりの検討時間を昨年度よりも確保でき、栄養補助食品の提供量としては栄養科管理の上限近い量の提供することができた。次年度は、引き続き多職種での検討ができるカンファレンスでありつつ、提供した栄養補助食品を確実に摂取していただく方法などを検討していく必要がある。また、NST 加算の算定が再開できる様、必要となる研修参加も検討したい。

完全側臥位法の普及について、工藤医師の英論文「The Complete Lateral Position Method Reduced the Mortality Rate among Elderly Patients with Severe Dysphagia」が Internal Medicine に掲載された。院内で記者会見を行い、後日新聞等にも掲載されることとなった。完全側臥位法の新入職員への研修はこれまで通り継続された。また、新たな取り組みとして、飛驒地域を中心に当院から積極的に完全側臥位法を発信することで、飛驒地域全体への普及を目指した出張レクチャーが始まった。今年度は、久美愛厚生病院主催の地域連携会議で、久美愛病院の参加スタッフには直接指導を行い、同時に ZOOM で参加した施設関係者にはリモートでレクチャーを受けていただく機会を得た。出張レクチャーに関しては、すでに次年度老人保健施設「穂高の庭」でも予定されており、今後さらに飛驒地域全体への普及に励みたい。これまで当院での VE 回診では、食事姿勢などの明確な判断基準が外在化されておらず、一部スタッフでしか共通認識できないものであった。そこで、VE 所見を客観的に読み取ることで、食事姿勢が決定される基準を作成し、院内の NST メンバー以外のスタッフや、院外の方が共通認識できる体制を整えた。従来の嚥下強化入院は「ごっくんリハビリ入院」に名前を変え、完全側臥位法だけではなく、その患者に必要な食事姿勢、食形態、リハビリテーションを提供できるよう次年度も引き続き努力していく。

褥瘡管理について、週 2 回の褥瘡回診を継続し、DESIGN-R 評価、処置方法の検討、病棟共有を行っている。今年度はやや院内褥瘡発生率が昨年度よりも高く、次年度の課題となった。1 病棟に日本褥瘡学会認定士が配置され、これまで以上にリアルタイムな褥瘡管理を実施していく。

その他、今年度は院内向けにケトジェニックの研修を行い、院内スタッフが自身の栄養や健康面に意識をもつこととなった。また、ケトジェニックの考えは、栄養カンファで患者にも適応され、リハゼリーの提供量を増やす要因ともなった。在宅担当部門では、地域住民に向けた健康教室が 3 回/年行われ、地域高齢者に対し、当院から情報発信することができた。

今後も低栄養患者、摂食嚥下障害患者にたいして、NST メンバーを中心に、院内スタッフの協力を得ながら多角的なアプローチで取り組んでいきたい。また、神岡圏域だけでなく、飛驒地域全体の住民にとっての、口から食べたいという思いや、安全な食への支援を大切にしたいサポートチーム作りに励んでいきたい。

●ICLS 研修チーム

1. 目的

当チームは、突然の心停止に対して医療従事者として適切な対処方法を身につけることを目的とする。

2. 事業

当チームは、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- ① 院内 ICLS 研修会の実施
- ② 飛騨市民病院 ICLS さるばコースの企画・運営
- ③ 消防署との救急合同勉強会
- ④ その他関連する業務

院内救急マニュアル作成：それに基づき院内研修実施

院内救急勉強会開催：今年度未開催

介護医療院たかはら救急勉強会：2023年2月27日/3月6日開催

(参加者：42名、指導者：牛丸・宮腰)

ICLS さるばコース：7/16 高山赤十字病院開催(インストラクター：牛丸・宮腰、受講生：下萩)

12/3 飛騨市民病院開催(1グループでの開催)

消防署病院救急合同勉強会開催：準備等

消防署病院救急合同勉強会内容

回数	開催日	講 師	テーマ (内 容)
第99回	2022. 5. 25	研修医 川田 千尋	吐血と咯血
		古川消防署 後藤 聖士	緊急外来搬送の活用～循環器疾患の場合～
第100回	2022. 7. 27	研修医 元田 愛佳	発熱、頭痛、咽頭痛はただの風邪！？
		神岡消防署 稲垣 明	救急現場でのDNARプロトコールについて
第101回	2022. 9. 28	研修医 谷 絢花	一過性意識障害の一例
		上宝分署 今見 洋一	初めてのブドウ糖溶液投与を経験して
第102回	2022. 11. 30	研修医 浅野 綾太	脳梗塞(超急性期)の治療と適応
		神岡消防署 森谷 一馬	救急隊の見立てと最終診断結果から
第103回	2023. 1. 25	研修医 鈴木 魁哉	低体温症について
		神岡消防署 稲垣 明	特異な難治性VF症例について
第104回	2023. 3. 22	総合診療科 神谷 理斗	症例検討会
		上宝分署 糠塚 奨悟	県外(管外)からの傷病者搬送件数の内訳と対応について

3. 総括

今年度も突然の心停止に対し医療従事者として適切な対処方法を身につけさらに定着するよう救急勉強会の参加や各自 ICLS さるぼぼコース等に参加し自己研鑽が行えた。

また、感染対策を徹底した上で飛騨地域各施設の方々の参加もあり当院での ICLS さるぼぼコースを開催することができた。今年度は院内での救急研修会が開催できなかったため次年度は研修会が開催できるような取り組みをしていきたい。

●システム管理委員会

1. 活動目標

院内システムのスムーズな導入及び院内問題の解消

2. 活動内容

今年度は、大規模なシステムの導入がなく活動がなかった。

3. 今後の課題

- ①病院の規模等を考慮に入れたものを新規に導入する必要がある。
- ②毎年、システム変更があるので随時対応したい。

●診療録管理委員会兼 DPC コーディング委員会

1. 活動内容

- 1) 診療録管理のための業務分析及び作業手順に関すること
- 2) 診療録管理運営に関すること
- 3) DPC の適切なコーディングに関すること
- 4) その他診療録及び DPC コーディングに関すること

2. 活動実績

- 月に 1 回開催した。(年 12 回)
- 入力方法の統一を図るよう一層の周知を行った。
- 記録及び検査データ等の保管管理、整理を充実させた。
- 各部署にあるカルテ、書類及び検査データの保管義務、破棄等を議論し、紙媒体での保管を必要としない物については、各部署で破棄した。
- 退院サマリーの作成を医師に促した。
- DPC の適切なコーディング等についての確認を行った。

3. 総括

病名の整理や、診療録の整理に対する職員の意識がまだまだ低いため、病院全体として取

り組んでいかなければならない。

職員一人ひとりが、診療録の重要性を理解し上手く運用していけるよう、少しずつではあるが、各委員を通して意識改革を行っていかなければならない。

●医療安全委員会

1. 活動目標

『 院内の医療事故、ヒヤリ・ハット事例を周知し

事故防止対策に取り組み 事故の未然・再発防止に努める 』

- 1) レポート提出の促進
- 2) 事故レベル Lv 3-b 以上 ゼロ
- 3) 研修会への参加 全員参加 年2回

2. 成果

- 毎月1回委員会を開催し、報告事案の検証・対策を検討した
- ヒヤリ・ハット報告（承認）：114件
- Lv 3-b 4件 Lv 4-a 以上 1件（Lv 5 1件）
- 今年度も院内研修会は各自動画鑑賞とした
第1回 8月 第2回 1月 100%視聴

3. 総括

- インシデントレポートの報告を求め 再発予防対策の周知徹底を勧めていく
- 医療安全研修会を年2回開催する
- 窒息死亡事故が発生し、院内医療事故対策委員会が開催された

発生部署別 事故レベル一覧表

2022. 4. 1～2023. 3. 31

	Lv 0	Lv 1	Lv 2	Lv3-a	Lv3-b	Lv4-a	Lv4-b	Lv 5	合計
医局	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病棟Ⅰ（一般）	0	30	37	5	3	0	0	1	76
病棟Ⅱ（療養）	1	6	3	0	0	0	0	0	10
外来・救急室	0	4	2	0	0	0	0	0	6
手術・中材・内視鏡	0	0	1	0	0	0	0	0	1
透析室	0	0	1	0	0	0	0	0	1
薬剤科	0	0	1	0	0	0	0	0	1
検査科	0	2	1	0	0	0	0	0	3
放射線科	0	1	0	0	0	0	0	0	1
リハビリテーション科	0	1	2	1	1	0	0	0	5
栄養科	0	2	0	0	0	0	0	0	2
医療連携室	0	5	0	1	0	0	0	0	6

管理課	0	2	0	0	0	0	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	53	48	7	4	0	0	1	114

事 故 レ ベ ル	
Lv 0	患者に実施されなかった(未然に防げた)が、何らかの被害が予測される。
Lv 1	患者に実施された、または誤って実施されなかったが、実害はなかった。
Lv 2	障害は一過性で軽度、治療や処置は行わなかった。 (バイタルサインの軽度な変化、観察の強化・安全確認のための検査が必要)
Lv 3-a	障害は一過性で軽度だが、簡単な治療や処置が必要。 (消毒・湿布・皮膚の縫合・鎮痛薬投与など)
Lv 3-b	濃厚な治療や処置が必要。 (バイタルサインの高度な変化・骨折、人工呼吸器装着・手術など)
Lv 4-a	永続的な障害や後遺症は残ったが、有意な機能障害や美容上の問題は伴わない。
Lv 4-b	永続的な障害や後遺症が残り、有意な機能障害や美容上の問題を伴う。
Lv 5	死亡

月別発生件数及び発生原因一覧

発生年月	件数
2022 年 4 月	12
2022 年 5 月	6
2022 年 6 月	10
2022 年 7 月	12
2022 年 8 月	14
2022 年 9 月	10
2022 年 10 月	8
2022 年 11 月	8
2022 年 12 月	13
2023 年 1 月	4
2023 年 2 月	8
2023 年 3 月	9
合計	114

概要	件数
薬剤	30
輸血	0
治療・処置	9
医療機器・材料	1
ドレーン・チューブ	8
検査	6
療養上の世話	47
栄養・給食	5
事務・その他	14
合計	114

●透析機器安全管理委員会

2022 年度透析液水質管理計画に基づき、測定実施。

特に問題なし

●院内感染委員会

1. 活動目標

院内感染の予防及び院内感染が明らかになった場合の的確な対応を行う。

2. 活動内容と結果

1) 月1回の定例会議

- ① 抗生剤の使用状況の確認
- ② 感染情報報告の確認
- ③ サーベイランス報告
- ④ ICT ラウンドの報告
- ⑤ その他

2) 職員の研修

①令和4年度 第1回院内感染防止対策加算算定施設合同カンファレンス（全職員）

期間 : 2022年6月13日～6月30日
内容 : 「感染経路別予防策 up to date2022～ノロウイルス対策も含めて」
講師 : e-ラーニングシステム CX 院内全体研修コース
感染管理認定看護師：仲田勝樹先生
方法 : YouTube で個人聴講しアンケート実施
参加合計 115名（8月1日最終聴講にて聴講率 100%）

②令和4年度 第2回院内感染防止対策研修会（看護部会）

期間 : 2022年9月21日
内容 : 「手指衛生を見直そう」ブラックライトを使用して
講師 : 看護部感染防止対策チームメンバー
方法 : 看護部会にてブラックライトを使用し日頃の手洗い実態を確認
参加合計 33名（看護部参加対象 85%実践）

③令和4年度 第3回院内感染防止対策研修会（全職員対象）

日時 : 2022年10月27日
内容 : 「手指消毒を見直そう」
医療関連感染対策の目的—患者・職員を感染から守る
医療資源の適正使用・医療の質改善
講師 : 感染管理認定看護師 後藤泰代先生
場所 : リハビリ室（会場＋ZOOM＋ビデオ聴講）
参加合計 98名（聴講率 85%）

3. 感染発生状況の報告

感染情報を毎月の委員会の際に議題としてあげ各委員が確認をしている。対応・対策が必要な監視対象菌については、早急に主治医と各部署長に報告し感染防止対策を講じてもらい院内感染関連報告書の提出をしてもらっている。

4. 感染症発生時の対応

1) 新型コロナウイルス感染症

2020年1月より新型コロナウイルス感染症防止対策について早期より検討を重ね、院内マニュアルを作成した。2020年2月にはコアメンバーにて臨時会議を開催し、2023年2月までに53回の会議を重ねながら日々変化する状況への対応策を講じてきた。

2021年5月19日入院患者1名より新型コロナウイルス感染陽性患者が発生した。一時新規入院と退院を止めて、入院患者とスタッフのPCR検査を繰り返し行ないつつ徹底した感染予防対策を行い、最終的には5月31日に5名の患者発生を最後にそれ以降は陽性患者が発生しなかった。クラスターの指定を受けたが、幸いスタッフからの陽性者発生はゼロであった。

その後院内感染は抑えられていたが、2023年1月12日に入院患者1名の新型コロナウイルス陽性が判明した。入院患者20名、スタッフ8名が感染したため、原則新規入院及び救急車の受け入れを休止しながら外来部門は感染防止対策を行って通常通りの診療を続けた。

2) インフルエンザ予防対策

職員対象インフルエンザワクチン接種

期間：2022年11月28日（月）～12月1日（木）4日間

中央処置室—1階職員

2階面談室（1病棟と2病棟師長、看護部長、研修医で対応）

2階以上の勤務職員・管理課

食事介助ボランティア対象者の予防接種を実施、育児休暇中は仕事に支障がなく対象外とした。

2023年1月23日

行動をとともにしていた息子がインフルエンザウイルスA型と判明したため予防投与開始した。

5. 感染防止対策向上加算算定施設合同カンファレンス（岐阜県全体）感染管理加算3

参加者：医師（中林）・薬剤師（日比）・検査技師（中桐）・看護師（岩崎）

第1回 2022年5月14日 14:00～16:00

開催方法 Web開催（ライブ）ホスト会場：岐阜大学医学部記念会館

内容（1）感染防止対策加算算定病院共通サーベイランスデータフィードバック

（2）昨年12月の検査体制アンケートフィードバック

（3）各施設からの事前質問ディスカッション

✧ 施設内での抗菌薬使用状況・動向のフィードバックについて

✧ VCMのTDMにおける2ポイント測定について

✧ 地域におけるCOVID-19対応について

（4）感染対策向上加算について

第2回 2022年11月29日 13:00～16:00

開催方法 Web開催(ライブ) ホスト会場: 岐阜大学医学部記念会館

主催: 岐阜県・一般社団法人岐阜県病院協会

内容 (1) 感染防止対策加算算定病院共通サーベイランスデータフィードバック

(2) 事前アンケートでの質問・感染症発生状況の共有・ディスカッション

(3) 地域連携に関する各地域での取り組みに関する情報共有

第3回 2023年3月18日 15:10～17:10 岐阜院内感染対策検討会

メイン会場: 岐阜大学医学部記念会館2階ホール: 各施設 ZOOMにて参加

飛騨感染対策検討会

参加者: 医師(中林)・薬剤師(日比)・検査技師(中桐)・看護師(岩崎)

第1回 2022年7月30日(土) 14:00～16:00 飛騨感染防止対策検討会 ZOOM開催

主催: 久美愛厚生病院・下呂温泉病院

新型コロナウイルス感染症重点医療機関、感染対策向上加算1算定医療機関)

第2回 2022年9月17日 14:00～15:00 各施設 ZOOMにて参加

感染防護具の着脱訓練実施

第3回 2023年3月18日 14:00～15:00

アンケート集計報告(感染対策と5月8日以降の対策について)

J-SIPHE データ報告(手指消毒使用量・抗菌薬使用量・MRSA 検出率・血液培養提出率)

6. ICT 院内ラウンド

2012年7月から開始した ICT 院内ラウンドは4職種5名が声を掛け合い実施できているが、最低2職種2名以上でラウンドを行っている。検討事項は、感染委員会で議題として出し協議した結果を各部署長から各スタッフに伝達を行っている。ラウンド時のチェック項目については、見直しを行い実施している。

7. 速乾性手指消毒

新型コロナウイルス感染症が世界的に大きな問題となり、職員ひとり一人の危機意識が高まった事で、手洗いや手指消毒の遵守に繋がっている。今後も個々の意識向上のための正しい手洗い方法、手指消毒の重要性について ICT ラウンドでも啓蒙活動を続けていきたい。

8. JANIS 参加と J-SIPHE への加入

2014年1月から開始し継続しているが、2015年世界保健機関(WHO)総会にて薬剤体制(AMR)に関するグローバルアクションプランが採択され2016年日本政府として AMR 対策アクションプランが策定された。岐阜県内全体でも医療機関での AMR 対策に活用できるシステム J-SIPHEへの加入の呼び掛けがあり、当院でも2021年2月から継続しデータ入力を行っている。今後は他施設と比較し有効にデータ活用ができると良いと考える。

9. その他

令和 4 年度指導強化加算飛騨市民病院訪問

2023 年 3 月 2 日 13:30～14:30

久美愛厚生病院感染認定看護師看護師：田口学さん・牛丸亜由美さん来院

内容：COVID-19 対策の現状と今後の感染対策について

当院の院内ラウンドを実施し、久美愛厚生病院における対策などを情報共有

10. 総括

今年度もインフルエンザの流行は無かったが、新型コロナウイルス感染症は引き続き世界的な問題として未だ収束の兆しは見られない。2021 年 5 月のクラスター発生から 2023 年 1 月まで入院患者の新型コロナウイルス感染症の発生は抑えられていた。スタッフの標準予防策の徹底の効果で他の感染症のアウトブレイクは無かった。基本的な標準予防策の徹底の重要性を実感する。今後も ICT で適時適切に院内ラウンドやカンファレンスを行いながら、院内感染対策のさらなる充実に努めたい。

●輸血療法委員会

1. 活動目標

安全かつ、適正な輸血療法の推進に努める。

2. 成果・総括

必要に応じて、輸血療法に関する問題や血液製剤の適正使用等について個別に審議した。

輸血に伴う事故や感染及び合併症は発生していない。

輸血プログラムに輸血後副作用の報告が 3 件、いずれも軽度で問題なく終了した。

使用した血液製剤は照射赤血球液のみ、廃棄された製剤はなかった。

前年度に比べて患者数は減少、輸血件数及び使用量はやや増加となった。

他院の紹介により、当院で通院 follow の患者に輸血療法を実施した（年 56 単位）。

年間使用状況

照射赤血球液（Ir-RBC-LR）		
	令和 3 年度	令和 4 年度
件 数	77 件	85 件
単位数	154 単位	170 単位
患者数	36 名	24 名

●広報・ホームページ委員会

1. 目標

- 1) 当院基本理念のもと、地域に愛され、地域に開かれた病院づくりを目指して、飛騨市全体や旧上宝村住民に当院の在り方や活動、取り組み状況を広く周知する
- 2) 地域住民に少しでも有益な情報を積極的に提供し、利便性を向上させるとともに、住民の健康づくり、病気予防を促すための情報発信を行う

2. 活動内容・成果

- 飛騨市民病院公式ホームページの随時更新
外来診療の案内や、その他お知らせなどを随時更新した。
- 看護師募集パンフレットの更新
使用されている数値・写真を新しい物に更新した。
- 飛騨市民病院公式 Facebook の随時更新
病院での取り組みやお知らせなどの情報を随時更新した。
- 感染症対策に係る情報の発信
公式 HP・Facebook を利用し市民に向けて感染対策の情報を発信した。
- 院内情報システムの活用
患者さんや来院者に待ち時間を少しでも快適に過ごしていただくため、1 階の外来待合室や会計、廊下にモニターを設置し、さまざまなコンテンツやニュース、生活の豆知識などを放映した。

3. 総括

ホームページについては、委員会や取り組みについてのページを作成し、市民やその他医療機関・学生がより当院について知ってもらえるよう、情報発信を行っていく。

院内情報システムを活用した待合室などでの放映に、新たに当院 NST チームやリハビリスタッフが作成した映像およびホスピタリティ推進チームのキャンペーン活動のリーフレットなど放映した。今後も職員が主体となった情報発信について取り組んでいく。

就職ガイダンス用のパンフレットの写真も現状にあったものに差し替えを行った。今後は見開きタイプの病院パンフレットも新たに作成したい。

そして、目標とする「地域に愛され、地域に開かれた病院づくり」を目指すため、ホームページ、病院パンフレット、これらすべてを効果的に活用するとともに、一方的な情報提供だけに留まらず、市民が何を必要としているかを的確に捉え、広報活動として、より一層の充実を図っていく。

●SPD委員会

1. 目標

院内で大量に消費されるディスプレイの診療材料について、使用量を把握し、適正な

物品購入を行う。また、使用状況に合わせた管理定数の見直しを随時行い、不良在庫を一掃することにより経費節減に努める。

2. 活動内容

- ・各部署において、使用時のシール貼付を徹底する。
- ・使用状況に合わせた管理定数の見直しを随時行い、不良在庫を一掃する。
- ・定期的に棚卸しを行い、在庫の適正管理を行う。

3. 総括

病院改革プランにおけるアクションプランにもあったが、院内 SPD から院外 SPD に切り替えた方が良いとの課題があった。

近隣で院外 SPD を導入しているのは、富山大学附属病院、富山市民病院、高山赤十字病院、久美愛厚生病院であり、巨大病院においての院外 SPD はそれなりにメリットがあると考えられる。また、合わせて院外 SPD 導入のメリットを享受できるのは、数百床の病床を有していることや数億から数十億の取引がある場合である。

当院においては、院外 SPD を導入することで、確かに今以上の物品・物流管理、材料費の抑制については期待できるが、その反面、導入費用や SPD 業者への委託費がかさむことになり、本来の目的ではないと考えられる。

現在の院内 SPD においては、診療材料費の購入額をみると、令和 2 年度は 43,317 万円、令和 3 年度は 44,244 千円となり、約 2% の増額となっている。この背景には、昨年度から続く新型コロナウイルス発生に伴い手袋やマスクといった材料費が高止まりしていること、さらに 5 月から約 1 ヶ月の間、院内でのクラスター発生に伴い通常以上の使用があったことに要因がある。しかし、院内 SPD 導入による在庫の適正管理に対する職員の意識は変わってきている。

今後にも必要に応じた定数管理や在庫チェック、不良在庫・不良品を一掃し、経費削減に努めていくとともに、随意契約物品を可能な限り単価契約（見積入札）にし、共同購入やベンチマークシステムについても導入可能か検討していきたい。

●医療ガス・医療廃棄物委員会

1. 活動目標

- 1) 医療ガスの管理に関する設備点検
- 2) 医療廃棄物に関する管理

2. 活動報告

1) 医療ガス

- 院内酸素残量の点検（毎日）
- 業者による保守点検

医療ガス設備

前期点検：2022年9月29日～10月1日（機能点検）

後期点検：2023年3月25日（外観点検）

液化酸素製造施設（CEのみ用）

前期点検：2022年4月27日

後期点検：2022年9月15日

○ 医療ガス等に関する外部研修会

岐阜県高圧ガス安全協会 保安講習会（岐阜市）：2022年11月30日

2) 医療廃棄物

○ 産業廃棄物管理表（統一マニフェスト）の確認（随時）

○ 医療廃棄物保管庫の管理

3. 総括

令和4年度医療ガス・医療廃棄物に関する管理及び点検については、問題なく実施できた。医療ガス設備については老朽化が進んでおり、設備一式の更新について検討が必要である。また、委員会の主催による医療ガスに関する研修会の開催について計画していきたい。

●衛生委員会

1. 活動目標

1) 基本方針と年度目標、年間計画を高山労働基準監督署に報告

①基本方針：地域に密着した医療を提供する市民病院となるためには、職員がいきいきと健康で働ける職場でなければならない。また、職員が不安なく安定して生活を送ることができるためにも安全衛生対策を講ずるものとする。

基本方針『職員がいきいきと健康で働ける職場づくり』

②年度目標：職業性疾病0件 労災事故0件

2. 活動成果

労働基準監督署の勧告に沿って毎月第3火曜日を委員会開催日とし、第2週又は第3週に行う職場巡視の結果を協議してきた。また昨年同様、働き方改革について学習を継続し、パソコン使用時の個人情報の管理についても啓蒙した。

巡視結果に対応策・対処結果を掲載し各部署へ部署回覧として知らせている。その結果により各々改善・対応している。

1) 改善事項

①環境対策として

- ・災害対策については、飛騨市全域における対応が検討されており、市役所内に検討委員会が設置され、病院からも参加し協議が進められている。
- ・地震による転落防止対応として、棚の上に物を置かないなど各職場へ指示。

床の改修やフロア環境の改善など、各々の部署で気のついた所から改善している。

- ・ 各々工夫し独自に対策を講じている科もある。

②健康管理対応として

- ・ 健康管理は自己管理が一番大事である。今年度は特に腰痛対策に注意し業務に取り組むように注意喚起をしている。
- ・ ストレスについては本人が気付かない変化があることを周知し、職員同士で声を掛け合う等、職員全員が職員の健康管理を行っていくよう啓発している。また、各科長等から職員状態の確認を行っている。月毎の職場巡視結果報告には、健康管理について記載し、周知している。禁煙については、敷地内禁煙を徹底している。

3. 総括

労働災害の予防についての取り組みについては、他委員会との連携が必要な部分がある。

職場巡視を行っている職員や他委員会委員を交えた委員会開催も行う必要がある。

メンタルヘルスについては、研修会への参加を募り、新型コロナウイルスの感染防止の対策もあり ZOOM での参加も可能とした。

●ホスピタリティ推進チーム

1. 活動目標

飛騨市民病院の職員のあるべき姿や大切にすべき共通の価値観、行動を示すもの

2. 活動内容・成果

2021 年度より活動が始まり、昨年度は『改善すべき施策』を一覧表に落とし込み「改善による効果」「難易度」「改善に要する期間」を『見える化』することで評価を行った。

今年度に関しては、改善施策一覧を基に、進捗状況の聞き取りおよび具体的な活動方針を検討し、各科に意見集約を行った。また「事例集（ホスピタリティ基本マニュアル）」の着手および飛騨市民病院の「行動規範に基づく組織文化醸成」に沿った内容で言葉に焦点を当てた『まごころキャンペーン』や病院理念のテーマに沿った具体的な取り組み活動を行った。

■具体的な活動内容

1) 第 1 回まごころキャンペーン 10/31~11/11

医師や職員からキャンペーンに採用する文言を募集し、それを基にポスターを作成し各科に掲示。初めての取り組みのため、責任者より職員に趣旨を説明し活動を開始した。玄関前にある情報発信用テレビモニター「デジタルサイネージ」や会計前にあるテレビモニターへの掲示も行い患者様にもキャンペーン活動の周知を行った。キャンペーン終了時に全職員にアンケートを行い、次回のキャンペーンの標語も募集した。



2) 第2回まごころキャンペーン 1/30～2/10

第1回のキャンペーン終了後に募集した標語の中からアンケートを募り、得票の多かった標語を採用し取り組みを行った。趣旨に関しても概ね理解していただいたが、キャンペーン期間中は院内クラスターが発生し余裕がないにもかかわらず全職員しっかりと活動に取り組んでいた。



3) 第1回 病院理念に基づいたテーマ活動 3/1～4/30

飛騨市民病院の「病院理念」である『思いやりの心』の中の『癒やしの場』に焦点を当て「この病院に来てよかった」「この病院で働いてよかった」と思われる病院を目指して職員一人一人もしくは科の目標をそれぞれ掲げ、快適な環境作りに努める活動を行った。



4. 成果、総括

ホスピタリティ活動の一貫としてキャンペーンを継続していくことで、ホスピタリティ推進チームの活動内容の周知をするとともに、目指す方向の意識付けも出来てきている。

また、アンケートにより、各職員の自己の総括をすることによりキャンペーン期間中の振り返りも出来ているものと思われる。全体を巻き込むキャンペーン形式の活動を行うことにより広く周知でき、院内モニターに掲示することで、来院者へも飛騨市民病院の取り組み姿勢を示す良い機会となっている。

● 5 S 委員会

1. 活動目標

「原点に立ち返り、5S活動を見直す」

2. 活動内容・成果

当院で5S活動を始めて10年の節目となる。初心に戻り、今まで5S委員会が見直しをした箇所も整理・整頓・清掃・清潔・躰が継続できているかを確認した。10年前に取り組みを行った箇所も10年前とはシステムや配置そのものが変わっており、各部署の課題を再確認出来た。

★ボランティア活動

- 8月19日 病院部のボランティア活動に参加
 - ・院内清掃を実施
- 12月10日
 - ・外来10診 ペンキ塗り
- 1月20日
 - ・リハビリ、NS-2 壁張り

＜成果＞ペンキや壁紙が剥がれている箇所を修復することで院内の雰囲気良くなった。

診察室やリハビリ室は特に患者様の目に入るところでもあり、患者様へ与える印象も良くなることを期待する。

★院内ラウンド

- 7月15日に実施

＜成果＞卓上ゼロなどの活動は継続されている部署が多かったが、書類の整理が出来ていない部署が多く見られた。各部署の良い点や課題を確認することが出来た。

★5S活動についての研修会

- 5月31日 対象者：新スタッフ6人 講師：工藤先生

＜成果＞当院の5S活動を知ってもらうことで活動への参加の協力を得る道筋となった。

★院内共有ネットワークのフォルダ整理

- 部署ごとに番号を振り分け、部署内のフォルダも整理して頂いた。

＜成果＞各個人のルールで保存されていたデータを統一したルールで整理整頓した。データを探す際の手間が大幅に短縮された。

3. 総括

今年度は、一度原点に立ち戻り、これまで行ってきた活動が継続されているか見直した。5S活動を始めた10年前とは院内の配置やシステムが大きく変わっており、新たな課題がいくつか見つかった。特に多かったのは書類関係であり、電子カルテの導入に伴う書類の取り扱い方法が変わったのが主な原因だと思われる。その他にも壁の修復等を行い、院内環境の改善に取り組んだ。

今年度の活動では時代の変化と共に新たな課題が生まれることが分かった。今後も院内ラウンドで見つかった問題点に対して積極的に活動し、環境をより良いものにしていきたい。

●災害対策委員会

2019年4月より委員会を立ち上げ、各部署でアクションカードを作成、災害訓練を開催するなどの活動を行ってきた。2022年度は会議と訓練を毎月交互に行うという年間計画のもとに開催した。

2022年度目標： 有事の際に円滑に対応できるよう備える

1. 活動内容

1) 定例会議の開催

1. 7月8日
訓練の記録について
エアーテント設置、トリアージ訓練について
2. 9月9日
訓練内容の変更、再検討
3. 11月11日
訓練の振り返り、次回訓練の打ち合わせ
4. 1月13日
訓練の振り返り、次回訓練の打ち合わせ
5. 3月10日
訓練の振り返り、次回訓練の打ち合わせ、アクションカードの修正について

2) 災害訓練

1. 6月10日 消火栓訓練、通報訓練
担当者；林下
2. 8月27日 9：00～ 桜ヶ丘体育館
エアーテント設置、災害机上訓練（地震想定）
担当者：◎荒家・田口・稲松・中野・巢之内・石川
3. 10月14日 17：30～ 病院1階 トリアージ訓練、エリア訓練
担当者：◎小林・田口・稲松・中野・中桐・日比野
4. 12月9日 17：30～ 電子カルテのシステムダウン訓練
担当者：◎谷村・小林・中桐・日比野
5. 2月10日 17：30～ 夜間避難 エアーストレッチャー訓練
担当者： ◎後藤・田口・稲松・中野・巢之内・石川

3) 本部会議

- 第1回 5月12日
年間計画作成
- 第2回 6月8日
本部対策本部作成 BCP の組織図修正（変更日記入する）
アクションカード見直し
情報責任者—古田課長補佐
パーテーションはワクチン用や面談用の物を有効活用できないか。
職員名前のマグネット（新人用など作成・変更）
- 第3回 6月27日
2011年3月11日東北大震災の石巻日赤初動記録DVD 聴講
本部設置場所（1階会計場所、事務所、3階応接室など）について。
情報伝達方法は（ピッチがスマホ、トランシーバーなどの検討衛星電話の検討）
TV 設置（情報収集のために設置必要）・ホワイトボード必要
毛布、ヘルメット追加購入。
- 第4回 7月11日
アクションカード（マスメディア担当、受援対応担当、院内管理、ロジスティック）内容確認など
- 第5回 8月22日
高山赤十字病院 DMAT 浮田医師に確認。
水害を想定して院内に机上訓練実施など
- 第6回 12月15日
アクションカードの見直し（エリアリーダーの役割確認）
組織図内容変更

■人材育成プロジェクトチーム(JIP)

1. 目標

飛騨市民病院の働き方改革を実現し、職員のスキルアップと高い人格の形成、人間味あふれる人材の育成を目的とする。

2. 活動内容

定例会の開催 第4木曜日偶数月開催
管理課・看護部・リハビリテーション科

●看護部：里山ナース院内認定制度

- ◆ SUPER(1st)：令和4年度(3期生)2名(NS-1：2名)の申請あり

日時	内容	参加者
----	----	-----

2022. 8. 1	院内 ELNEC-J 研修会	5 名
2022. 9. 6	高原郷ケアネット参加	2 名
2022.12. 6	ICLS さるぼぼコース	2 名
2022. 3. 2	コアチーム会議開催 SUPER(1st)認定対象者推薦会議	コアチーム
2023. 5. 2	飛騨市長・病院長より修了証授与	2 名

◆ HYPER(2nd)：令和4年度(2期生)6名(NS-1：3名、NS-2：3名)の申請あり

・今年度新規資格等取得一覧

資格名	合計人数
防災士	2 名
弾性ストッキング・圧迫療法コンダクター	1 名
日本糖尿病療法指導士	1 名

・2023年5月2日 部署別目標発表会にて今年度の申請者書各分野別進捗状況等報告

	急性期	慢性期	終末期	在宅期	地域理解
最大値(点)	2.5	14	5	2.5	3
平均値(点)	0.89	2.50	1.61	2.5	1.05
3点以上取得(名)	0	1	1	0	1

日時	内容	参加者
2023. 2. 22	在宅期対象：「リハビリ研修会」講師：巢之内・谷口・洞口	10 名
2023. 3. 31	コアチーム会議開催 HYPER(2nd)認定対象者推薦会議	コアチーム
2023. 5. 2	飛騨市長・病院長より修了証授与	7 名

補助金使用額：172,550 円

●リハビリテーション科

◆ 院内喀痰吸引認定療法士

今年度も2名の理学療法士が院内喀痰吸引認定療法士を取得した。しかし、実際の臨床場面で喀痰吸引する頻度が少ないため、取得後に喀痰吸引を実施できていない状況である。次年度は新規受講者と共に取得者も技術確認が行える体制を整えていく。

◆ リハビリテーション科新入職員のオリエンテーション資料や教育プログラム

リハビリテーション科全職員共通のオリエンテーション資料(電子カルテのマニュアル、リハ実施計画書など必要書類の説明)を仕様変更や診療報酬の改正も含めて、修正変更・作成を継続中。次年度は作業療法士1名の入職が決まっているため、指導者となる職員と共に教育プログラムを作成・修正していく。

●里山会議

第4回目里山会議開催

開催日	テーマ	参加者
2022. 12. 22	患者への満足度を維持し、WLB を考えた働き方	31 名

6 グループに分かれて話し合い、各グループそれぞれの発表を行った。発表では柔軟な意見が出て、これからの病院のあり方への意識を高める機会となり今後も全スタッフが気軽に意見交流ができるよう開催を継続していきたい。

5. 目標の達成状況、成果と統括

里山ナース院内認定制度は、今年度も SUPER (1st) ・ HYPER (2nd) 共に新たな申請があり開始とした。各自、自分のペースで研修や資格取得を行い SUPER (1st) 2 名、HYPER (2nd) 7 名の修了することができた。WG メンバーでは申請者の申請状況等を把握しポイント取得できるような勉強会や研修会の案内や企画を行った。また、HYPER 修了者が数名いるため修了者に勉強会を行ってもらえる場の提供や EXCELLENCE (3rd) へステップアップできるような内容について次年度も検討が必要である。

また、院内喀痰吸引療法士取得に向けて制度を見直し、今年度よりマニュアルに基づいて実技研修を始めたが新たな課題等が出てきたため、今後新規取得者獲得や技術フォローアップ等の継続に努めていきたい。

■月例朝礼

4 月 黒木 嘉人 : 新年度 (令和 4 年度) を迎えて
 5 月 中止
 6 月 中止
 7 月 中止
 8 月 中止
 9 月 中止
 10 月 中止
 11 月 中止
 12 月 黒木 嘉人 : 御用納め
 1 月 黒木 嘉人 : 新年 (令和 5 年) 仕事始め
 2 月 中止
 3 月 中止

新型コロナウイルス感染拡大防止のために今年度も中止となった。

■高原郷ケアネット

(ZOOM 参加：病院に複数会場設置、各自の端末)

開催日	テーマ（内 容）	講 師	参加人数
2022. 6. 20	第 18 回 完全側臥位法	講義 「赤ちゃんからお年寄りまで、誰でも できる完全側臥位法」 講師：飛騨市民病院 医師 工藤 浩 先生 グループワーク グループ発表	86 名 (23 事業所)
2022. 9. 29	第 19 回 外国人介護職員に よる人材確保の現状	講義 「外国人介護職員による人材確保の 現状」 講師：社会福祉法人神東会 たんぽぽ苑 清水 敏幸 施設長 グループワーク グループ発表	63 名 (14 事業所)
2022. 12. 12	第 20 回 社会的処方	講義 「社会的処方って何？」 講師：飛騨市民病院 医師 佐藤 悠紀 先生 グループワーク グループ発表	55 名 (12 事業所)

■飛騨市健康コミュニティ・メディカルデザイナー養成講座

飛騨市&富山大学附属病院 連携事業 (第 4 回)

(場所：飛騨市役所西庁舎)

超高齢化社会に向けて、地域包括ケアを正しく理解し、住民、行政および専門職が連携して地域包括ケアシステム、さらに地域共生社会の構築に各人が自分の役割を積極的に実践するために、人材育成として富山大学附属病院総合診療部 山城清二教授がマイスター養成講座を企画されてきました。2019 度は次のステップとして、マイスター養成講座修了者および実践者/研究者に対して、新たな技術・知識を学び地域医療および地域の生活の基礎を支える人材や変革する人材を養成するコミュニティ・メディカルデザイナー (CMD) 養成講座が開催されました。しかし 2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大のため休止となり、2022 年度に再開となりました。

開催日	テーマ（内 容）	講 師
2022. 6. 4	第1回コミュニティー・メディカルデザイナー（CMD）養成講座 四面思考法で医療と地域の未来をデザインする「感動する改革実践提案書を着て歩く」	富山大学附属病院 総合診療部教授 山城清二 氏 北陸先端科学技術大学院 大学客員教授 近藤修司 氏
2022. 6. 18	第2回：新しい健康の概念と社会処方：つながり、生きがい、そしてコンパッション	慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授 堀田聡子 氏
2022. 7. 2	第3回：愛着があり誇りに思い、幸せに暮らすまちづくり まちぐるみで助け合う全世代型地域共生社会の構築	南砺市政策参与（前南砺市民病院長）南 砺市地域包括ケア課 顧問 南 眞司 氏
2022. 7. 16	第4回：デザイン思考と実践—新たな企画づくりから住民参加型まちづくりまで、アイデアを実現化する方法論—	富山大学 理事・副学長 武山 良三 氏
2022. 8. 27	第5回：発表会	富山大学附属病院 総合診療部教授 山城清二 氏

■研修医・学生実習状況

●初期臨床研修医 地域医療研修

富山大学附属病院（3名）、高山赤十字病院（4名）、名古屋掖済会病院（9名）、大垣市民病院（3名）、岐阜県総合医療センター（4名）、岐阜大学医学部附属病院（2名）、富山県立中央病院（4名）、富山市民病院（2名）、中部国際医療センター（3名）岐阜市民病院（5名）から、合計39名の初期臨床研修医（2年目）を地域医療研修として受け入れた。

氏 名	所 属	研 修 期 間
山崎 智史	富山県立中央病院	2022. 4. 4 ～ 2022. 4. 29
森田 和将	富山大学附属病院	2022. 5. 2 ～ 2022. 5. 20
川田 千尋	富山市民病院	2022. 5. 2 ～ 2022. 5. 31
家田 茉友	名古屋掖済会病院	2022. 5. 9 ～ 2022. 6. 3
亀山 千晶	岐阜市民病院	2022. 5. 9 ～ 2022. 6. 3
水野 洋子	富山大学付属病院	2022. 5. 30 ～ 2022. 7. 22
青木 良成	名古屋掖済会病院	2022. 6. 6 ～ 2022. 7. 1
内藤 恵仁	岐阜県総合医療センター	2022. 6. 6 ～ 2022. 7. 1
福富 惇	岐阜市民病院	2022. 6. 6 ～ 2022. 7. 1
元田 愛佳	岐阜県総合医療センター	2022. 7. 4 ～ 2022. 7. 29
加藤 大稀	中部国際医療センター	2022. 7. 4 ～ 2022. 7. 29
長島 芽依	岐阜市民病院	2022. 7. 4 ～ 2022. 7. 29
稲垣 友広	名古屋掖済会病院	2022. 7. 25 ～ 2022. 8. 19
松井 智子	岐阜大学医学部付属病院	2022. 8. 1 ～ 2022. 8. 26
平田 瑞貴	岐阜県総合医療センター	2022. 8. 1 ～ 2022. 8. 26
井上 紀子	岐阜市民病院	2022. 8. 1 ～ 2022. 8. 26
福田 良子	名古屋掖済会病院	2022. 8. 22 ～ 2022. 9. 16
李 愚姫	高山赤十字病院	2022. 8. 29 ～ 2022. 9. 22
加藤 駿一郎	岐阜市民病院	2022. 8. 29 ～ 2022. 9. 22
谷 絢花	岐阜大学医学部付属病院	2022. 9. 5 ～ 2022. 9. 30
小椋 彩恵子	名古屋掖済会病院	2022. 9. 20 ～ 2022. 10. 14
金森 浩平	高山赤十字病院	2022. 9. 26 ～ 2022. 10. 21
鳥澤 宗一郎	岐阜県総合医療センター	2022. 9. 26 ～ 2022. 10. 21
関本 周平	富山市民病院	2022. 10. 3 ～ 2022. 10. 28
飛川 雅輝	富山大学付属病院	2022. 10. 17 ～ 2022. 11. 11
神出 峻	高山赤十字病院	2022. 10. 24 ～ 2022. 11. 18
宇多 佑介	大垣市民病院	2022. 10. 31 ～ 2022. 11. 25
浅野 綾太	中部国際医療センター	2022. 10. 31 ～ 2022. 12. 28
新井 康允	高山赤十字病院	2022. 11. 21 ～ 2022. 12. 2
岡崎 耀太郎	大垣市民病院	2022. 11. 28 ～ 2022. 12. 23

杉原 千咲樹	富山県立中央病院	2022. 11. 28	～	2022. 12. 28
浅野 太希	名古屋掖済会病院	2022. 12. 5	～	2022. 12. 28
鈴木 魁哉	名古屋掖済会病院	2022. 1. 4	～	2022. 1. 27
池田 恵	富山県立中央病院	2023. 1. 4	～	2023. 1. 27
鈴木 稜	名古屋掖済会病院	2023. 1. 10	～	2023. 2. 3
小林 爽香	大垣市民病院	2023. 1. 16	～	2023. 2. 10
安井 健友	名古屋掖済会病院	2023. 1. 30	～	2023. 2. 24
茂手木 皓介	富山県立中央病院	2023. 1. 30	～	2023. 2. 24
平田 菜々恵	中部国際医療センター	2023. 2. 6	～	2023. 3. 3
合計 39名				

●後期研修医

氏 名	学年	実 修 期 間
島田 大揮	枚方公済病院	2022. 4. 1 ～ 2022. 7. 31
鈴木 良平	松波総合病院	2022. 4. 1 ～ 2023. 3. 31

●学生実習

富山大学 実習生一覧

富山大学4・5年生の地域医療臨床実習の実施施設として、10名の研修を受け入れた。

氏 名	学年	実 習 期 間
安田 悌徳	5年	2022. 5. 16 ～ 2022. 5. 20
栗澤 晶妃	5年	2022. 6. 13 ～ 2022. 6. 17
重城 いずみ	5年	2022. 7. 11 ～ 2022. 7. 15
長谷川 峻介	5年	2022. 7. 25 ～ 2022. 7. 29
林 芽衣	5年	2022. 9. 12 ～ 2022. 9. 16
山田 智大	5年	2022. 9. 28 ～ 2022. 9. 30
小林 佳輔	5年	2022. 10. 11 ～ 2022. 10. 14
渡辺 実久	5年	2022. 11. 21 ～ 2023. 2. 24
松本 由紀	4年	2023. 3. 6 ～ 2023. 3. 10
高瀬 晶平	4年	2023. 3. 20 ～ 2023. 3. 24

岐阜大学 実習生一覧

氏 名	学年	実 修 期 間
池田 紗葵	1年	2022. 8. 31 ～ 2022. 9. 2
畑尻 聡太	2年	2023. 2. 13 ～ 2023. 3. 3

自治医科大 実習生 なし

■神通川プロジェクト

2012 年度に始めた神通川プロジェクト事業を継続していることで、地域医療の実習フィールドとしての当院の認知度が高まり、医学生を受け入れを通じて富山大学との連携をより深めることができた。さらに、昨年度に引き続き多数の非常勤医師の派遣が実現しており、当院の医師確保対策に貢献する事業といえる。

当院での研修が印象に残り将来の就職先として選ばれる病院となるよう、学習や生活環境の充実に配慮している。医師の確保は永続する課題であることから、この事業を大学との協働事業として今後も継続的に取り組んでいきたい。

以下、岐阜県地域医療確保事業費補助金事業報告書の事業内容説明

(2023 年 3 月 31 日 事業実績報告書より抜粋)

事業名 医学教育とソーシャルキャピタル活性化による地域医療再生事業
(神通川プロジェクト)

事業実施時期 2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日

補助金額 2,926,000 円

事業目的 富山大学の医学教育に関わることで、飛騨市民病院の医師不足の改善を図る

神岡地区の地域医療確保の過程そのものを教育に利用する事業を、富山大学と協働して実施する。(2012 年度の内容を継続して実施 : 2017 年度はソフト事業のみ)

1. 医学生の通年実習受入、研修医の通年受入
2. 各種学会等での情報発信

1-1. 医学生の通年実習受入

岐阜大学医学部学生 2 名が 1～3 週間、富山大学医学部学生 11 名が 1 週間～3 ヶ月の臨床実習を実施した。

1-2. 研修医の受け入れ

地域医療の臨床研修協力病院として、下記のとおり研修医の受け入れを実施した。

◇初期臨床研修 (2 年目) 合計 39 名 (のべ 1,094 日)

富山大学附属病院 3 名	高山赤十字病院 4 名	名古屋掖済会病院 9 名
大垣市民病院 3 名	富山県立中央病院 4 名	富山市民病院 2 名
岐阜市民病院 5 名	岐阜県総合医療センター 4 名	
中部国際医療センター 3 名	岐阜大学医学部附属病院 2 名	

◇専攻医研修（医師免許取得後 3 年目以降） 合計 2 名

松波総合病院 1 名 枚方公済病院 1 名

初期臨床研修では 2 週間から 2 ヶ月間の研修を、また専攻医研修では 4 ヶ月間から 1 年間という長期に渡り飛騨市民病院の常勤医から、外来・病棟・救急外来における対応についての研修を受け、意見交換を行い、他の研修医や医学生とも交流を深めた。

また、市内を案内する機会を設けることで、患者の背景にある診療圏域への理解度を深めてもらうとともに、将来の就職への期待を込めて小規模病院の魅力を感じてもらおうよう努めた。

2-1. 学会等での情報発信

今年度は 11 月に、開催地が持ち回りとなってから初めての『岐阜県国保地域医療学会』が当市で開催されたため、病院祭は開催することを断念した。『岐阜県国保地域医療学会』の開催ということで、同時期に研修に来ていた研修医等にも学会に触れてもらうことができ、当院だけでなく県内の様々な状況を知ってもらうことができた。

2-2 地域での医療講演会の開催

各種学会での発表

- ・第 62 回全国国保地域医療学会 9/16～9/17 かずさアカデミックホールにて
『学生・研修医・専攻医と屋根瓦式研修体制の達成』
『宿日直許可と教育研修推進が医師の働き方改革につながった小規模病院の取り組み』
- ・第 37 回岐阜県病院協会医学会 10/23 セラミックパーク MINO にて
『学生・研修医・専攻医と屋根瓦式研修体制を達成し医師確保につながった神通川プロジェクト 10 年の成果』

情報誌『地域医療』での情報発信

- ・医師の働き方改革と国保直診
- ・“まったなし！”の医師働き方改革
～それぞれの地域における医師働き方改革へのチャレンジ～

効果

神岡町に存する医療施設、保健施設、介護施設を活用し地域医療の役割を体系的に学習できるフィールドを提供することで、研修医や医学生向けの病院実習アンケートにおいて高い評価を得ている。

また、院内や研修医住宅において、医学生や各病院の研修医が意見交換をすることで交流が深まり、地域医療を考える機会ができています。3 年前に新築した研修医住宅も大変好評で、共有ルームでは研修医同士で情報交換が行われている。これらの効果により、当院にて研修した研修医や学生が、後輩に飛騨市民病院での研修を勧めているとの声を聞いており、初期研修医の増員につながっている。

（受入研修医数：平成 31 年度 36 名、令和 2 年度 29 名、令和 3 年度 34 名、令和 4 年度 39 名、令和 5 年度 40 名（予定））

昨年度に引き続き今年度もコロナウイルスに対するワクチン接種を実施し、当院でもたくさんの患者へ接種が行われた。接種前問診を研修医にも担当させることで、常勤医師の負担がかなり解消された。国からの要請を受けて緊急的に行う業務が増える中、研修医の必要性は高まるばかりである。

■ボランティア受入

1. 清掃ボランティア

11月6日（日） 一心会

同級会による院内の清掃奉仕活動が実施され、日頃の清掃で行き届かないガラス拭きを中心に作業され、心地よい環境が整った。

同級会の代表者の方へ病院長から感謝状を贈呈した。

2. 飛騨市民病院を守る会

6月11日（土）、9日10日（土） 飛騨市民病院を守る会清掃奉仕

12月12日（月）～16日（金） 患者満足度調査アンケート用紙の配布・回収（外来分）

草刈り及び清掃奉仕活動では、当院の周辺だけでなく医師・研修医住宅周辺にも範囲を広げて環境整備を行ってくださっているため、当院の景観が保全されている。昨年までコロナウイルス感染症のため役員と当院職員により行っていたが、今年度から全会員へ呼びかけを行った。

例年、当院に地域医療研修や地域医療実習に来られた研修医や学生と役員との語る会を実施しているが、昨年に続き、新型コロナウイルス対策により中止となった。

2019年秋から役員さん数名が病棟の患者さんへの食事介助を行っている。患者さんも役員さんが来られるのを待っておられ大変喜ばれている。

このように飛騨市民病院を守る会は、コロナ禍においても年間を通じて様々な形で病院の活動を支援されている。

9年に亘り守る会の会長を務められた針田俊一会長が退任されたため、病院長から感謝状が贈られた。

■ボランティア等活動への参加

- ・GSA（ジオスペースアドベンチャー）
- ・山の村だいこんマラソン

毎年、当院の医師および看護師がボランティアスタッフとして参加しているが、今年度も新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止となった

■令和4年度 飛騨市民病院 行事・事業等

運営会議・代表者会議資料より

- 4月1日(金) 新規採用者他辞令交付式 本庁
新年度病院長訓示
- 4月4日(月) 旭保育園 アレルギー・エピペン講習会 中林
- 4月14日(木) マイナビオンライン面談 岩崎、佐藤、古田
- 4月14日(木) 消化器疾患WEB講演会 from 飛騨神岡 工藤(座長)
- 4月15日(金) ソフトウェアサービス常駐終了
- 4月16日(土)～17日(日) 小児ワクチン接種
- 4月28日(木) 飛騨市障がい者総合支援協議会 重症心身医療的ケア部会 中林
- 5月2日(月) 在宅診療 駒谷先生面談 黒木他
- 5月7日(土)～8日(日) 小児ワクチン接種
- 5月17日(火) 飛騨神岡高校校内企業展 岩崎、宮腰、佐藤
- 5月19日(木) 岐阜県国保地域医療学会 飛騨地区実行委員会 黒木
- 5月19日(木) 岐阜県国保診療施設協議会正副会長会議 黒木
- 5月20日(金) 全国国保診療施設協議会執行役員会 黒木
- 5月24日(火) 令和4年度全国自治体病院開設者協議会定時総会代理出席 佐藤
- 5月25日(水) 救急合同勉強会
- 5月27日(金) NST院内勉強会
- 6月1日(水) 自治医科大学卒業医師受入市町村会議 第1回幹事会 佐藤
- 6月3日(金) 枚方公済病院 北口先生来院
- 6月4日(土) 飛騨市コミュニティー・メディカルデザイナー養成講座
～第1回 四画面思考で医療と地域の未来をデザインする～
北陸先端科学技術大学院大学 近藤 修司先生
- 6月5日(日) 電気設備停電点検 9時～15時
- 6月9日(木) 茨城県笠間市 オンライン研修 工藤
「完全側臥位療法について」
- 6月10日(金) 岐阜市民病院研修説明会 黒木、岩崎、上葛
- 6月10日(金) 院内防災訓練
- 6月11日(土) 飛騨市民病院を守る会草刈り
- 6月15日(水) NSTオンライン研修会 工藤
- 6月16日(木) 岐阜県国保地域医療学会実行委員会 黒木
- 6月16日(木) ひた緩和ケアネットワーク 黒木
- 6月16日(木) 飛騨メディカルハイスクール
～キックオフ 地域医療講座・応援メッセージ～
- 6月17日(金) 全国国保診療施設協議会 執行役員会、理事会 黒木

- 令和4年度 第1回感染防止部会 (Zoom 開催) 中林
- 6月18日(土) 飛騨市コミュニティー・メディカルデザイナー養成講座
～第2回 新しい健康の概念と社会的対処法～
慶応義塾大学大学院 健康マネジメント 研究科教授 堀田 聡子 先生
- 6月20日(月) 高原郷ケアネット
- 6月21日(火) 岐阜県看護協会定時総会 荒家
- 6月22日(水) 高山赤十字病院地域医療連携検討委員会 黒木
- 6月22日(水) 寝具交換
- 6月25日(土) 飛騨市民病院を守る会総会
- 6月26日(日) 飛騨市防災訓練
- 6月26日(日) 飛騨メディカルハイスクール
～国保診療所を知ろう～
- 6月29日(水) ひだ在宅クリニック訪問 黒木 岩崎 佐藤
- 6月30日(木) 岐阜県看護協会飛騨支部役員会 岩崎
- 6月30日(木) 在宅医療カンファレンス
- 6月30日(木) 東海北陸地方国保診療施設協議会総会 黒木
- 7月1日(金) 全国国保診療施設協議会 執行役員会 黒木
- 7月2日(土) 飛騨市コミュニティー・メディカルデザイナー養成講座
～第3回 愛着があり誇りに思い、幸せに暮らすまちづくり～
南砺市政策参与(前南砺市民病院長) 南 眞司 先生
- 7月4日(月) 自治医科大学卒業医師受入市町村会議 定期総会 佐藤
- 7月7日(木) 飛騨メディカルハイスクール
～プロらしい医療者って?～
岐阜大学医学教育開発センター 教授・センター長 西城 卓也 先生
- 7月9日(土) 岐阜県看護協会飛騨支部役員会・支部集会・支部研修会 岩崎
- 7月11日(月) 岐阜県総合医療センター臨床医師研修管理委員会 黒木
- 7月16日(土) 飛騨市コミュニティー・メディカルデザイナー養成講座
～第4回 デザイン思考と実践～
富山大学 理事・副学長 武山 良三 先生
- 7月20日(水) 高山赤十字病院臨床研修管理委員会 黒木
- 7月21日(木) 西能病院より電子カルテ視察
- 7月22日(金) 高岡市民病院 NST 研修会講師 工藤
- 7月27日(水) 島田大揮先生 送別会
- 7月27日(水) 救急合同勉強会
- 7月28日(木) 富山大学及び関連病院の挨拶まわり 黒木 佐藤
- 7月30日(土) 飛騨市コミュニティー・メディカルデザイナー養成講座
～第5回 発表会(まとめ)～
富山大学附属病院 総合診療科 名誉教授 山城 清二 先生
- 7月30日(土) 第1回 飛騨感染対策検討会 中林 岩崎 日比 中桐

- 7月31日(日) 飛騨メディカルハイスクール
～心肺蘇生のメカニズム～
岐阜大学医学部附属地域医療医学センター センター長・教授 牛越 博昭先生
- 8月2日(火) 神岡乳幼児学級 講演「小児保健について」 中林
- 8月5日(金) 名古屋掖済会病院 研修説明会 オンライン 黒木
- 8月5日(金) 岐阜県立飛騨高山高等学校 飛騨市民病院院内見学会
- 8月8日(月) 国診協 総務企画委員会 オンライン 黒木
- 8月12日(金) 北陸大学 医療保健学部 病院見学
- 8月27日(土) 災害訓練 桜ヶ丘体育館
- 8月31日(水) 国診協 広報情報委員会 オンライン 黒木
- 8月31日(水) 飛騨メディカルハイスクール
～小児科のお仕事紹介～
高山赤十字病院 小児科 長柄 俊佑 先生
- 9月1日(木) 岐阜県メディカルコントロール協議会飛騨支部会 オンライン 黒木
- 9月7日(水) 中部国際医療センター 研修説明会 黒木、上葛
- 9月8日(木) 令和4年度 食物アレルギー対策事業 講師 古小 中林
- 9月9日(金) 岐阜県看護協会飛騨支部役員会及び施設看護職代表者会議 岩崎
- 9月13日(火) 岐阜県地域医療構想等調整会議 黒木、傍聴：佐藤、岩崎他
- 9月13日(火) 富山大学 Paediatric Allergy Conference 症例発表 中林
- 9月14日(水) 飛騨メディカルハイスクール
～総合診療を知ろう～
岐阜大学大学院医学系研究科総合診療科・総合内科学 教授 森田 浩之 先生
- 9月15日(木) 飛騨市障がい者総合支援協議会 重症心身医療的ケア部会 中林
- 9月15日～17日 全国国保地域医療学会 千葉 黒木
- 9月17日(土) 第2回 飛騨感染対策検討会
- 9月21日(水) 高山赤十字病院 地域医療連携検討委員会 黒木
- 9月22日(木) 飛騨メディカルハイスクール
～癌の痛みと医療用麻薬について知ろう～
高山赤十字病院 検査部長 今井 奨 先生
- 9月28日(水) 救急合同勉強会
- 9月29日(木) 高原郷ケアネット
- 9月29日(木) 自治医科大学卒業医師受入市町村会議 第2回幹事会 佐藤
- 10月4日(火) 飛騨メディカルハイスクール
「もう一度ベビースターラーメンが食べたい!!
自分の口からご飯を食べることの意義とは？」
飛騨市民病院 内科 第1診療部長 工藤 浩 先生
- 10月5日(水) 富山県ドクターヘリ共同運航に係る合同症例検討会 黒木
- 10月5日(水) メディカルコントロール協議会飛騨支部事後検証部会
- 10月13日(木) 飛騨メディカルハイスクール

- ～医療と介護の連携について知ろう～
訪問看護ステーション高山管理者 野崎 加世子 先生
- 10月14日（金） 災害訓練 トリアージ訓練
- 10月15日（土） 飛騨市民病院を守る会 健康講座
～これからの新型コロナ対策 どこまでどうやって？ 見通しは？～
飛騨市民病院 第Ⅱ診療部長 中林 玄一
- 10月16日（日） 飛騨メディカルハイスクール
～クロージング・修了式 高校生×医療職Meetup～
- 10月17日（月） 在宅医療カンファレンス
- 10月19～21日 神岡中学校 職場体験
- 10月20日（木） 神岡小学校 修学旅行に際しての COVID-19 対策 講師 中林
- 10月20日（木） 市民向 WEB 講演 「社会的処方って何？」 佐藤悠
- 10月22日（土） 山口 昇先生 お別れ会 オンライン参加 黒木
- 10月22日（土） 訪問看護ネットワーク研修会 岩崎
- 10月25日（火） 病院部署別目標の上半期振り返り発表会
- 10月27日（木） 全体感染防止対策研修会
- 10月28日（金） 枚方公済病院 摂食嚥下の学術講演 枚方 黒木 工藤
- 10月29日（土） 飛騨市の働き方未来フォーラム参加 佐藤 岩崎
- 10月31日（月） 岐阜大学医学部地域枠学生とのオンライン交流会
- 10月31日（月） 下呂看護専門学校 講義 下呂 岩崎
- 11月2日（水） 高山赤十字病院創立百周年記念式典出席 高山 黒木
- 11月6日（日） 同級会（一心会）ボランティア清掃
- 11月9日（水） 富山大学附属病院関連病院長懇談会総会及び講演会 富山 黒木
- 11月11日（金） 大垣市民病院研修管理委員会 大垣 黒木
- 11月11日（金） 自治医科大学卒業医師受入市町村会議合同会議 岐阜 神谷 佐藤
- 11月12日（土） 第3回 飛騨感染対策検討会
- 11月15日（火） 富山市民病院研修説明会 黒木
- 11月18日（金） 岐阜県看護協会飛騨支部役員会 岩崎
- 11月19日（土） 岐阜県国保地域医療学会 古川
- 11月21日（月） 下呂看護専門学校講師派遣 岩崎
- 11月21日（月） 外部評価委員会
- 11月22日（火） 認定看護師管理者研修（長野県看護協会より3病院） 岩崎
- 11月26日（土） 岐阜県飛騨地域緩和ケア研修会 講師 黒木
- 11月26日（土） 飛騨市表彰式 古川 佐藤
- 11月26日（土） 地域医療に関する市町村職員研修会 揖斐川町 古田
- 11月29日（火） 医療安全対策・医療関連感染防止対策研修 中林 岩崎 日比 荒家 中桐
- 11月30日（水） 完全側臥位法の論文掲載に伴う記者発表
- 11月30日（水） 飛騨市 母子関係者連絡会議 中林
- 11月30日（水） 救急勉強会

12月1日(木) NST院内勉強会「どう始める? ケトジェニックダイエット」
 12月9日(金) 防災訓練(夜間避難及びシステムダウン対応)
 12月12日(月) 岐阜県総合医療センター臨床医師研修管理委員会 黒木
 12月12日(月) 高原郷ケアネット
 12月15日(木) 飛騨市医師会 第5回理事会 黒木
 12月15日(木) 神岡町シニアクラブ連合会理事研修会 講演 中林
 12月20日(火) 総合政策審議会 佐藤
 12月21日(水) 高山赤十字病院 地域医療連携検討委員会 黒木
 12月21日(水) 飛騨圏域新型コロナウイルス感染症入院状況にかかる意見交換会(WEB)
 12月22日(木) 富山大学及び関連病院の挨拶まわり 黒木 佐藤
 12月22日(木) 里山会議
 12月23日(金) 社会保障審議会医療部会傍聴 佐藤
 12月23日(金) 仕事納め式
 12月26日(月) 指定管理者制度運営委員会 佐藤
 12月26日(月) 岐阜県国保地域医療学会反省会
 12月28日(水) 臨床工学技士新人研修プログラムの検討会議(北陸大学 清水教授) 桑山
 1月4日(水) 仕事始め式
 1月13日~14日 全国国保診療施設協議会 地域包括医療・ケア研修会 黒木
 1月18日(水) 吉城福社会 感染対応会議・指導 中林
 1月21日(土) マイナビWEB看護セミナー名古屋 岩崎 畠山
 1月24日(火) いきいき健康教室(神岡町) 日比野 洞口
 1月25日(水) 指定管理者制度運営委員会 佐藤
 1月25日(水) 救急合同勉強会
 1月30日(月) 第2回飛騨圏域地域医療構想等調整会議(WEB) 黒木他
 2月2日(木) 国診協 広報情報委員会(WEB) 黒木
 2月2日(木) 飛騨緩和医療ネットワーク 黒木
 2月3日(金) 看護協会飛騨支部施設看護職代表者会議 岩崎
 2月8日(水) いきいき健康教室(古川町) 日比野 洞口
 2月10日(金) 防災訓練(夜間避難訓練)
 2月10日(金) 第1回飛騨市思春期医療構想会議 中林
 2月13日(月) 吉城高校 飛騨市内企業説明会
 2月15日(水) 看護職員の賃金制度の抜本的見直しに関する勉強会(WEB) 岩崎
 2月16日(木) 飛騨市医師会 第6回理事会 黒木
 2月18日(土) 第4回 飛騨感染対策検討会
 2月18日(土) マイナビ看護セミナー岐阜 佐藤、岩崎、畠山、古田
 2月24日(金) 病院と地域関係機関の連携会議(久美愛厚生病院) NST チーム
 2月27日(月) 看護職員確保対策連絡協議会 岩崎
 2月28日(火) トーマツワイガヤ会議
 3月6日(月) 岐阜県総合医療センター臨床医師研修管理委員会 黒木

- 3月9日(木) 岐阜大学地域医療コース激励会 黒木 佐藤
- 3月9日(木) 重症心身障がい・医療的ケア部会 令和4年度第3回飛騨市障がい者総合支援協議会 中林
- 3月10日(金) 褥瘡研修会 i n 飛騨高山 工藤
- 3月13日(月) 医師住宅賃借業務プロポーザル審査会
- 3月16日(木) 岐阜県国民健康保険診療施設協議会役員会・協議会・実行委員会 黒木
- 3月16日(木) 南京都地区 地域連携カンファレンス 講演 工藤
「完全側臥位法で切り開くこれからの嚥下障害診療
～誤嚥性肺炎診療のパラダイムシフト～」
- 3月17日(金) 大垣市民病院第3回研修管理委員会 黒木
- 3月20日(月) 社会保障審議会医療部会傍聴 佐藤
- 3月20日(月) 岐阜県メディカルコントロール協議会飛騨支部感染防止部会 中林
- 3月23日(木) 飛騨市医師会定時総会 黒木
- 3月24日(金) 第2回岐阜県へき地医療対策委員会 黒木
- 3月24日(金) 岐阜県ナースセンター事業運営委員会 岩崎
- 3月27日(月) 総合政策審議会 佐藤

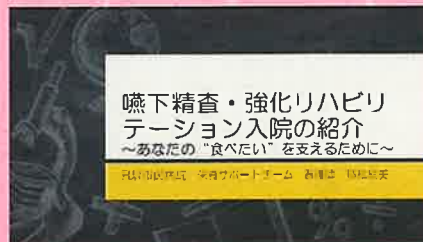
3.27→6.30

病院祭

第11回

飛騨市民病院

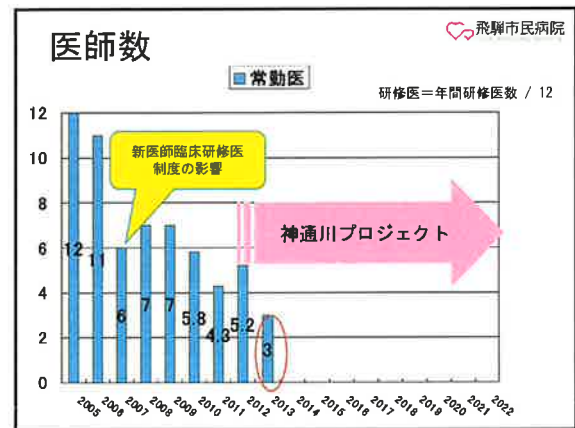
第11回飛騨市民病院病院祭onWEBとして、
飛騨市民病院の「今」をお届けします。
動画は飛騨市民病院のYouTubeチャンネル、
又はQR(特設ページ)からご覧ください。



飛騨市民病院

飛騨市神岡町東町725
0578-82-1150

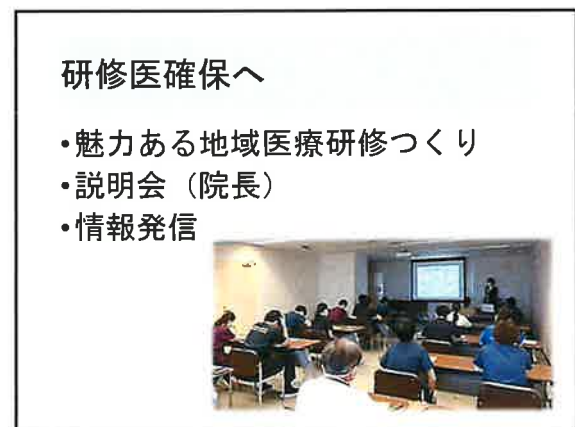
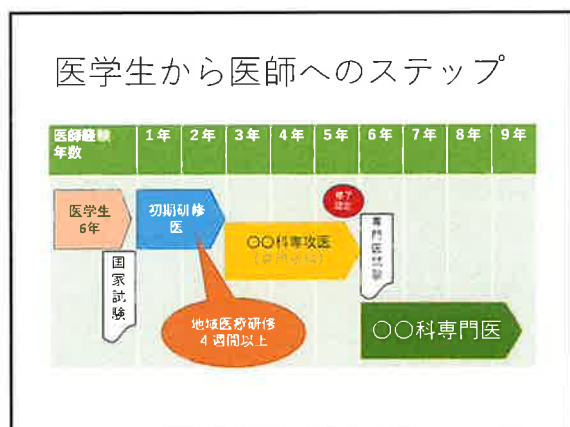




医学生地域医療実習

飛騨市民病院

年度	富山大学 神通川プロジェクト	岐阜大学M3地域配属 実習（夏季）
2012	45	3 (1)
2013	22	2 (4)
2014	12	3
2015	13	3
2016	11	0
2017	9	0 (1)
2018	9	1
2019	7	1
2020	9	1
2021	8	2 (2)
2022	7	0 (1)
合計	152	16 (9)



研修のアピールポイント

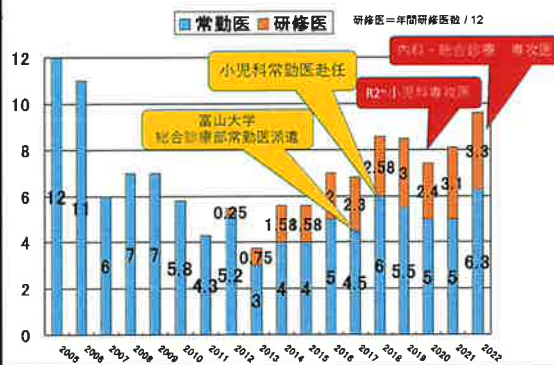
1. 入院主治医を担当し、主体性を尊重
2. 一般外来が経験できる
3. 丁寧な指導体制（朝夕のミーティング）
4. 整った学習環境と宿舎
5. 多職種連携
6. 温かい人情と住民の歓迎
7. 豊かな自然・美味しいもの・ガッタンゴー
8. 患者さんの人生に寄り添う

飛騨市民病院

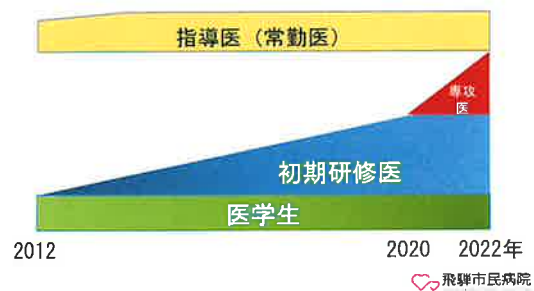
研修医の受け入れ人数



医師数



神通川プロジェクト 屋根瓦式教育体制の達成



医師と医学生



毎朝の医局ミーティング



飛騨朝いち3分
レクチャー

飛騨市民病院

夕方の振り返りミーティング



日々の研修は毎日ポートフォリオを作成して振り返ります



一般病棟主治医チーム制



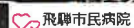
チームカンファレンス



研修のお楽しみ レールマウンテンバイク ガッタンゴー



廃線となった旧神岡鉄道のレールを専用のバイクで風を切って走ります。大人気で全国から予約殺到です。



研修室



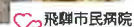
研修室 5人まで
各人にPCと机 豊富な医学書、教材



研修医住宅



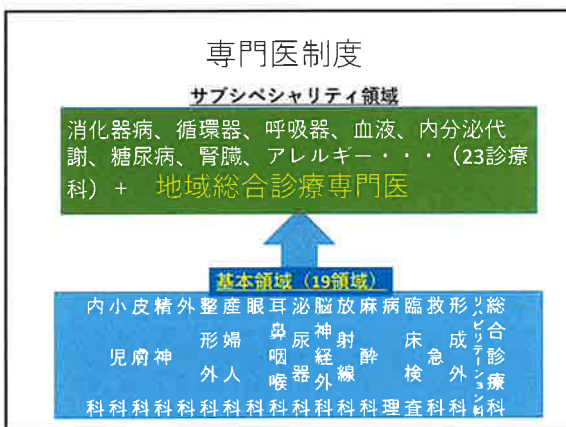
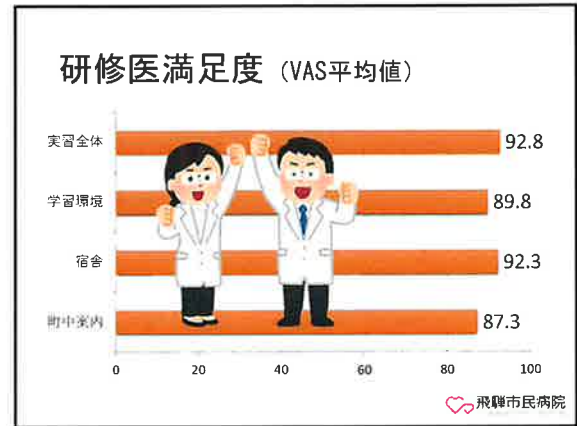
共有スペース 飛騨の家具



高原郷ケアネット

多職種連携研修会 約40事業所 参加者80～100名

飛騨市民病院



地域総合診療専門医

一般社団法人日本地域医療学会 JACH

■他の分野の専門医が主に臓器別の専門医に分かれているなかで、**地域の医療を総合的に診る専門医**であり、飛騨市民病院のような**山間へき地**の医師不足の地域を支えるためにまさに必要とされる専門医です。

地域総合診療専門医

一般社団法人日本地域医療学会 JACH

- 地域は、総合診療を学ぶ上で**最高の環境**です。地域で起こった病気やケガは、少ない医療機関に集中しますので、地域の健康問題を**まるごと全て診る**ことになります。
- 医師や医療職は互いに尊重し合い、助け合い、学び合う文化があります。
- 総合診療専門医の資格を取得した卒業6～7年目の医師だけを対象にした制度ではありません。
- 内科、外科、神経科精神科、その他さまざまな領域で活躍してこられた医師の**セカンドキャリア**として、地域医療に飛び込まれる方にもその門戸が開かれる予定です。

日本地域医療学会HPより



地域総合診療専門医 研修基幹施設

東海北陸エリア

(石川県)

石川県立総合医療センター

石川県立総合医療センター

(岐阜県)

岐阜県立総合医療センター

岐阜県立総合医療センター

(静岡県)

静岡県立総合医療センター

(三重県)

三重県立総合医療センター

全国から一人でも多くの医師が当院に来てくれるよう着々と準備を進めています

これからも飛騨市民病院は、若い人材を育成しながら、地域の医療を守っていきます。



飛騨市民病院
とっても いいよ～

飛騨市民病院

飛騨市民病院の基本理念



- 一、思いやりの心
- 一、信頼される医療
- 一、地域を愛し愛される病院

飛騨市民病院

令和4年度 飛騨市機情表

飛騨市民病院・介護医療院たかはら機構表

令和5年2月11日現在

[illegible]

令和4年度 飛騨市民病院委員会名簿

R4.4.1 現在

委員会名	開催日	実行責任者	構成員									
病院運営会議	第3火曜日	黒木 嘉人	管理看護部長	第Ⅰ診療部長	増設部長	事務局長	たかはら施設長	事務局				
			黒木 嘉人	工藤 浩	中林 玄一	岩崎 美幸	佐藤 直樹	下垣 寛子				
代表者会議	第4火曜日	黒木 嘉人	管理看護部長	第Ⅰ診療部長	増設部長	事務局長	たかはら施設長	第Ⅰ看護部長	増設部長	総合看護部長	総合看護部長	総合看護部長
			黒木 嘉人	工藤 浩	中林 玄一	佐藤 悠紀	鈴木 良平	島田 大輝	神谷 理斗	岩崎 美幸	後藤 弘子	小林 洋子
			薬局長	主任	放射線科長	管理栄養士	主任	理学療法士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士
			日比 孝之	中桐 あさ子	西 達也	日比野 一輝	黒之内 大輔	佐藤 直樹	古田 幸嗣	豊坂 梨緒	大坂 学	
第Ⅰ診療部会	随時	黒木 嘉人	管理看護部長	第Ⅰ診療部長	増設部長	事務局長	たかはら施設長	第Ⅰ看護部長	増設部長	総合看護部長	総合看護部長	総合看護部長
			黒木 嘉人	工藤 浩	中林 玄一	佐藤 悠紀	鈴木 良平	島田 大輝	神谷 理斗	岩崎 美幸	後藤 弘子	小林 洋子
薬事委員会	水曜日	日比 孝之	管理看護部長	第Ⅰ診療部長	増設部長	事務局長	たかはら施設長	第Ⅰ看護部長	増設部長	総合看護部長	総合看護部長	総合看護部長
			黒木 嘉人	工藤 浩	中林 玄一	佐藤 悠紀	鈴木 良平	島田 大輝	神谷 理斗	岩崎 美幸	後藤 弘子	小林 洋子
第Ⅱ診療部会	随時	日比 孝之	管理看護部長	第Ⅱ診療部長	増設部長	事務局長	たかはら施設長	第Ⅱ看護部長	増設部長	総合看護部長	総合看護部長	総合看護部長
			黒木 嘉人	工藤 浩	中林 玄一	佐藤 悠紀	鈴木 良平	島田 大輝	神谷 理斗	岩崎 美幸	後藤 弘子	小林 洋子
第Ⅱ診療部会セクション会議	薬剤科運営部会 院外処方連絡会議	随時	日比 孝之	大田 理絵								
			日比 孝之	大田 理絵								
	検査科精度管理運営部会	随時	中桐 あさ子	和仁 達弥	山下 美由貴							
			中桐 あさ子	和仁 達弥	山下 美由貴							
	放射線科運営部会	随時	西 達也	久保 潤	田口 リエ							
			西 達也	久保 潤	田口 リエ							
	栄養科運営部会	第1木曜日 (随時)	日比野 一輝	増設部長	増設部長	事務局長	管理栄養士	日比野 一輝				
			中林 玄一	岩崎 美幸	後藤 弘子	荒家 千夏	佐藤 直樹	日比野 一輝				
	リハビリテーション科運営部会	随時	黒之内 大輔	増設部長	増設部長	事務局長	理学療法士	理学療法士	理学療法士	理学療法士	理学療法士	理学療法士
			中林 玄一	岩崎 美幸	後藤 弘子	荒家 千夏	佐藤 直樹	日比野 一輝				
増設部管理委員会	第2水曜日	岩崎 美幸	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長
			増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長
	第3水曜日	後藤 弘子	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長
第Ⅰ病棟運営部会	随時	後藤 弘子	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長
			増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長	増設部長

[illegible]

医療安全部門	院内感染委員会	第1回曜日 14:00～	中林 玄一	第Ⅱ診療部長	病院長	増田 孝之	第Ⅰ病棟 看護部長	後藤 弘子	第Ⅱ病棟 看護部長	荒家 千夏	地域連携 看護部長	小川 洋子	地域連携 看護部長	谷村 二子	第Ⅰ病棟 看護部長	大庭 のりこ	総合看護主任	
				薬局長	主任 看護部長	放村 綾子	主任 看護部長	理子 美佐子	管理栄養士	管理栄養士	事務局長	管理栄養士補佐						
				日比 孝之	中川 あさ子	西 達也	谷口 敬康	谷村 二子	日比 孝之	日比 孝之	佐藤 直樹	古田 幸嗣						
				第Ⅰ診療部長	看護部長	荒家 千夏	総合看護部長	谷村 二子	日比 孝之	日比 孝之	中川 あさ子							
	輸血療法委員会	随時	中川 あさ子	工藤 浩	後藤 弘子	荒家 千夏	総合看護部長	谷村 二子	日比 孝之	日比 孝之	中川 あさ子							
				第Ⅱ診療部長	放村 綾子	西 達也	谷口 敬康	谷村 二子	日比 孝之	日比 孝之	中川 あさ子							
	放射線管理委員会	随時	西 達也	第Ⅱ診療部長	放村 綾子	西 達也	久保 満	田口 リエ	宮本 洋子									
				中川 玄一	西 達也	久保 満	田口 リエ	宮本 洋子										
	医療ガス委員会・医療廃棄物委員会	随時	林下 明史	事務局長	管理栄養士補佐	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士
				佐藤 直樹	古田 幸嗣	豊坂 梨緒	林下 明史	岩崎 美幸	中川 あさ子									
災害対策委員会	第2回曜日	黒木 嘉人	黒木 嘉人	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士
				黒木 嘉人	岩崎 美幸	小林 洋子	後藤 弘子	荒家 千夏	谷村 二子	谷村 二子	中野 至孝	田口 純子	石川 和彦					
				主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長	主任 看護部長
				中川 あさ子	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之	日比 孝之
衛生委員会 労働安全衛生法施行令第9条	毎月の 職場巡回	黒木 嘉人	黒木 嘉人	産業医	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士	管理栄養士
				小田切 善洋	黒木 嘉人	工藤 浩	佐藤 直樹	岩崎 美幸	宮本 洋子	大坂 孝	大坂 孝	大坂 孝	大坂 孝	大坂 孝	大坂 孝	大坂 孝	大坂 孝	大坂 孝

飛驒市病院管理室 事業概況

目 次

I	施設の概況	
1.	診療概況	83
①	飛騨市民病院	83
②	介護医療院たかはら	87
	老人保健施設たかはら (たかはらと表記)	
2.	病院の沿革	88
①	飛騨市民病院	88
②	たかはら	93
3.	管理機構図	96
4.	診療科目等の推移	97
5.	職員数の推移	98
6.	主な医療機器等の整備状況	100
II	業務の概況	
1.	業務実績	103
2.	診療科別患者数	104
3.	年代別患者数	105
4.	地域別患者数	106
5.	病床利用率	107
6.	飛騨市民病院の病床別利用状況	107
7.	休日・時間外の患者受入状況	107
8.	救急車受入件数	107
9.	飛騨市消防の救急搬送の状況	108
10.	調剤処方箋枚数	109
11.	放射線撮影件数	109
12.	検査取扱件数	109
13.	手術件数	110
14.	給食数	110
15.	透析件数	110
16.	リハビリ件数	111
17.	健康診断件数	111
18.	研修医・学生実習	111
III	財務の概況	
1.	年度別損益計算書	112
2.	年度別資本的収支	114
3.	年度別貸借対照表	115
4.	年度別補助事業等明細	118
IV	経営分析	
1.	飛騨市民病院経営分析	122
2.	医業収益・医業費用増加率	123

I 施設の概況

1. 診療概要

本市には、昭和 24 年 10 月 1 日に当時の船津町が岐阜県農業会連合会から病院を買い取り公立病院として開設したのが始まりの「飛騨市民病院」と、神岡鉱山病院（開設者・神岡鉱業㈱）の経営委譲により平成 11 年 4 月 1 日開設した「ケアホスピタルたかはら」から介護保険施設へ転換した「介護医療院たかはら」がある。

平成 18 年度末に富山大学派遣医師の引き揚げと小児科医師の退職があり、常勤医師の確保が非常に困難な状況となった。このため、平成 20 年 4 月 1 日に、飛騨市民病院は一般病院からケアミックス型病院へ転換し、一般病床 58 床、療養病床 33 床とした。平成 29 年 1 月より地域包括ケア病床を 8 床導入し、一般病床 50 床、地域包括ケア病床 8 床、療養病床 33 床とした。平成 30 年 4 月より地域包括ケア病床を 4 床増床し、一般病床 46 床、地域包括ケア病床 12 床、療養病床 33 床とした。令和 3 年 2 月より地域包括ケア病床を 8 床増床し、一般病床 54 床、療養病床 27 床とした。

また、飛騨市民病院に療養病床を設置したことに伴い、ケアホスピタルたかはら（介護療養型医療施設 入所定員 76 人）を平成 20 年 3 月 31 日で廃止し、平成 20 年 4 月 1 日から老人保健施設たかはら（介護老人保健施設 入所定員 76 人）を開設した。令和元年 10 月 1 日には、老人保健施設たかはらを社会福祉法人神東会に指定管理委託し、さらに令和 2 年 4 月 1 日には入所定員を 58 人に改めて介護医療院に転換し「介護医療院たかはら」として再出発した。

① 飛騨市民病院

- ・所在地 岐阜県飛騨市神岡町東町 7 2 5 番地
- ・敷地 6, 6 6 9 m²
- ・建物 鉄筋コンクリート造 3 階建
建築面積 3, 3 4 3 m²
延べ床面積 6, 2 3 7 m²
- ・診療科目 内科、外科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻いんこう科、脳神経外科
泌尿器科、婦人科、皮膚科、心臓血管外科、呼吸器内科、循環器内科
腎臓内科、糖尿病内科 （1 5 診療科）
- ・許可病床 一般病床 5 4 床（うち、地域包括ケア病床 2 0 床）
療養病床 2 7 床 合計 8 1 床
- ・診療時間 土・日曜日、休日、年末年始を除く 午前 9 時から午後 5 時まで
- ・法的資格 地方公営企業法一部適用
- ・届出事項 令和 5 年 4 月 1 日現在
【基本診療】
機能強化加算

一般病棟入院基本料 4 (看護配置 10 対 1)
療養病床入院基本料 1 (看護配置 20 対 1 8 割以上)
救急医療管理加算
診療録管理体制加算 2
急性期看護補助体制加算
療養病棟療養環境加算
感染防止対策加算 3
後発医薬品使用体制加算 1
データ提出加算
入退院支援加算
認知症ケア加算
せん妄ハイリスクケア加算
地域包括ケア入院医療管理料 1

【特掲診療】

看護職員処遇改善加算 3 7
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
ニコチン依存症管理料
がん治療連携指導料 (高山赤十字病院、富山大学附属病院)
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
電子的診療情報評価料
在宅療養支援病院 2
在宅時医学総合管理料
持続血糖測定器加算 2
検体検査管理加算(Ⅱ)
小児食物アレルギー負荷検査
CT 撮影及びMRI 撮影 (CT 64 列 MRI 1.5T)
無菌製剤処理料
脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)
運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
呼吸器リハビリテーション(Ⅱ)
がん患者リハビリテーション加算
人工腎臓
導入期加算 1
手術の通則の 16 に掲げる手術(胃瘻造)
胃瘻増設時嚥下機能評価加算

【入院時食事療養】

入院時食事療養(Ⅰ)・入院時生活療養(Ⅰ)

【その他】

酸素単価

- ・機関指定 保険医療機関、国民健康保険医療取扱機関、労災指定医療機関、救急告示病院、生活保護法指定医療機関、介護保険法指定事業所（訪問リハビリ）
指定自立支援医療機関（精神通院医療）

- ・人工透析 14床

- ・看護体制

ア 看護体系 一般病床 10：1 療養病床 20：1

イ 看護単位 2 単位

ウ 勤務時間 日勤 8:30～17:15 夜勤 16:30～9:00

- ・食 事

食事時間 朝食 7:30 昼食 12:00 夕食 18:00

- ・院外処方箋発行

全科発行

- ・救急業務

第二次救急指定病院、病院群輪番制病院（月・木）

- ・検(健)診業務

ア 公衆衛生活動 保育園検診、学校検診、予防接種等

イ 事業所検診

ウ 短期人間ドック 一般ドック、脳ドック

エ 特定健診 協会けんぽ、市町村共済等

オ すこやか健診 飛騨市

- ・診療体制

（令和5年4月1日現在）

診療科目	医師数	外来診療時間	外来診療 単 位	入院 可否	摘 要
総 合	常勤 4	9:00～12:00 14:00～17:00	AM 3～4 PM 1～2	○	
呼吸器内科		9:00～12:00	AM 1	×	火・金曜日
循環器内科		9:00～12:00	AM 1	×	月・水曜日
腎臓内科		9:00～12:00	AM 1	×	月曜日
糖尿病内科		9:00～12:00	AM 1	×	木曜日
リウマチ膠原病内科		9:00～12:00	AM 1	×	第1・3・5火曜日
外 科	常勤 1	9:00～12:00	AM 1	○	月・火・水・木曜日
眼 科		12:00～17:00	PM 1	×	第1・3・4・5金曜日
		12:00～16:00	PM 1		第2金曜日
整形外科		9:00～12:00	AM 1	×	木曜日
		9:30～12:00	AM 1		水・金曜日
		10:00～12:00	AM 1		月曜日
小児科	常勤 1	9:00～17:00	AM 1 PM	×	月・火・木・金曜日

			1		
耳鼻いんこう科		14:00～17:00	PM 1	×	月・木曜日
脳神経外科		9:00～12:00	AM 1	×	火曜日
泌尿器科		9:00～12:00	AM 1	×	水曜日
婦人科		9:30～13:00	AM 1 PM 1	×	火曜日
皮膚科		14:00～17:00	PM 1	×	月曜日
		9:00～12:00	AM 1		金曜日
心臓血管外科		9:00～12:00	AM 1	×	第2・4木曜日

② 介護医療院たかはら

- ・所在地 岐阜県飛騨市神岡町殿1081番地19
- ・敷地 6,667㎡
- ・建物 鉄筋コンクリート造2階建
延べ床面積 3,254㎡
- ・入所定員 II型療養床 58床（みなし短期入所療養介護含む）
- ・届出事項 II型介護医療院サービス費（I）（ii）
夜間勤務等介護（IV）
身体拘束廃止取組：基準型
安全管理体制：基準型
栄養ケア・マネジメント体制
療養環境基準（廊下）：基準型
療養環境基準（療養室）：基準型
療養食加算
理学療法 I
安全対策体制
サービス提供体制強化加算Ⅲ
介護職員処遇改善加算 I
介護職員等特定処遇改善加算Ⅱ
- ・機関指定 介護保険指定事業所、生活保護法指定介護医療院、生活保護法指定短期入所療養介護施設

2. 病院の沿革

① 飛驒市民病院

昭和17.	船津町、阿曾布村及び袖川村の各産業組合が中心となり、地域の保健医療向上のため診療所の設置を計画する。
18. 3.30	岐阜県産業組合連合会が『産業組合立高原診療所』を設置 (建築場所：神岡町船津2017)
9.30	産業組合が農業会に改組『岐阜県農業会立高原診療所』に名称変更
19.12. 4	神岡町東町691-1(現たんぼぼ苑敷地の一部) に病院を新築 『岐阜県農業会立船津病院』に名称変更 診療科目 内科、外科、歯科
24.10. 1	旧船津町が岐阜県農業会連合会から病院を買収 『国民健康保険 船津病院』に名称変更 診療科目 内科、外科、小児科、歯科、眼科、産婦人科 病床 32床 院長 田中 秀二
25. 6.10	船津町、阿曾布村、袖川村が合併し神岡町となる。 『国民健康保険 神岡町病院』に名称変更
26.10. 1	内田重遠(富山県立中央病院内科勤務) 病院長に就任
29. 9. 1	内田院長退職・本多幸三郎病院長に就任
34.12.25	新築第1期工事完成
35.12.25	新築第2期工事完成 診療科目 内科、外科、産婦人科、小児科、眼科
36. 7.31	眼科閉鎖
42.11.30	小児科閉鎖
43. 4. 1	地方公営企業法の財務規定を適用
44. 9.30	産婦人科閉鎖
45. 6. 1	婦人科開設(毎週1回)
7.23	耳鼻咽喉科夏期特別診療開始 (夏休み期間中の1ヶ月間のみ・特別診療は55年度まで続く)
46. 9.31	婦人科閉鎖
47. 4. 1	耳鼻いんこう科開設(毎週1回)
49. 4.30	外科閉鎖
53. 4. 1	外科再開(外科医師常駐)
55. 4. 1	循環器内科専門医(毎週1回)診療開始 本多病院長退職
56. 4. 1	神経内科専門医(毎週1回)診療開始
9. 1	小田切春洋病院長に就任
57. 4. 1	整形外科開設(第2、第4金曜日)

10. 1	泌尿器科開設（毎週1回） 整形外科は、毎週1回に
58. 4. 1	小児科再開(医師常駐) 整形外科毎週2回に
59. 6. 1	整形外科医師常駐に
60. 4.15 11.	神岡町医療対策事務局設置 腎臓透析開始
62. 3.31 12.26	新病院基本計画（設計）完成 救急病院の告示
63. 8.31 9.26	新病院実施設計完了 新病院起工式(地鎮祭)（建築場所：神岡町東町725）
平成 2. 5. 1 10.	新病院開院 診療科目 内科、外科、整形外科、小児科、脳神経外科、耳鼻 咽科、泌尿器科 病床数 一般82床 結核26床 計108床 医師住宅・3LDK 2世帯用1棟完成（建築場所：神岡町東町654・2）
3. 4. 1	婦人科開設（毎週火曜日）
5. 3.	看護婦住宅(単身者6人用)完成
6. 3. 4. 1 7. 1	医師住宅・3LDK 2世帯用2棟完成（建築場所：神岡町東町670・1） 眼科開設（毎週2回） 眼科医師常駐に
7.11. 1	結核病床を廃止
8. 4. 1 5.22	一般病床を17増床（99床に） 全国自治体病院開設者協議会及び社団法人全国自治体病院協議会の自治 体立優良病院・会長表彰受賞
9. 3.	磁気共鳴画像診断装置室を増設（MRI導入） 医師単身者住宅・1DK 1 棟4室完成（建築場所：神岡町東町670・1）
10. 5.20 6.22	全国自治体病院開設者協議会及び社団法人全国自治体病院協議会の自治 体立優良病院・自治大臣表彰受賞 病院総合情報システム（オーダーリングシステム）導入に着手 （完成は11年10月4日）
11. 4. 1	皮膚科開設（毎週月曜日）
13.11.20	全身用コンピューター断層撮影装置更新（マルチスライスCT）
14. 3.29 8.23 31 12.24	リハビリ室、院長室、医師当直室、相談室等を改修 長時間心電図解析装置更新 医療法改定により、99床を一般病床として病床区分の届出 一般撮影装置更新
15. 4. 1 12.26	神岡町訪問看護ステーション(特別会計)を病院事業に移管 超音波白内障手術装置を更新

16. 1. 9 1.31 2. 1	電子内視鏡システム更新 市町村合併により神岡町病院を廃止 神岡町、古川町、河合村、宮川村が合併し飛騨市となる 『国民健康保険飛騨市民病院』を開設（名称変更） 小田切春洋病院長に就任
16. 4. 1 17. 2. 1	院外処方箋を外来全科発行 病院総合情報システム（オーダーリングシステム）更新
17. 4. 1 12.27 18. 1. 6 2. 9	黒木嘉人病院長に就任 小田切春洋病院管理者に就任 省エネルギー対応型小型蒸気ボイラー2基更新 乳房X線撮影装置新規購入 デジタルX線テレビシステム更新
18.10.24 11. 1 19. 2.28 3.12 3.31	移動型外科用X線装置購入 亜急性期入院医療管理料 10床 リハビリ・透析棟完成 人工透析装置（13基）購入 富山大学派遣医師引き揚げ 第2内科 2名、整形外科1名、外科1名 常勤小児科医師退職
19. 4. 1 11. 1 12. 1 20. 3.25 3.25 3.25	常勤医師による午後診療休止 非常勤医師による外来診療実施、 循環器、腎臓、小児科、整形外科診療（富山大学） 小児科外来 久美愛厚生病院 週1日 緩和ケア外来開始 火曜日午後 黒木院長 入院患者への精神科診療開始 月2回 須田病院 本間医師 小児科外来 高山赤十字病院 週1日 高圧蒸気滅菌装置更新 酸化エチレンガス滅菌装置購更新 医療療養型病床設置事業計画に基づく改修工事完成 特浴装置 2台設置 病棟ナースコール設備更新
20. 4. 1	ケアミックス型病院へ転換 一般病床 58床 療養病床 33床 病棟2交替勤務へ変更 岐阜県から内科医師派遣 1名（自治医大卒業医師） 内科(総合診療科)による午後診療開始

21. 4. 1	整形外科が非常勤に 月・水・金 午前診療 久美愛厚生病院派遣の小児科外来中止 富山大学派遣の小児科 診療日数増 週2日から週3日に 給食調理業務を全面委託化 (日清医療食品) 小田切春洋名誉院長に就任
5. 1	内科(総合診療科)による午後診療時間延長 13:30～17:00 高山赤十字病院派遣の整形外科診療開始 第1・3金曜日
9. 1	MRIを 1.5T に更新 (旧連続撮影室へ設置)
11. 1	病院総合情報システム(電子カルテシステム) 運用開始
11.30	省エネルギー改修工事 (空調、照明の省エネ化工事) 着工 工期 23.3.23まで
22. 3. 1	循環器内科 月曜日午前診療 追加
22. 4. 1	呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科を標榜 整形外科 週4日診療 (月・水・木・金) 西能病院から整形外科医師派遣 第2.4.5木曜日 高山赤十字病院から整形外科医師派遣 第1.3木曜日 (H23.10.31まで 11月以降は西能病院医師が木曜日診療)
23. 2. 1	婦人科 富山大学派遣 火曜日午前診療
3. 7	省エネルギー改修工事 (空調、照明の省エネ化工事)完成
23. 4. 1	小児科が月・水・金診療に変更 (月 午前・午後診療 高山日赤 水・金 午前診療 富山大学) 岐阜大学医学部附属病院・高山赤十字病院の 臨床研修協力施設として研修医受入
6. 1	眼科が非常勤に
12. 1	糖尿病外来 火曜日午前診療 追加
24. 4. 1	岐阜県から内科医師2名派遣 (自治医大卒業医師) 富山大学医学生 病院実習受入 <神通川プロジェクト開始> 岐阜大学医学生(3年生) 地域配属実習受入
25. 4. 1	岐阜県から内科医師1名派遣 (自治医大卒業医師) 富山大学附属病院の臨床研修協力施設として研修医受入
26. 3.14	全身コンピューター断層撮影装置更新 東芝製 80列
26. 4. 1	岐阜県から外科医師1名、内科医師1名派遣 (自治医大卒業医師)
27. 3.25	総合物流管理システムの更新
27. 4. 1	岐阜県から外科医師1名、内科医師1名派遣 (自治医大卒業医師)
28. 3.24	電子カルテ及び関連システム更新事業 完了
28. 4. 1	岐阜県から外科医師1名、内科医師1名派遣 (自治医大卒業医師)
29. 1. 1	地域包括ケア病床管理料 8床
29. 4. 1	岐阜県から外科医師1名、内科医師1名派遣 (自治医大卒業医師) 富山大学附属病院から総合診療科医師1名派遣
29. 4. 3	富山県立中央病院の臨床研修協力施設として研修医受入

29. 9.30	岐阜県派遣内科医師1名が結婚協定により石川県に異動
29.10. 2	岐阜大学附属病院の臨床研修協力施設として研修医受入
29.10.31	飛騨市訪問看護ステーション閉鎖
29.11.30	長時間心電図解析装置更新 日本光電製
29.12. 8	高山労働基準監督署の立入検査
30. 3.29	医事会計システム・訪問系介護請求システム更新
30. 4. 1	岐阜県から外科医師1名、内科医師1名派遣（自治医大卒業医師） 小児科医師常駐化 地域包括ケア病床管理料 4床増床
31. 4. 1	岐阜県から内科医師1名派遣（自治医大卒業医師） 富山大学附属病院から総合診療科医師1名派遣 皮膚科 金曜診療を増設し、月・金診療となる
令和 1. 9.17	医師宿日直及び看護師宿直業務について高山労働基準監督署長より労働 基準法第41条第3号に基づく断続的な宿直又は日直勤務が許可された
1. 9.26	厚生労働省が『再編統合の必要性について特に議論が必要な公立・公的 医療機関等』として当院を含む全国424の公立・公的病院の名前を公表
1.10. 1	岐阜県から内科医師1名派遣（自治医大卒業医師）
1.11.26	岐阜県からへき地医療拠点病院に指定される
2. 4. 1	岐阜県から内科医師1名派遣（自治医大卒業医師） 富山大学附属病院から総合診療科医師1名派遣
2.12. 8	宿直員業務について高山労働基準監督署長より断続的労働に従事す る者に対する適用除外が許可された
3. 1. 1	一般病床54床、療養病床27床とする
3. 2. 1	地域包括ケア病床管理料8床増床し20床とする
3. 4. 1	岐阜県から内科医師1名派遣（自治医大卒業医師） 富山大学附属病院から総合診療科医師1名派遣
4. 3.30	電子カルテ及び関連システム更新事業 完了
4. 4. 1	岐阜県から内科医師1名派遣（自治医大卒業医師） 富山大学附属病院から総合診療科医師1名派遣 松波総合病院から専攻医の医師1名受入れ（1年間） 枚方公済病院より専攻医の医師1名受入れ（4ヶ月）
5. 3.20	人工透析装置更新事業 完了
5. 3.24	MR I 装置更新事業 完了

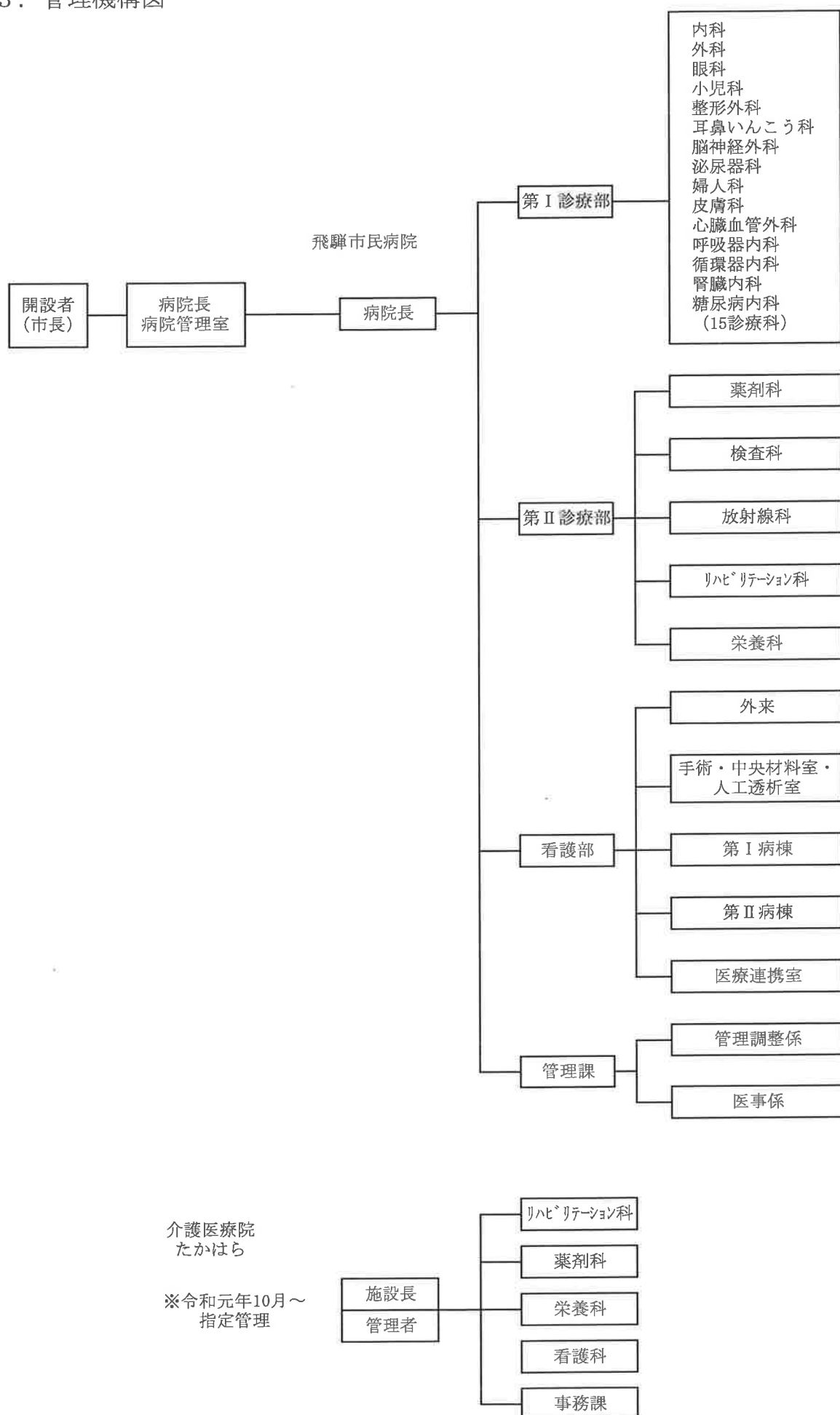
② 介護医療院たかはら

明治 7.	三井組が鉱山経営に進出
19.	三井組が全鉱区を一括経営、鹿間谷に機械選鉱場の建設に着手 ・明治20年制定の神岡鉱山療病科規則によると、大富(おおどめ) 鉱山に 医師2名が常駐し、交代で本山・支山を巡回するとあり、鉱山の「お かかえ医師」がいたと推測される。
22.	三井組が『鹿間医院』を開設
23. 2.	栃洞坑北盛事務所に出張診療所開設 (大富鉱山の医師駐在は廃止)
28.11.	『上平分院』を開設 (場所：神岡町東茂住544・2) (この後鉱山が各地区に診療所を開設(閉鎖)するが、この関係は略)
40. 9.	鹿間医院を『神岡鉱業所医院』に名称変更(場所：神岡町鹿間162-1)
昭和 9. 1.	神岡鉱業所医院、病院認可 病床数 14床 医師 2名
22. 6.14	鹿間工場の火災により医院類焼
26. 1.19 10.	『神岡鉱山病院』に名称変更 病床数 23床 新病院完成 (場所：神岡町東町608・1) 病床数 80床 診療科目 内科、外科、眼科、耳鼻咽喉科、産婦人科、歯科
31.11.	殿診療所を廃止し、『夕陽ヶ丘病院』を開設 (場所：神岡町殿531) 病床数 結核40床 診療科目 内科、外科(外来のみ)
38. 5.	神岡鉱山病院の耳鼻咽喉科閉鎖
40. 8.	〃 産婦人科閉鎖
42. 2	神岡鉱山病院の病床数を96床に変更
44. 8.	保険医療機関に指定 (国保は除外)
49. 9	夕陽ヶ丘病院の病床を一般33床に変更
54. 8 12	夕陽ヶ丘病院の病床を41床に増床 国民健康保険指定医療機関に認定
61. 3.31 7. 1	三井金属鉱業㈱が300余名の人員削減計画を発表する。 三井金属鉱業㈱から神岡鉱業㈱が分離発足
平成 9. 4. 1	神岡町に病院問題専任の担当職員を置く。
10. 2. 5 5.31 12.31	神岡鉱業㈱が神岡鉱山病院の経営移譲を神岡町に申し入れる。 神岡町と神岡鉱業㈱が移譲についての協定書を交換 神岡鉱山病院 外来診療を中止
11. 3.31	神岡鉱山病院及び夕陽ヶ丘病院を閉鎖
11. 4. 1	『ケアホスピタルたかはら』開院 (旧鉱山病院施設設備を借用) 病床数 76床(療養型病床 50床 特例許可老人病床 26床) 診療科 内科、リハビリテーション科(外来は行わない) 開設者 神岡町長 病院長 江尻倫昭

12. 4. 1 11. 1	介護療養型医療施設（療養型病床 50床）に指定 特例許可老人病床 26床を療養型病床に変更
13. 8.29 12. 1	新病院建築安全祈願祭(起工式)(場所：神岡町殿1081-19) 全床を介護療養型医療施設に変更
14.11.29	新病院完成（完成式12月10日）
15. 3.21 4. 1 8. 1	新病院開院(場所：神岡町殿1081-19) 給食調理業務を委託 今井英孝病院長に就任
16.1.31 2. 1 17. 4. 1	合併により『ケアホスピタルたかはら』廃止 神岡町、古川町、河合村、宮川村が合併し飛騨市となる 『ケアホスピタルたかはら』を開設 開設者 飛騨市長 病院長 今井英孝 千鳥哲也病院長に就任
18.11.30	自動入浴装置（車椅子用）更新
20. 3.31	ケアホスピタルたかはら 廃止 （介護療養型医療施設 76床）
20. 4. 1	老人保健施設たかはら 設置（介護老人保健施設） 入所定員 76人 千鳥哲也管理者兼施設長に就任
21. 4. 1 5. 1	リハビリテーション体制強化（理学療法士1名、作業療法士1名） 夜勤 4人体制
23. 1.31 2. 1	千鳥哲也管理者兼施設長退職 小田切春洋管理者兼施設長に就任
24. 4. 1	梶野厚子施設長に就任（小田切春洋管理者）
26. 4. 1 26.10.14	小森弘子施設長に就任（小田切春洋管理者） 移動型X線撮影装置 購入
29.10.12	電気式スチームコンベクションオープン 購入
30. 9.28	監視カメラ装置 購入
31. 4. 1 令和 1.10. 1 2. 3.31	下垣恵子施設長に就任（小田切春洋管理者） 社会福祉法人神東会に指定管理を委託（医療従事者等11名を在籍出向とする） 老人保健施設たかはら 廃止
2. 4. 1	介護医療院たかはら 開設（医療従事者等10名を在籍出向とする） 入所定員 58人
3. 1.12 3. 2.19	全館Wi-Fi設備 設置 ブラストチラー 購入
4.11.16 5. 1.23	車椅子式入浴装置更新事業 完了 冷凍冷蔵機器更新事業 完了

5. 2.24	食器洗浄機更新事業 完了
5. 3.22	ナースコールシステム更新業務 完了

3. 管理機構図



4. 診療科目等の推移

	飛騨市民病院															備 考
	内 科	外 科	整 形 外 科	脳 神 経 外 科	産 婦 人 科	婦 人 科	小 児 科	耳 鼻 い ん こ う 科	泌 尿 器 科	眼 科	皮 膚 科	呼 吸 器 内 科	循 環 器 内 科	腎 臓 内 科	糖 尿 病 内 科	○は、通常診療 △は、曜日指定等での診療 ▽は、期間限定の診療 黒抜きは、診療の中止
36年度	○	○			○		○			●						7.31 眼科診療中止
42年度	○	○			○		●									11.30 小児科診療中止
44年度	○	○			●											9.30 産婦人科診療中止
45年度	○	○				△		▽								6.1 婦人科週1回で開始 夏休み期間に耳鼻科特別検診
46年度	○	○				▲		▽								7.31 婦人科診療中止
47年度	○	○						△								4.1 耳鼻咽喉科週1回で再開
49年度	○	●						△								4.30 外科診療中止
51年度	○							○								4.1 耳鼻咽喉科常駐に
53年度	○	○						○								4.1 外科再開
57年度	○	○	△					○	△							4.1 整形外科隔週1回で新設 泌尿器科週1回で新設
58年度	○	○	△				○	○	△							4.1 小児科再開
59年度	○	○	○				○	○	△							4.1 整形外科常駐
2年度	○	○	○	△			○	○	△							5.1 新病院開設により脳神経 外科を標榜
3年度	○	○	○	△		△	○	△	△							4.1 婦人科週1回で再開 耳鼻咽喉科が週2回に
6年度	○	○	○	△		△	○	△	△	△ ○						4.1 眼科週2回で再開 7.1 眼科常駐に
11年度	○	○	○	△		△	○	△	△	○	△					4.1 皮膚科週1回開設
18年度	○	○	○	△		△	○	△	△	○	△					7.1 心臓血管外科月2回で開設
19年度	○	○	○	△		△	△	△	△	○	△					4.1 小児科が非常勤医師に
21年度	○	○	△	△		△	△	△	△	○	△					4.1 整形外科が非常勤医師に
22年度	○	○	△	△		△	△	△	△	○	△	△	△	△		4.1 呼吸器内科、循環器内科 腎臓内科 標榜
23年度	○	○	△	△		△	△	△	△	○	△	△	△	△	△	6.1 眼科非常勤 12.1糖尿病内科
26年度	○	○	△	△		△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
30年度	○	○	△	△		△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	4.1 小児科常駐
31年度 (元年度)	○	○	△	△		△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	4.1 皮膚科週2回で開設
3年度	○	○	△	△		△	○	△	△	△	△	△	△	△	△	4.1 リウマチ膠原病内科月2回で開設

	たかはら													備 考	
	内 科	シ リ ハ ビ リ ン テ ー 科												○は、通常診療	
11年度	○	○												4.1 たかはら開院	
20年度														4.1 たかはらが老人保健施設に	
元年度														10.1 社会福祉法人神東会が指定管理に	
2年度														4.1 たかはらが介護医療院に	

5. 職員数の推移

各年度4月1日現在(人)

職 種			30年度	31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
飛 騨 市	正 規 職 員	医師	5	5	5	5	7		
		看 護 師	看護師	37	38	37	40	36	
			准看護師	3	3	3	3	4	
			小計	40	41	40	43	40	
		医 療 技 術 員	薬剤師	3	4	3	2	2	
			診療放射線技師	3	3	3	3	3	
			臨床検査技師	2	2	2	2	2	
			臨床工学技士	2	2	2	3	3	
			理学療法士	6	8	8	8	8	
			作業療法士	0	1	1	1	2	
			視能訓練士	0	0	0	0	0	
			管理栄養士	1	1	1	1	1	
	小計		17	21	20	20	21		
	そ の 他	事務員	5	5	5	6	7		
		社会福祉士	0	0	1	1	1		
		調理員	0	0	0	0	0		
		小計	5	5	6	7	8		
	正規職員計		67	72	71	75	76		
	民 病 院	嘱 託 ・ 臨 時 等	医師	0	0	0	0	0	
			看 護 師	看護師	11	10	10	11	10
				准看護師	5	5	4	4	4
				小計	16	15	14	15	14
			医 療 技 術 員	介護福祉士	1	1	0	1	1
				看護補助員	4	4	5	4	4
				臨床検査技師	1	1	1	1	1
				臨床工学技士	1	1	1	1	1
				管理栄養士	0	0	0	0	0
				小計	7	7	7	7	7
そ の 他				事務員	18	15	17	18	16
			調理員	0	0	0	0	0	
		用務員等	10	5	5	5	5		
		小計	28	20	22	23	21		
嘱託職員等計		51	42	43	45	42			
派遣職員(医療・金融)		1	2	3	3	2			
合 計		119	116	117	123	120			

各年度4月1日現在(人)

職 種			30年度	31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度		
介護医療院 たかはら	正規職員	医師	0	0	0	0	0		
		看護師	看護師	4	4	4	5	5	
			准看護師	4	3	2	2	2	
			介護支援専門員	0	1	0	0	0	
			小計	8	8	6	7	7	
		医療技術員	薬剤師	0	0	0	0	0	
			診療放射線技師	0	0	0	0	0	
			臨床検査技師	0	0	0	0	0	
			理学療法士	2	2	2	2	2	
			作業療法士	0	0	0	0	0	
			管理栄養士	1	1	1	1	1	
			栄養士	1	0	0	0	0	
			小計	4	3	3	3	3	
		事務員	1	1	1	1	0		
	正規職員計		13	12	10	11	10		
	嘱託・臨時等	医師	医師	1	1	0	0	0	
			看護師	看護師	1	1	0	0	0
				准看護師	4	3	0	0	0
				小計	5	4	0	0	0
		医療技術員	介護支援専門員	1	0	0	0	0	
			相談員	1	1	0	0	0	
			介護福祉士	16	13	0	0	0	
			看護補助員	9	8	0	0	0	
			歯科衛生士(兼事務)	1	1	0	0	0	
			管理栄養士	0	0	0	0	0	
			小計	28	23	0	0	0	
			その他	事務員	2	2	0	0	0
		相談員		0	0	0	0	0	
用務員等		7		7	0	0	0		
小計	9	9		0	0	0			
嘱託職員等計		43	37	0	0	0			
合 計		56	49	10	11	10			

職 種			30年度	31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
訪 看	看護師		0	0	0	0	0
	臨 時	看護師	0	0	0	0	0
		事務員	0	0	0	0	0
	計		0	0	0	0	0
施 設 総 計			175	165	127	134	130

6. 主な医療機器等の整備状況

年度	機器名	形式・規格	区分	数量	取得月日	設置場所
30	電気手術器	エネルギープラットフォーム	更新	1	6.19	手術室
	非接触式眼圧計	ノンコンタクトタイプトノメーター	新規	1	6.29	外来
	エアウェイスコープ	AWS-S200	新規	1	8.31	手術室
	エアーストレッチャー	CYN-11R	新規	2	8.31	管理課
	適温配膳車	NFRW-EⅡ-36	更新	1	9.11	栄養科
	ハイローストレッチャー	ハッドマウントベッド KK-728B	新規	1	9.19	第2病棟
	デジタル身長体重計・昇降補助手すり	A&D AD6351 タニタ OP-501	新規	2	11.5	外来・第1病棟
	X線透視診断装置	SONIALVISION G4 D150BC-40S	更新	1	11.26	放射線科
	メガライトルミビュー	ML-500B	更新	1	11.30	外来
	NetViewPro	アキュラ Optovue i-vue100画像	新規	1	12.12	外来
	マスク専用手動式自動販売機	竹虎 090188	新規	1	1.31	管理課
	輸液ポンプ	テルモ TE-281N	新規	1	2.12	管理課
	抗悪性腫瘍剤無菌調整用陰圧アイソレーター	CS500	新規	1	3.26	薬剤科
元	シャッター鍵付ボックスセット	サカセ化学工業(株) HA5-SB021L	新規	1	6.20	薬剤科
	電動診察台	タカラベルモント(株) EX-CS6	更新	1	8.15	外来
	内視鏡スコープ	富士フイルム(株) EG-L580NW他2本	更新	1	9.27	内視鏡室
	超音波画像診断装置	コニカミノルタ(株) SONOVISTA GX-30	更新	1	12.16	外来
	人工呼吸器	日本光電工業(株) HAMILTON-C1	更新	1	12.23	看護部
	医用テレメーター	日本光電工業(株) WEP-1400-Z04	更新	1	12.23	看護部
	デスクトップパソコン	富士通(株) ESPRIMO D588/BX D4300JP	更新	1	1.9	管理課
	検食用冷凍庫	(株)日立製作所 RF-U11AFK	更新	1	2.7	栄養科
	全自動尿統合型分析システム	シーメンスヘルスケア・ドイツ・ノスティックス(株)	更新	1	2.20	検査科
	タブレット型超音波画像診断装置	キャノンメディカルシステムズ(株) Viamo sv7 CUS-VSV7	更新	1	2.20	人工透析室
	キャスター付油圧式昇降ベッド	(株)高田ベッド製作所 TB-1350	更新	1	3.11	リハビリ
	全自動血圧計	フクダコーリン(株) HBP-9035	更新	1	3.31	外来
2	バリアフリースケール	(株)エー・アンド・デイ AD-6107R	新規	1	5.8	透析室
	コンパクト視力計	(株)トメーコーポレーション CA-2000	新規	1	5.12	外来
	ハイローストレッチャー	ハッドマウントベッド(株) KK-728B	更新	1	5.19	看護科
	HEPAフィルター付きクリーンパーテーション	オリエンタル技研工業(株) CP-C 1700610001	新規	1	6.5	外来
	麻薬管理システム	PHC(株) KM-ZSNTAYK、KM-ZSFTTKYK	更新	1	7.15	薬剤科
	電動診察台	タカラベルモント(株) EX-CS6	更新	1	8.17	外来
	HEPAフィルター付きクリーンパーテーション	オリエンタル技研工業(株) CP-C 1700610001	新規	1	8.27	外来
	薬用冷蔵ショーケース	福島工業(株) FMS-400GH 494L	更新	1	9.24	薬剤科
	業務用冷凍冷蔵庫	ホシザキ(株) HRF-120A	更新	1	11.13	栄養科
	消毒保管庫(電気式)	(株)フジマック FEDBW40	更新	1	12.23	栄養科
	インターネット用ノートパソコン	HP(株) ProBook 430 G6	新規	12	12.28	管理課
	タブレット端末	iPad Pro12.9インチ(5) iPad Air10.9インチ(22) Apple Pencil(27)	新規	27	1.19	管理課
	感染症遺伝子検査装置	アボット・ドイツ・ノスティックス(株) ID NOW インストUMENT	新規	1	2.2	検査科
	全自動血液凝固測定装置	シスメックス(株) CA-650	更新	1	3.23	検査科
	HEPAフィルター付きクリーンパーテーション	日本エアテック(株) ACP-897AH	新規	2	3.23	外来
	医療用陰圧式エアータント	アキレス(株) NP-45	新規	1	3.26	管理課
	薬剤在庫管理システム	(株)メディセオ MEDiCEO-Q1zig	更新	1	3.26	薬剤科
	感染症遺伝子検査装置	アボット・ドイツ・ノスティックス(株) ID NOW インストUMENT	新規	1	3.26	検査科
	オンライン資格確認等システム	エプソン・インク(株) Endeavor	新規	1	3.29	管理課
	診察用組立式ドーム型ハウス	(株)TCL EZ DOME HOUSE	新規	1	3.29	管理課

6. 主な医療機器等の整備状況

年度	機器名	形式・規格	区分	数量	取得月日	設置場所
3	業務用電子レンジ	(株)フジマック NE-1802FM	更新	1	5.25	栄養科
	インターネット用ノートパソコン	Acer A315-56-F58Y/M	更新	1	6.17	管理課
	干渉電流型低周波治療器	JC-2701	新規	1	9.16	リハビリ
	高度救急処置訓練人形	(株)高研 セーブマンスタンダード LM-119S	新規	1	11.22	看護科
	看護師当直室エアコン	日立 RSRK22MW	更新	1	2.28	看護科
	栄養管理システム	マクロビオスジャパン(株) MacrobiosExtension	更新	1	3.1	栄養科
	赤血球沈降速度測定装置	(株)テクノメディカ Quick eye-8	新規	1	3.3	検査科
	臨床検査システムサーバー	(株)日立製作所 Labolute8	更新	1	3.15	検査科
	医用画像情報システム	富士フイルムメディカル SYNAPSE EX	更新	1	3.18	放射線科
	PCA機能付き小型シリンジポンプ	テルモ(株) TE-362PCA	新規	1	3.18	管理課
	フロア型冷却遠心機	久保田商事(株) S500FR	新規	1	3.25	検査科
	看護師寮エアコン	パナソニック CS-281DFL	更新	1	3.28	管理課
	病院情報システム	(株)ソフトウェアサービス 病院情報システム	更新	1	3.30	管理課
	医師住宅C棟 エアコン	パナソニック CS-401DFL	更新	2	3.30	管理課
4	ベッドサイドモニター用送信機	日本光電 ZS-900P	更新	1	5.27	看護科
	ポータブルSP02モニター	コウイテイエンスジャパン(株) PM10N-J	更新	2	6.6	看護科
	内視鏡洗浄消毒器 エントグリス	ASP JAPAM Neo-S Advanced11900	新規	1	8.2	耳鼻咽喉科
	カラーレーザープリンター	リコー(株) SP C840	更新	1	10.3	栄養科
	自動血圧計	フクダコーリン HBP-9035健太郎	更新	1	11.15	外来
	汎用冷凍手術ユニット	(株)ヤヨイ CRY-AC-3 300ml	新規	1	12.5	外来
	キャスター付油圧式昇降ベッド	(株)高田ベッド製作所 TB-1350	新規	1	12.8	外来
	嚥下内視鏡検査用ビデオスコープ	カールストルツェントスコピーシステム(株) CMOSビデオオリラリコンスコープ 2.9mm	更新	3	12.27	内視鏡室
	エアマットレス	(株)モルテン ステージア3台、ヒリフ2台	更新	5	1.20	看護科
	テレビ会議システム	モニター、テレビスタント、ビデオカメラ	新規	1	2.10	管理課
	パソコン	(株)日本HP デスクトップPC3台、ノートPC1台	更新	4	2.20	管理課
	包丁まな板殺菌庫	タニコー(株) TNS-85WF	更新	1	3.7	栄養科
	コイン式全自動洗濯機及びコイン式全自動乾燥機	アケア(株) 洗濯機2台、乾燥機2台	新規	4	3.10	看護科
	個室ブース	コマニー(株) コンフォートクラス2台	新規	2	3.10	管理課
	内視鏡洗浄消毒装置	富士フイルムメディカル(株) ESR-110	更新	2	3.14	内視鏡室
	人工透析装置	ニプロ(株) W-Roxeco II Ao IOL-HR NCV-340	更新	11	3.20	透析室
	超電導磁気共鳴画像診断装置	(株)フィリップスジャパン MR5300	更新	1	3.24	放射線科
	睡眠評価装置	フクダ電子(株) パルスリープ LS-140	更新	1	3.24	検査科
	オートレフケラトメーター	(株)ニデック ARK-F	更新	1	3.29	外来

6. 主な医療機器等の整備状況

年度	機器名	形式・規格	区分	数量	取得月日	設置場所
年度	機器名	形式・規格	区分	数量	取得年月日	設置場所
29	電気式スチームコンベクションオーブン	ニチワ電気 SCOC-101RH	更新	1	10.12	たかはら
	ケアマネ支援システム用ノートパソコン	富士通 FMVA1602TP	更新	2	12.4	たかはら
30	公用自動車	トヨタ カローラフィールダー DBA-NZE164G	更新	1	5.29	たかはら
	監視カメラ装置	JVCケンウッド・公共産業システム 装置一式	新規	1	9.28	たかはら
	電磁調理器	ニチワ電気 MIR-5T	更新	4	1.17	たかはら
元	介護支援ソフト	NDソフトウェア ほのぼのNEXT	更新	1	6.6	たかはら
	液晶テレビ	ソニー KJ-49X8000G	更新	1	9.20	たかはら
	自動輸液ポンプ	ニプロ FP-970EX	更新	1	11.29	たかはら
	間仕切りパネル	スライド式 W1400×H1250	新規	28	3.5	たかはら
2	自動体外式除細動器	フクダ電子(株) AEDハートスタートHS1+e	更新	1	1.12	たかはら
	ブラストチラー	フクシマカブリレ(株) QXF-006SFLV2	更新	1	2.19	たかはら
3	冷凍・冷蔵機器一式	ホシザキ(株) HRF-150AF、RT-150SDG、	更新	3	12.24	たかはら
4	車椅子式入浴装置	酒井医療(株) LA-560MR	更新	1	11.16	たかはら
	冷凍・冷蔵機器一式	ホシザキ(株) 牛乳保冷库1台、検食用冷凍庫1台	更新	2	1.23	たかはら
	食器洗浄機 (コンベアタイプ)	(株)フジマック FADL151	更新	1	2.24	たかはら
	ナースコールシステム	Yuiコール	更新	1	3.22	たかはら

Ⅱ 業 務 の 概 況

1. 業務実績

(人・円)

年度	飛 騨 市 民 病 院				たかはら		訪 問 看 護	
	入 院		外 来		入院・入所		訪 問	
	延患者数	事業収入	延患者数	事業収入	延患者数	事業収入	延患者数	事業収入
	1日平均	1人1日平均	1日平均	1人1日平均	1日平均	1人1日平均	1日平均	1人1日平均
平成	23,940	416,708,500	76,494	507,775,876				
2	65.6	17,406	263.8	6,638				
7	30,144	762,486,869	95,957	749,476,428				
	82.4	25,295	390.1	7,811				
10	28,678	708,902,438	87,525	832,099,167				
	78.6	24,719	355.8	9,507				
11	28,486	741,128,689	90,396	919,735,049	27,554	415,134,073		
	77.8	26,017	369.0	10,175	75.3	15,066		
13	28,273	713,376,971	87,331	882,893,706	27,618	429,406,570		
	77.5	25,232	356.5	10,110	75.7	15,548		
14	29,677	776,595,364	89,488	903,579,237	27,595	429,783,680		
	81.3	26,168	365.3	10,097	75.6	15,575		
15	28,089	770,103,589	84,354	916,594,644	27,640	423,391,676	3,237	25,082,416
	76.7	27,416	342.9	10,866	75.5	15,318	13.2	7,748
16	28,728	739,611,699	79,018	577,412,612	27,360	417,419,998	3,661	28,360,979
	78.7	25,745	325.1	7,307	74.9	15,256	14.9	7,746
17	26,272	724,911,307	79,632	569,328,837	26,890	402,595,485	3,274	23,636,036
	72.0	27,592	326.4	7,149	73.7	14,972	13.4	7,219
18	24,431	694,974,824	76,060	528,247,560	27,568	408,187,586	3,776	28,425,659
	66.9	28,446	310.4	6,945	75.5	14,807	15.4	7,527
19	21,610	584,848,620	63,716	479,300,599	27,351	410,550,420	3,736	30,248,072
	59.0	27,064	259.0	7,522	74.7	15,010	15.2	8,096
20	24,250	603,033,752	60,382	452,620,457	26,358	306,819,490	3,322	26,909,463
	66.4	24,867	248.5	7,496	72.2	11,673	13.7	8,100
21	25,411	639,229,028	60,783	450,157,392	27,247	330,314,370	2,917	22,488,631
	69.6	25,156	251.2	7,406	74.6	12,123	12.1	7,710
22	23,729	643,125,095	63,511	456,184,784	27,333	331,568,707	2,315	19,345,502
	65.0	27,103	261.4	7,183	74.9	12,131	9.5	8,357
23	24,282	628,241,632	59,204	434,402,746	26,643	321,287,689	1,817	15,013,517
	66.3	25,873	242.6	7,337	72.8	12,059	7.4	8,263
24	22,844	586,204,318	55,457	394,805,915	25,650	304,283,100	2,190	17,427,362
	62.6	25,661	226.4	7,119	70.1	11,863	8.9	7,958
25	21,892	563,939,449	53,517	391,216,504	26,832	314,804,564	2,224	18,216,184
	60.0	25,760	219.3	7,310	73.5	11,732	9.1	8,191
26	23,734	625,536,030	53,138	404,690,558	26,007	307,350,380	1,796	13,552,365
	65.0	26,356	217.8	7,616	71.3	11,818	7.4	7,546
27	22,473	619,580,399	52,601	399,428,123	26,844	317,441,902	2,255	16,792,751
	61.4	27,570	216.5	7,594	73.3	11,825	9.3	7,447
28	24,007	635,074,115	51,699	387,064,796	26,088	306,301,757	2,317	17,251,451
	65.8	26,454	212.8	7,487	71.5	11,741	6.3	7,446
29	23,508	660,741,508	51,754	399,480,802	25,258	295,459,830	1,061	11,734,855
	64.4	28,107	212.1	7,719	69.2	11,698	5.8	11,060
30	25,372	702,414,902	54,522	412,402,405	22,963	272,791,992	0	0
	69.5	27,685	223.5	7,564	62.9	11,880	0.0	0
元	22,531	627,804,373	56,015	436,349,407	9,515	113,443,438	0	0
	61.6	27,864	232.4	7,790	52.0	11,923	0.0	0
2	21,131	538,649,573	51,030	412,003,348	0	0	0	0
	57.9	25,491	210.0	8,074	0.0	0	0.0	0
3	21,758	620,889,986	53,770	433,679,284	0	0	0	0
	59.6	28,536	222.2	8,065	0.0	0	0.0	0
4	22,380	587,008,946	57,484	440,558,365	0	0	0	0
	61.3	26,229	236.6	7,664	0.0	0	0.0	0

※ 訪問看護は、平成29年10月末に事業所を閉鎖した。

※ 老人保健施設たかはらは令和元年10月に指定管理となった。

2. 診療科別患者数

(人)

区 分			30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛 騨 市 民 病 院	入	内 科	17,187	18,423	16,833	19,188	21,145
		外 科	8,185	4,108	4,298	2,570	1,235
		眼 科	0	0	0	0	0
	院	計	25,372	22,531	21,131	21,758	22,380
		1 日 平 均	69.5	61.6	57.9	59.6	61.3
	外 来	内 科	28,377	30,217	28,289	31,146	34,647
		外 科	5,218	3,907	3,222	3,084	3,017
		眼 科	1,777	1,806	1,644	1,521	1,610
		整 形 外 科	6,782	6,668	6,316	6,176	5,952
		小 児 科	4,053	4,506	3,286	3,891	4,465
		耳 鼻 咽 科	1,900	2,058	1,714	1,867	1,806
		脳 神 経 外 科	1,690	1,660	1,535	1,174	984
		泌 尿 器 科	2,055	2,240	1,998	1,583	1,615
		婦 人 科	506	637	656	810	711
		皮 膚 科	1,870	2,081	2,192	2,351	2,530
		心臓血管外科	294	235	178	167	147
		計	54,522	56,015	51,030	53,770	57,484
		1 日 平 均	223.5	232.4	210.0	222.2	236.6
た か は ら	入 所	老人保健施設	22,963	9,515	0	0	0
		計	22,963	9,515	0	0	0
		1 日 平 均	62.9	52.0	0.0	0.0	0.0

3. 年代別患者数

(人)

区 分			30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛 騨 市	入 院	0～9歳	0	0	0	0	0
		10～19	19	12	10	6	4
		20～29	98	39	13	72	13
		30～39	144	40	16	116	117
		40～49	498	73	186	148	89
		50～59	1,585	1,292	1,235	801	740
		60～69	2,244	1,745	1,290	1,519	1,306
		70～79	4,457	4,241	5,212	5,590	4,429
		80～89	10,820	9,591	9,140	9,531	10,503
		90歳以上	5,507	5,498	4,029	3,975	5,179
		計	25,372	22,531	21,131	21,758	22,380
	外 来 院	0～9歳	4,095	4,448	3,138	3,818	4,133
		10～19	1,277	1,318	1,202	1,373	1,677
		20～29	610	623	516	668	806
		30～39	1,081	1,110	981	1,269	1,395
		40～49	2,020	2,198	1,919	2,165	2,617
		50～59	4,079	4,670	3,863	3,909	4,196
		60～69	7,861	7,565	6,892	6,947	7,254
		70～79	14,536	14,975	14,535	14,945	15,766
		80～89	15,708	15,804	14,740	14,968	15,432
		90歳以上	3,255	3,304	3,244	3,708	4,208
		計	54,522	56,015	51,030	53,770	57,484
た か は ら	入 所	60～64	0	0	0	0	0
		65～69	66	0	0	0	0
		70～74	218	0	0	0	0
		75～79	2,277	889	0	0	0
		80～84	3,648	1,541	0	0	0
		85～89	6,803	2,635	0	0	0
		90歳以上	9,951	4,450	0	0	0
		計	22,963	9,515	0	0	0

4. 地域別患者数

(人)

区 分			30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛騨市民病院	入院	神岡町	21,060	18,364	16,792	16,436	16,363
		高山市(旧上宝村内)	3,141	2,509	2,816	3,410	3,828
		飛騨市(神岡町以外)	473	902	1,022	941	805
		岐阜県(飛騨市旧上宝以外)	422	331	413	862	1,191
		富山県	96	335	0	13	98
		県外(富山県以外)	180	90	88	96	95
		計	25,372	22,531	21,131	21,758	22,380
	外来	神岡町	45,133	46,157	42,297	43,994	46,932
		高山市(旧上宝村内)	6,943	7,308	6,497	7,243	7,471
		飛騨市(神岡町以外)	1,049	1,200	1,208	1,411	1,647
		岐阜県(飛騨市旧上宝以外)	501	545	450	519	580
		富山県	360	328	267	238	271
		県外(富山県以外)	536	477	311	365	583
		計	54,522	56,015	51,030	53,770	57,484
たかはら	入院・入所	神岡町	20,297	8,946	0	0	0
		高山市(旧上宝村内)	1,236	183	0	0	0
		飛騨市(神岡町以外)	1,279	386	0	0	0
		岐阜県(飛騨市旧上宝以外)	85	0	0	0	0
		富山県	0	0	0	0	0
		県外(富山県以外)	66	0	0	0	0
		計	22,963	9,515	0	0	0

5. 病床利用率

(床・人・%)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛騨市民病院	許可病床数	91	91	81	81	81
	延許可病床数	33,215	33,306	32,315	29,565	29,565
	延患者数	25,372	22,531	21,131	21,758	22,380
	1日平均者数	69.5	61.5	57.9	59.6	61.3
	病床利用率	76.4	67.6	65.4	73.6	75.7
たかはら	許可病床数	76	4～9月 76	0	0	0
	延許可病床数	27,740	4～9月 13,908	0	0	0
	延患者数	22,963	4～9月 9,515	0	0	0
	1日平均者数	62.9	4～9月 52.0	0	0	0
	病床利用率	82.8	4～9月 68.4	0	0	0

6. 飛騨市民病院の病床別利用状況

(床・人・%)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
一般病床	患者数	16,452	14,209	13,551	14,321	14,397
	1日平均患者数	45.1	38.8	37.1	39.2	39.4
	病床利用率	77.7	66.9	65.1	72.7	73.0
	平均在院日数	15.4	14.5	15.1	14.9	16.6
療養病床	患者数	8,920	8,322	7,580	7,437	7,983
	1日平均患者数	24.4	22.8	20.9	20.4	21.9
	病床利用率	74.1	68.9	65.9	75.5	81.0

7. 休日・時間外の患者受入状況

①. 入院・外来別患者数

(人)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院	救急車	129	159	157	133	168
	その他	14	149	136	113	89
外来	救急車	112	159	100	134	142
	外来	1,423	1,421	816	968	1,019
計	救急車	241	318	257	267	310
	外来	1,437	1,570	952	1,081	1,108
	計	1,678	1,888	1,209	1,348	1,418

②. 地域別の患者数

(人)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
地域別	飛騨市	1,322	1,362	1,000	1,029	1,071
	高山市	286	338	156	233	194
	白川村	0	0	0	0	0
	その他	200	188	53	86	153
	計	1,808	1,888	1,209	1,348	1,418

8. 救急車受入件数

(人)

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
救急車受入件数	386	318	257	267	310

9. 飛騨市消防の救急搬送の状況

①. 神岡消防署(飛騨市民病院診療圏)

(件)

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛騨市民病院	265	218	201	199	211
高山赤十字病院	55	61	50	99	76
久美愛厚生病院	15	17	21	39	57
垣内病院	0	0	0	0	0
須田病院	2	0	0	0	0
その他の病院 私的	0	0	0	0	0
その他の病院 公的	0	0	0	0	1
その他の場所	0	0	0	0	0
富山大学附属病院	49	47	39	33	22
富山市民病院	3	2	1	0	0
富山県立中央病院	2	5	4	8	4
富山赤十字病院	0	1	2	0	2
済生会富山病院	2	0	0	0	0
富山西総合病院(八尾総合病院)	0	0	0	0	1
管外 公立病院	0	0	0	0	0
管外 公的病院	1	1	0	0	0
管外 私的病院		2	0	0	4
Drへリ	17	14	8	9	9
医師搬送	0	0	0	1	0
不搬送	20	17	13	16	16
計	431	385	339	404	403

②. 古川消防署・北分署(宮川)

(件)

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛騨市民病院	14	9	5	9	9
高山赤十字病院	301	269	251	309	356
久美愛厚生病院	334	292	326	319	383
垣内病院	6	9	2	0	1
古川病院	0	0	0	0	0
須田病院	0	0	0	1	1
私的診療所	1	0	0	1	0
その他の病院 私的	0	0	0	0	1
その他の病院 公的	0	0	0	0	2
その他の場所	0	0	0	0	0
富山大学附属病院	0	0	0	0	0
富山市民病院	2	0	0	1	0
富山県立中央病院	1	0	1	1	0
富山赤十字病院	0	0	0	0	0
八尾総合病院	0	0	0	0	0
管外 公立病院		0	0	0	0
管外 公的病院		0	0	0	0
管外 私的病院		1	1	0	0
Drへリ	0	6	0	1	4
医師搬送	0	0	0	0	0
不搬送	32	37	25	32	42
計	691	623	611	674	799

10. 調剤処方箋枚数等

(枚・件)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛騨市民病院	入院処方	11,320	10,277	10,419	10,340	9,520
	外来処方	36,784	37,458	33,461	34,863	38,210
	内 院外処方	35,911	36,574	32,991	34,304	37,059
	院外処方率	97.6%	97.6%	98.6%	98.4%	97.0%
	計	48,104	47,735	43,880	45,203	47,730
	薬剤管理指導	495	376	269	67	46
たかはら	処方	1,460	567	0	0	0
	計	1,460	567	0	0	0

11. 放射線撮影件数

(件)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛騨市民病院	直 接	10,914	10,095	9,225	9,216	9,160
	マ ン モ	186	191	198	222	223
	透 視	184	96	80	80	71
	C T	2,847	2,546	2,480	3,011	2,989
	M R I	922	993	938	919	575
	計	15,053	13,921	12,921	13,448	13,018

12. 検査取扱件数

(件)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛騨市民病院	尿 糞 検 査	9,668	9,791	9,183	8,601	8,834
	微 生 物	4,123	4,760	3,029	4,829	6,896
	生 化 学 I	158,477	162,655	129,685	127,227	133,609
	血 液 学	25,595	26,470	24,382	22,563	23,489
	病 理 学	690	728	552	738	656
	生化学Ⅱ・免疫	17,674	16,637	16,457	14,342	13,591
	内 視・超音波	3,186	2,984	2,468	2,652	2,344
	生 体 検 査	20,188	19,183	19,646	19,933	21,567
	そ の 他	1,831	763	955	2,380	4,109
	計	241,432	243,971	206,357	203,265	215,095

13. 手術件数

平成22年度以降は、手術室で行なった手術件数

(件)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛驒市民病院	皮膚・皮下組織	5	4	3	5	0
	筋骨格系・四肢体幹	54	25	10	1	3
	腹部	29	5	10	6	6
	胸部	1	2	1	2	1
	顔面・口腔・頸部	0	0	0	0	0
	眼	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	計	89	36	24	14	10
閉鎖循環式全身麻酔		56	18	4	1	0

14. 給食数

(食)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
飛驒市民病院	一般食	47,091	42,215	40,298	39,094	39,319
	特別食	22,175	18,708	17,770	21,853	21,333
	その他	1,516	1,192	1,150	1,183	1,143
	計	70,782	62,115	59,218	62,130	61,795
たかはら	一般食	67,494	27,626	0	0	0
	特別食	2,175	1,424	0	0	0
	計	69,669	29,050	0	0	0

15. 透析件数

(回)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院		243	234	373	513	376
外来	4時間未満	498	740	934	779	964
	4～5時間未満	2,048	2,079	2,315	2,032	1,814
	5時間以上	2	22	32	1	0
	その他	0	0	0	31	0
計		2,791	3,075	3,654	3,356	3,154

注: 市民病院のみ

16. リハビリ件数

(回)

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
入院	運動器	4,646	3,964	3,549	4,545	3,407
	脳血管	2,788	3,134	2,551	1,721	1,390
	呼吸器	143	202	136	137	172
	がん	485	532	381	579	298
	廃用症候群	5,101	6,269	6,511	6,127	6,688
	退院時指導	169	78	24	13	14
	退院前訪問指導	1	2	7	1	6
	計画提供料	2	1	1	1	5
	総合計画評価	(650)	(686)	(298)	(204)	(230)
計		13,335	14,182	13,160	13,124	11,980
外来	運動器	1,077	1,098	1,234	1,592	1,366
	脳血管	488	384	407	427	523
	呼吸器	67	60	108	32	45
	廃用症候群	133	134	48	103	52
	計画提供料	1	0	0	0	3
	心身医学療法	0	0	0	0	0
	総合計画評価	(369)	(296)	(235)	(276)	(238)
	訪問リハ	1,337	2,065	2,671	2,498	2,607
	計	3,103	3,741	4,468	4,652	4,596

17. 健康診断

(人)

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
健康診断	2,044	2,087	1,922	1,877	1,826
短期ドック	870	828	816	899	949
内 脳ドック	92	126	92	65	67

18. 研修医・学生実習

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
前期研修医 合計	31	36	29	34	39
高山赤十字病院	2	7	3	5	4
富山大学附属病院	5	4	1	1	3
名古屋掖済会病院	7	9	10	10	9
大垣市民病院	6	2	4	4	3
岐阜県総合医療センター	2	2	1	3	4
富山県立中央病院	6	6	6	3	4
岐阜大学附属病院	3	2	0	1	2
中部国際医療センター		4	3	3	3
富山市民病院			1	4	2
岐阜市民病院					5
医学生実習 合計	16	14	10	10	13
岐阜大 地域配属 2年	3	2	0	2	1
富山大 神通川 6年	0	0	0	0	1
神通川4・5年	13	11	10	6	10
神通川 1年	0	0	0	0	0
自治医科大学 5年	0	0	0	0	0
夏期実習 岐阜大	0	1	0	2	1
夏期実習 富山大	0	0	0	0	0
看護学生実習 合計					4
中部学院大学					4
医療技術学生研修 合計					5
サンビレッジ国際医療福祉専門学校					2
北陸大学					1
日本福祉大学					2

Ⅲ 財 務 の 概 況

1. 年度別損益計算書

① 飛騨市民病院

単位:千円

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
総 収 益	1,409,089	1,459,425	1,400,096	1,525,163	1,584,284
医業収益	1,210,815	1,166,115	1,061,874	1,197,916	1,168,352
入院収益	702,415	627,804	538,650	620,890	587,009
外来収益	412,402	436,350	412,003	433,679	440,559
その他医業収益	95,998	101,961	111,221	143,347	140,784
うち救急輪番負担金	16,066	15,782	15,782	15,965	15,924
医業外収益	198,274	265,651	338,222	327,095	395,779
受取利息・配当金	1,280	988	817	657	700
国・県補助金	0	0	57,671	33,735	39,133
他会計補助金	164,548	236,063	251,934	262,624	322,639
患者外給食収益	0	0	0	0	0
長期前受金戻入	26,411	22,450	21,081	15,958	22,985
その他医業外収益	6,035	6,150	6,719	6,511	9,341
寄附金	0	0	0	7,610	981
特別利益	0	27,659	0	152	20,153
総 費 用	1,461,684	1,464,414	1,468,970	1,494,304	1,617,559
医業費用	1,416,010	1,390,170	1,404,647	1,419,202	1,526,251
給与費	891,550	871,478	761,034	756,920	790,649
材料費	145,996	137,305	126,324	152,220	149,112
薬品費	63,437	68,090	52,230	54,092	54,067
診療材料費	79,294	65,191	70,617	94,126	91,012
給食材料費	2,095	1,970	2,033	2,695	2,371
医療消耗備品費	1,170	2,054	1,444	1,307	1,662
経 費	238,363	245,844	393,278	402,184	456,593
光熱水費	21,427	19,198	19,646	19,617	33,286
燃料費	23,443	23,173	25,787	29,635	33,705
賃借料	27,234	29,053	30,342	30,332	28,659
委託料	131,364	136,826	138,109	148,939	147,332
その他	34,895	37,594	179,394	173,661	213,611
減価償却費	134,365	131,765	122,421	104,734	119,683
資産減耗費	2,563	654	172	1,600	7,675
研究研修費	3,173	3,124	1,418	1,544	2,539
医業外費用	45,674	48,994	64,323	75,102	81,283
支払利息・企業債諸費	3,229	2,800	2,417	2,096	1,922
患者外給食材料費	0	0	0	0	0
雑支出	42,445	46,194	61,906	73,006	79,361
特別損失	0	25,250	0	0	10,025
当 年 度 純 損 失	△ 52,595	△ 4,989	△ 68,874	30,859	△ 33,275

② 介護医療院たかはら

単位:千円

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
総 収 益	301,641	187,976	84,812	90,286	83,098
介護収益	275,321	114,334	0	0	0
介護収益	272,792	113,443	0	0	0
その他介護収益	2,529	891	0	0	0
介護外収益	26,320	56,685	84,812	90,286	83,098
受取利息・配当金	0	0	0	0	0
他会計補助金	2,145	2,011	1,874	1,736	1,595
県補助金	0	353	0	0	0
長期前受金戻入	17,390	17,524	18,057	18,196	18,337
その他介護外収益	6,785	36,797	64,881	70,354	63,166
特別利益	0	16,957	0	0	0
総 費 用	325,644	207,447	104,918	107,520	104,774
介護費用	313,187	197,791	99,980	102,919	98,678
給与費	199,893	125,704	73,890	77,273	70,198
材料費	6,678	3,877	0	0	0
薬品費	1,358	548	0	0	0
診療材料費	4,411	2,572	0	0	0
給食材料費	829	489	0	0	0
医療消耗備品費	80	268	0	0	0
経 費	79,087	42,991	1,329	1,011	3,649
光熱水費	9,521	4,669	0	0	0
燃料費	6,892	3,264	0	0	0
賃借料	2,585	1,285	0	0	0
委託料	48,241	26,608	0	0	0
その他	11,848	7,165	1,329	1,011	3,649
減価償却費	27,375	25,102	24,761	24,558	24,511
資産減耗費	43	0	0	77	320
研究研修費	111	117	0	0	0
介護外費用	12,457	9,106	4,938	4,601	6,096
支払利息・企業債諸費	5,364	5,029	4,687	4,341	3,989
雑支出	7,093	4,077	251	260	2,107
特別損失	0	550	0	0	0
当 年 度 純 利 益	△ 24,003	△ 19,471	△ 20,106	△ 17,234	△ 21,676

2. 年度別資本的収支

		(税込み)				単位:千円
区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
飛騨市民病院	資本的収入	17,332	12,646	31,309	126,507	282,082
	企業債	0	0	0	121,700	230,000
	一般会計繰入金	14,187	11,471	10,700	4,807	51,582
	寄付金	3,145	1,175	2,490	0	500
	一般会計補助金	0	0	0	0	0
	国・県補助金	0	0	18,119	0	0
	国保事業会計補助金	0	0	0	0	0
	資本的支出	104,598	81,743	75,237	183,057	269,798
	建設改良費	43,698	33,665	30,670	175,104	235,700
	企業債償還金	60,900	48,078	44,567	7,953	34,098
	資本的収入が資本的支出に対して不足する額	87,266	69,097	43,928	56,550	△ 12,284
た か は ら	資本的収入	9,220	12,882	9,490	9,629	9,770
	企業債	0	0	0	0	0
	一般会計繰入金	9,220	9,354	9,490	9,629	9,770
	寄付金	0	0	0	0	0
	補助金	0	3,528	0	0	0
	資本的支出	28,616	28,304	25,256	25,072	41,138
	建設改良費	5,566	4,918	1,529	998	16,712
	企業債償還金	23,050	23,386	23,727	24,074	24,426
	資本的収入が資本的支出に対して不足する額	19,396	15,422	15,766	15,443	31,368
	資本的収入が資本的支出に対して不足する額の計	106,662	84,519	59,694	71,993	19,084
源 補 の て 内 ん 訳 財	消費税資本的収支調整額	896	179	171	1,255	1,601
	建設改良積立金	0	0	0	0	0
	減債積立金	0	0	0	0	0
	過年度分損益勘定留保資金	105,766	84,340	59,522	70,738	140,307
	当年度分損益勘定留保資金	0	0	0	0	0

注:補てん財源内訳は、一括で計上している。

3. 年度別貸借対照表

単位:千円

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
固定資産	1,663,493	1,541,431	1,423,519	1,452,948	1,515,897
有形固定資産	1,663,493	1,541,431	1,423,519	1,452,948	1,515,793
建物	3,450,714	3,450,714	3,450,714	3,450,714	3,450,714
減価償却累計額	△ 2,000,773	△ 2,100,825	△ 2,196,303	△ 2,289,660	△ 2,379,409
構築物	57,792	57,792	57,792	57,792	57,792
減価償却累計額	△ 54,298	△ 54,380	△ 54,433	△ 54,485	△ 54,537
機器及び備品	985,268	1,016,093	1,045,364	1,177,986	1,242,485
減価償却累計額	△ 779,127	△ 831,102	△ 882,225	△ 891,480	△ 802,804
車両	11,349	11,349	11,349	11,349	11,349
減価償却累計額	△ 7,680	△ 8,210	△ 8,739	△ 9,268	△ 9,797
リース資産	4,469	0	0	0	0
減価償却累計額	△ 4,221	0	0	0	0
建設仮勘定	0	0	0	0	0
投資その他資産	0	0	0	0	104
破産更生債権等貸倒引当金	0	0	0	0	104
流動資産	1,693,513	1,681,956	1,684,675	1,890,966	1,919,636
現金預金	1,248,433	1,424,675	1,391,513	1,598,713	1,618,680
未収金	428,456	242,373	277,705	277,190	286,248
貯蔵品	11,624	9,908	10,457	10,063	9,708
前払金					
保管有価証券	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
(資産合計)	3,357,006	3,223,387	3,108,194	3,343,914	3,435,533
固定負債	466,851	398,557	366,529	431,323	477,957
企業債	466,851	398,557	366,529	431,323	477,957
リース債務	0	0	0	0	
引当金	0	0	0	0	
流動負債	225,681	199,261	203,415	380,432	501,206
企業債	71,465	68,294	32,028	56,907	83,367
リース債務	248	0	0	0	0
未払金	106,693	82,265	109,816	262,377	358,702
引当金	42,275	43,702	56,571	55,088	54,137
その他流動負債	5,000	5,000	5,000	6,060	5,000
繰延収益	343,162	327,542	329,203	309,486	288,647
長期前受金	869,637	893,991	934,790	949,226	964,594
長期前受金収益化累計額	△ 526,475	△ 566,449	△ 605,587	△ 639,740	△ 675,947
資本金	2,133,448	2,133,448	2,133,448	2,133,448	2,133,448
自己資本金	2,133,448	2,133,448	2,133,448	2,133,448	2,133,448
借入資本金	0				
企業債	0				
剰余金	187,864	164,579	75,599	89,224	34,274
資本剰余金	138,275	139,450	139,450	139,450	139,450
他会計補助金	0				
寄付金	121,420	122,595	122,595	122,595	122,595
その他補助金	16,855	16,855	16,855	16,855	16,855
利益剰余金	49,589	25,129	△ 63,851	△ 50,226	△ 105,176
減債積立金	284,669	284,669	284,669	284,669	284,669
建設改良積立金	129,557	129,558	129,558	129,558	129,558
当年度未処理欠損金	△ 364,637	△ 389,098	△ 478,078	△ 464,453	△ 519,403
(負債・資本合計)	3,357,006	3,223,387	3,108,194	3,343,913	3,435,532

飛騨市病院事業会計 キャッシュ・フロー計算書 (間接法)

飛騨市民病院

	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
I 業務活動によるキャッシュ・フロー				
当期純利益 (△は当期純損失)	△ 52,594,398	△ 4,989,371	△ 68,873,929	30,859,171
減価償却費	134,364,574	131,764,501	122,421,296	104,733,998
賞与引当金の増減額 (減少は△)	2,959,595	2,020,419	11,508,634	△ 54,897
その他引当金の増減額 (減少は△)	0	0	0	0
長期前受金戻入額	△ 26,410,876	△ 22,449,324	△ 21,080,790	△ 15,957,553
長期前受金除却額	0	0	0	0
貸倒引当金増加額			2,325,801	871,059
受取利息及び配当金	△ 1,280,000	△ 988,068	△ 816,925	△ 657,000
支払利息	3,229,021	2,800,001	2,416,763	2,096,560
固定資産除却費	2,431,800	209,500	0	1,296,178
固定資産除却損 (国県市補助金分)				
固定資産除却益				
未収金の増減額 (増加は△)	△ 1,421,584	196,376,672	△ 8,699,688	5,101,645
貯蔵品の増減額 (増加は△)	△ 2,108,815	1,121,425	△ 548,992	393,949
未払金の増減額 (減少は△)	△ 905,332	△ 11,063,596	17,927,272	884,274
引当金の増加額	-	-	-	-
寄附金の増加額	-	-	-	-
その他流動資産の増加額	0	0		
その他流動負債の減少額	0	0	△ 1,709,384	1,060,294
小 計	58,263,985	294,802,159	54,870,058	130,627,678
利息及び配当金の受取額	1,280,000	988,068	816,925	657,000
利息の支払額	△ 3,229,021	△ 2,800,001	△ 2,416,763	△ 2,096,560
業務活動によるキャッシュ・フロー	56,314,964	292,990,226	53,270,220	129,188,118
II 投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の購入による支出	△ 39,737,000	△ 34,575,508	△ 11,194,172	△ 7,304,499
国庫補助金等による収入			18,119,280	0
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	14,187,000	11,471,000	10,700,000	4,807,000
有形固定資産の売却による収入	0	0	0	0
無形固定資産の取得による支出	0	0	0	0
その他				
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 25,550,000	△ 23,104,508	17,625,108	△ 2,497,499
III 財務活動によるキャッシュ・フロー				
企業債による収入	0	0	0	121,700,000
建設改良費等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 60,900,265	△ 48,078,337	△ 44,566,527	△ 7,953,150
出資金による収入				
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
リース債務の返済による支出	△ 744,960	△ 248,320	0	0
寄付による収入	3,145,000	1,175,000	2,490,000	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 58,500,225	△ 47,151,657	△ 42,076,527	113,746,850
IV 資金増加額 (又は減少額)	△ 27,735,261	222,734,061	28,818,801	240,437,469
V 資金期首残高	429,874,946	455,892,088	678,626,149	707,444,950
VI 資金期末残高	455,892,088	678,626,149	707,444,950	947,882,419

飛騨市病院事業会計 キャッシュ・フロー計算書 (間接法)

介護医療院 たかはら

	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
I 業務活動によるキャッシュ・フロー				
当期純利益 (△は当期純損失)	△ 24,003,265	△ 19,470,872	△ 20,106,135	△ 17,233,432
減価償却費	27,375,110	25,102,059	24,761,017	24,557,583
賞与引当金の増減額 (減少は△)	△ 1,090,209	△ 592,790	1,360,101	△ 1,427,983
その他引当金の増減額 (減少は△)				
長期前受金戻入額	△ 17,389,891	△ 17,523,891	△ 18,056,791	△ 18,195,791
長期前受金除却額				
貸倒引当金増加額				
受取利息及び配当金				
支払利息	5,364,521	5,028,620	4,687,383	4,340,717
固定資産除却損 (除却費)	43,500	0	0	77,390
固定資産除却益				
未収金の増減額 (増加は△)	11,116,553	△ 10,293,540	△ 27,248,419	△ 5,458,522
貯蔵品の増減額 (増加は△)	△ 36,192	594,316	0	0
未払金の増減額 (減少は△)	4,239,865	△ 9,324,045	△ 7,063,140	△ 204,142
引当金の増加額	-	-	-	-
寄附金の増加額	-	-	-	-
その他流動資産の増加額	0	0	0	0
その他流動負債の減少額	0	0	0	0
小 計	5,619,992	△ 26,480,143	△ 41,665,984	△ 13,544,180
利息及び配当金の受取額	0	0	0	0
利息の支払額	△ 5,364,521	△ 5,028,620	△ 4,687,383	△ 4,340,717
業務活動によるキャッシュ・フロー	255,471	△ 31,508,763	△ 46,353,367	△ 17,884,897
II 投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形固定資産の購入による支出	△ 5,154,000	△ 4,479,920	△ 1,390,000	△ 908,000
国庫補助金等による収入	0	3,528,000	0	0
一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入	9,220,000	9,354,000	9,490,000	9,629,000
有形固定資産の売却による収入	0	0	0	0
無形固定資産の取得による支出	0	0	0	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	4,066,000	8,402,080	8,100,000	8,721,000
III 財務活動によるキャッシュ・フロー				
企業債による収入	0	0	0	0
建設改良費等の財源に充てるための 企業債の償還による支出	△ 23,050,079	△ 23,385,980	△ 23,727,217	24,073,883
出資金による収入				
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
リース債務の返済による支出				
寄付による収入	0	0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 23,050,079	△ 23,385,980	△ 23,727,217	△ 24,073,883
IV 資金増加額 (又は減少額)	△ 18,728,608	△ 46,492,663	△ 61,980,584	△ 33,237,780
V 資金期首残高	811,269,735	792,541,127	746,048,464	684,067,880
VI 資金期末残高	792,541,127	746,048,464	684,067,880	650,830,100

4. 年度別補助事業等明細

企業債、補助金充当事業等

① 市民病院

税込(円)

年度	事業名	事業費	企業債	補助金	備考	
18	人工透析装置	39,795,000		2,625,000	国保	調整交付金
18	リハビリ・透析棟増築工事	177,925,650	100,000,000			
19	医療療養型病床設置工事	98,578,200				
19	高圧蒸気滅菌装置 酸化エチレンガス滅菌装置	26,670,000				
21	新MRI室等改修工事	36,718,500				
21	超電導磁気共鳴画像診断装置(MRI)	92,925,000	90,000,000			
21	プラズマ滅菌装置	16,107,000		2,625,000	国保	調整交付金
21	生化学自動分析装置	7,287,000		7,287,000	市	地域活性化・経済危機 対策臨時交付金
21	全自動総合血液学分析装置	4,042,500		4,042,500	市	地域活性化・経済危機 対策臨時交付金
21	血液ガス分析装置	3,307,500		3,307,500	市	地域活性化・経済危機 対策臨時交付金
21	省エネルギー改修工事	60,627,000	30,000,000	27,282,000	市	地域住宅交付金
22	省エネルギー改修工事	283,773,000	130,000,000	127,697,850	市	地域住宅交付金
22	上部消化管経鼻スコープ 十二指腸処置用スコープ	4,777,500		1,592,000	国保	調整交付金
24	衛星通信機器 2式	648,900		648,000	市	医療機関等災害時通信 確保事業費補助金
25	全身コンピューター 断層撮影装置	66,990,000	50,000,000	10,500,000	市	岐阜県救急医療施設 整備費補助金
27	電子カルテシステム(更新)	120,939,359	100,000,000			
28	電子内視鏡システム	13,284,000				
29	公用自動車	1,907,261				
29	長時間心電図解析装置	10,793,854				
29	医事会計システム・訪問系介 護請求システム(更新)	8,705,880				
30	X線透視診断装置	25,790,400				
30	適温配膳車	1,296,000				
30	非接触式眼圧計	2,030,400				
30	電気手術器	4,428,000				
30	抗悪性腫瘍剤無菌調整用陰 圧アイソレーター	4,428,000				
元	内視鏡スコープ	8,802,000				
元	超音波画像診断装置	4,268,000				
元	人工呼吸器	4,290,000				
元	医用テレメーター	4,730,000				
元	全自動尿統合型分析システム	6,380,000				
元	タブレット型超音波画像診断装置	3,278,000				
2	バリアフリースケール	209,000				
2	コンパクト視力計	220,000				
2	ハイローストレッチャー	308,000				

2	H E P Aフィルター付き クリーンパーテーション	726,000		451,000	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策設備整備費 補助金
2	麻薬管理システム（更新）	775,500				
2	電動診察台	302,500				
2	H E P Aフィルター付き クリーンパーテーション	726,000		451,000	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策設備整備費 補助金
2	薬用冷蔵ショーケース	447,920				
2	業務用冷凍冷蔵庫	473,000				
2	消毒保管庫（電気式）	795,300				
2	インターネット用ノートパソコン	937,200				
2	タブレット端末	2,992,000				
2	感染症遺伝子検査装置	1,606,000		1,606,000	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策事業費 補助金
2	全自動血液凝固測定装置	5,060,000		5,060,000	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策事業費 補助金
2	H E P Aフィルター付き クリーンパーテーション	673,508		673,508	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策事業費 補助金
2	医療用陰圧式エアートント	7,590,000		7,590,000	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策事業費 補助金
2	薬剤在庫管理システム（更新）	550,000				
2	感染症遺伝子検査装置	1,606,000		1,606,000	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策事業費 補助金
2	オンライン資格確認等システム	2,178,000				
2	診察用組立式ドーム型ハウス	2,493,700		2,493,700	県	新型コロナウイルス感染症 院内感染防止対策事業費 補助金
3	業務用電子レンジ	231,000				
3	インターネット用ノートパソコン	550,000		550,000	市	ふるさと納税の繰入
3	干渉電流型低周波治療器	321,200				
3	高度救急処置訓練人形	1,777,600		1,777,000	市	ふるさと納税の繰入
3	看護師当直室エアコン	192,000				
3	栄養管理システム	1,870,000				
3	赤血球沈降速度測定装置	825,000				
3	臨床検査システムサーバー	2,388,705				
3	医用画像情報システム	14,795,000				
3	P C A機能付き小型シリンジポンプ	275,000				
3	フロア型冷却遠心機	946,000				
3	看護師寮エアコン	146,300				
3	病院情報システム	150,436,000	129,000,000			
3	医師住宅C棟 エアコン	349,800				
4	ベッドサイドモニター用送信機	235,400				
4	ポータブルSP02モニター	242,000				
4	内視鏡洗浄消毒器 エント®クリンズ®	748,000				
4	カラーレーザープリンター	335,500				
4	自動血圧計	185,900				

4	汎用冷凍手術ユニット	205,480				
4	キャスター付油圧式昇降ベッド	170,500				
4	嚥下内視鏡検査用ビデオスコープ	4,235,000				
4	エアマットレス	567,600				
4	テレビ会議システム	655,160		655,000	市	ふるさと納税の繰入
4	パソコン	663,080				
4	包丁まな板殺菌庫	303,820				
4	コイン式全自動洗濯機及びコイン式全自動乾燥機	537,900				
4	個室ブース	2,541,000		2,541,000	市	ふるさと納税の繰入
4	内視鏡洗浄消毒装置	2,849,000				
4	人工透析装置	27,390,000				
4	超電導磁気共鳴画像診断装置	172,690,000	130,000,000			
4	睡眠評価装置	352,000				
4	オートレフケラトメーター	2,695,000				

年度	事業名	事業費	企業債	補助金	備考	
18	車いす入浴装置	6,709,500				
21	福祉車両	3,808,000		3,808,000	市	地域活性化・経済危機 対策臨時交付金
23	抑臥位機械浴	5,082,000				
23	配膳車	2,184,000				
29	電気式スチームコンベクション オープン	1,047,600				
30	公用自動車	1,918,080				
30	監視カメラ装置	2,808,000				
30	電磁調理器	840,240				
元	間仕切りパネル	4,180,000		3,528,000	県	
2	自動体外式除細動器	198,000				
2	ブラストチラー	1,331,000				
3	冷凍・冷蔵機器一式	998,800				
4	車椅子式入浴装置	7,150,000				
4	冷凍・冷蔵機器一式	631,400				
4	食器洗浄機（コンベアタイプ）	2,626,800				
4	ナースコールシステム	7,975,000				

IV 経営分析

1 飛騨市民病院 経営分析

項 目			30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	総収益対総費用比率		96.4%	99.7%	95.3%	102.1%	97.9%
2	経常収支比率		96.4%	99.5%	95.3%	102.1%	97.3%
3	医業収支比率		85.5%	83.9%	75.6%	84.4%	76.6%
4	実質収益対経常費用比率		85.1%	83.1%	78.2%	84.5%	77.2%
5	繰入金の医業収益に対する割合		13.6%	20.2%	23.7%	21.9%	27.6%
6	繰入金の経常収益に対する割合		11.7%	16.5%	18.0%	17.2%	20.6%
7	1病床当たり他会計繰入金	千円	1,808.2	2,594.1	2,845.6	2,966.4	3,644.2
8	給与費対医業収益		73.6%	74.7%	71.7%	63.2%	67.7%
9	材料費対医業収益		12.1%	11.8%	11.9%	12.7%	12.8%
10	薬品費対医業収益		5.2%	5.8%	4.9%	4.5%	4.6%
11	経費対医業収益		19.7%	21.1%	37.0%	33.6%	39.1%
12	委託費対医業収益		10.8%	11.7%	13.0%	12.4%	12.6%
13	減価償却費対医業収益		11.1%	11.3%	11.5%	8.7%	10.2%
14	支払利息対医業収益		0.3%	0.2%	0.2%	0.2%	0.2%
15	企業債元利償還金対医業収益比率		5.3%	4.4%	4.4%	0.8%	3.1%
16	医業収益増加率		5.1%	-3.7%	-8.9%	12.8%	-2.5%
17	医業費用増加率		4.3%	-1.8%	1.0%	1.0%	7.5%
18	病床100床当たり医業収益	百万円	1,330.6	1,281.4	1,311.0	1,478.9	1,442.4
19	入院収益対外来収益		1.70	1.44	1.31	1.43	1.33
20	病床利用率		76.4%	67.6%	65.4%	73.6%	75.7%
21	一日平均入院患者数	人	69.5	61.6	57.9	59.6	61.3
22	一日平均外来患者数	人	223.5	232.4	210.0	222.2	236.6
23	外来入院患者比率		321.6%	377.3%	362.7%	372.8%	386.0%
24	患者一人一日当たり入院収入	円	27,685	27,864	25,491	28,536	26,229
25	患者一人一日当たり外来収入	円	7,564	7,790	8,074	8,065	7,664
	(以下は事業合算)						
26	固定資産構成比率		49.6%	47.8%	45.8%	43.5%	44.1%
27	流動資産構成比率		50.4%	52.2%	54.2%	56.5%	55.9%
28	固定負債構成比率(～H25)		-	-	-	-	-
	固定負債構成比率(H26～)		13.9%	12.4%	11.8%	12.9%	13.9%
29	流動負債構成比率		6.7%	6.2%	6.5%	11.4%	14.6%
30	自己資本構成比率(～H25)		-	-	-	-	-
	自己資本構成比率(H26～)		79.3%	81.4%	81.6%	75.7%	71.4%
31	固定比率(～H25)		-	-	-	-	-
	固定比率(H26～)		62.4%	58.7%	56.1%	57.4%	61.7%
32	流動比率		750.4%	844.1%	828.2%	497.1%	383.0%
33	当座(酸性試験)比率		743.0%	836.6%	820.6%	493.1%	380.1%
34	現金預金比率		553.2%	715.0%	684.1%	420.2%	323.0%
35	負債比率		32.5%	28.0%	26.7%	38.0%	45.9%
36	不良債務	百万円	-1,467.8	-1,482.7	-1,481.3	-1,510.5	-1,418.4

2. 医業収益・医業費用増加率

① 飛驒市民病院

区 分		30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
		金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
総 収 益		4.4%	3.6%	-4.1%	8.9%	3.9%
医業収益		5.1%	-3.7%	-8.9%	12.8%	-2.5%
	入院収益	6.3%	-10.6%	-14.2%	15.3%	-5.5%
	外来収益	3.2%	5.8%	-5.6%	5.3%	1.6%
	その他医業収益	4.4%	6.2%	9.1%	28.9%	-1.8%
	うち救急輪番負担金	1.8%	-1.8%	0.0%	1.2%	-0.3%
医業外収益		0.3%	34.0%	27.3%	-3.3%	21.0%
	受取利息・配当金	-25.0%	-22.8%	-17.3%	-19.6%	6.5%
	他会計補助金	1.8%	43.5%	6.7%	4.2%	22.9%
	患者外給食収益	—	—	—	—	—
	長期前受金戻入	-4.1%	-15.0%	-6.1%	-24.3%	44.0%
	その他医業外収益	-12.1%	1.9%	9.3%	-3.1%	43.5%
特別利益		—	皆増	皆増	皆増	皆増
総 費 用		4.2%	0.2%	0.3%	1.7%	8.2%
医業費用		4.3%	-1.8%	1.0%	1.0%	7.5%
	給与費	5.2%	-2.3%	-12.7%	-0.5%	4.5%
	材料費	3.5%	-6.0%	-8.0%	20.5%	-2.0%
	薬品費	0.5%	7.3%	-23.3%	3.6%	0.0%
	診療材料費	5.3%	-17.8%	8.3%	33.3%	-3.3%
	給食材料費	-2.5%	-6.0%	3.2%	32.6%	-12.0%
	医療消耗備品費	123.3%	75.6%	-29.7%	-9.5%	27.2%
	経 費	4.9%	3.1%	60.0%	2.3%	13.5%
	光熱水費	10.4%	-10.4%	2.3%	-0.1%	69.7%
	燃料費	3.0%	-1.2%	11.3%	14.9%	13.7%
	賃借料	-7.0%	6.7%	4.4%	0.0%	-5.5%
	委託料	10.3%	4.2%	0.9%	7.8%	-1.1%
	その他	-5.0%	7.7%	377.2%	-3.2%	23.0%
	減価償却費	-3.0%	-1.9%	-7.1%	-14.4%	14.3%
	資産減耗費	263.0%	-74.5%	-73.7%	830.2%	379.7%
	研究研修費	14.8%	-1.5%	-54.6%	8.9%	64.4%
医業外費用		2.0%	7.3%	31.3%	16.8%	8.2%
	支払利息・企業債諸費	-11.9%	-13.3%	-13.7%	-13.3%	-8.3%
	患者外給食材料費	—	—	—	—	—
	雑支出	3.2%	8.8%	34.0%	17.9%	8.7%
特別損失		—	皆増	皆増	皆増	皆増

② 介護医療院たかはら

区 分	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	金 額	金 額	金 額	金 額	金 額
総 収 益	-7.5%	-37.7%	-54.9%	6.5%	-8.0%
介護(医業)収益	-7.7%	-58.5%	—	—	—
入院収益	-7.7%	-58.4%	—	—	—
その他医業収益	-11.2%	-64.8%	—	—	—
介護(医業)外収益	-4.8%	115.4%	49.6%	6.5%	-8.0%
受取利息・配当金	—	—	—	—	—
他会計補助金	-5.8%	-6.2%	-6.8%	-7.4%	-8.1%
長期前受金戻入	0.8%	0.8%	3.0%	0.8%	0.8%
その他医業外収益	-16.4%	442.3%	76.3%	8.4%	-10.2%
特別利益	—	皆増	—	—	—
総 費 用	-1.6%	-36.3%	-49.4%	2.5%	-2.6%
介護(医業)費用	-1.9%	-36.8%	-49.5%	2.9%	-4.1%
給与費	-5.8%	-37.1%	-41.2%	4.6%	-9.2%
材料費	-11.4%	-41.9%	—	—	—
薬品費	-18.3%	-59.6%	—	—	—
診療材料費	-12.1%	-41.7%	—	—	—
給食材料費	-0.8%	-41.0%	—	—	—
医療消耗備品費	263.6%	235.0%	—	—	—
経 費	10.8%	-45.6%	-96.9%	-23.9%	260.9%
光熱水費	9.3%	-51.0%	—	—	—
燃料費	9.1%	-52.6%	—	—	—
賃借料	-11.2%	-50.3%	—	—	—
委託料	7.1%	-44.8%	—	—	—
その他	41.4%	-39.5%	-81.5%	-23.9%	260.9%
減価償却費	-2.6%	-8.3%	-1.4%	-0.8%	-0.2%
資産減耗費	—	—	—	—	—
研究研修費	0.9%	5.4%	—	—	—
介護(医業)外費用	5.1%	-26.9%	-45.8%	-6.8%	32.5%
支払利息・企業債諸費	-5.8%	-6.2%	-6.8%	-7.4%	-8.1%
雑支出	15.3%	-42.5%	-93.8%	3.6%	710.4%
特別損失	—	皆増	—	—	—

神岡・上宝の人口と患者数
各年 10月1日

	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
神岡町 人口	8,109	7,924	7,793	7,620	7,498
前年との増減	-154	-185	-131	-173	-122
前年度増減率	-1.90%	-2.33%	-1.68%	-2.27%	-1.63%
H18年からの増減	-2,599	-2,784	-2,915	-3,088	-3,210
延外来患者数	45,133	46,157	42,297	43,994	46,932
前年との増減	2,142	1,024	-3,860	1,697	2,938
前年度増減率	4.75%	2.22%	-9.13%	3.86%	6.26%
H18年との増減	-17,274	-16,250	-20,110	-18,413	-15,475
患者数/人口	5.57	5.82	5.43	5.77	6.26
	30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
旧上宝村 人口	3,019	2,938	2,837	2,768	2,717
前年との増減	-14	-81	-101	-69	-51
前年度増減率	-0.46%	-2.76%	-3.56%	-2.49%	-1.88%
H18年からの増減	-711	-792	-893	-962	-1,013
延外来患者数	6,943	7,308	6,497	7,243	7,471
前年との増減	369	365	-811	746	228
前年度増減率	5.31%	4.99%	-12.48%	10.30%	3.05%
H18年との増減	-4,046	-3,681	-4,492	-3,746	-3,518
患者数/人口	2.30	2.49	2.29	2.62	2.75

	経営指標	計算式
1	総収益対総費用比率	総収益/総費用×100
2	経常収支比率	医業収益+医業外収益/医業費用+医業外費用×100
3	医業収支比率	(医業収益÷医業費用)×100
4	実質収益対経常費用比率	[(医業収益+医業外収益-他会計繰入金)÷ 医業費用+医業外費用]×100
5	繰入金の医業収益に対する割合	(繰入金/医業収益)×100
6	繰入金の経常収益に対する割合	(繰入金/医業収益+医業外収益)×100
7	1病床当たり他会計繰入金	(繰入金/許可病床数)
8	給与費対医業収益	給与費/医業収益×100
9	材料費対医業収益	材料費/医業収益×100
10	薬品費対医業収益	薬品費/医業収益×100
11	経費対医業収益	経費費/医業収益×100
12	委託費対医業収益	委託費/医業収益×100
13	減価償却費対医業収益	減価償却費/医業収益×100
14	支払利息対医業収益	支払利息/医業収益×100
15	企業債元利償還金対医業収益比率	企業債元金・利子/医業収益×100
16	医業収益増加率	(n年度医業収益-n-1年度医業収益)/n-1年度医業収益
17	医業費用増加率	(n年度医業費用-n-1年度医業費用)/n-1年度医業費用
18	病床100床当たり医業収益	(医業収益÷病床数)×100
19	入院収益対外来収益	入院収益÷外来収益
20	病床利用率	在院患者延べ数×100/病床数×365
21	一日平均入院患者数	在院患者延べ数/365
22	一日平均外来患者数	在院患者延べ数/診療日数
23	外来入院患者比率	1日平均外来患者数/1日平均在院患者数×100
24	患者一人一日当たり入院収入	入院収益/在院患者延べ数
25	患者一人一日当たり外来収入	外来収益/外来患者延べ数
(以下は事業合算)		
26	固定資産構成比率	固定資産+繰延資産/総資産×100
27	流動資産構成比率	流動資産/総資産×100
28	固定負債構成比率(～H25)	(固定負債+借入資本金)/負債資本合計×100
	固定負債構成比率(H26～)	固定負債/負債資本合計×100
29	流動負債構成比率	流動負債/負債資本合計×100
30	自己資本構成比率(～H25)	(自己資本金+剰余金)/負債資本合計×100
	自己資本構成比率(H26～)	(資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益)/負債資本合計×100
31	固定比率(～H25)	固定資産÷(自己資本金+剰余金)×100
	固定比率(H26～)	固定資産÷(資本金+剰余金+評価差額等+繰延収益)×100
32	流動比率	(流動資産÷流動負債)×100
33	当座(酸性試験)比率	現金預金+未収金/流動負債×100
34	現金預金比率	(現金預金÷流動負債)×100
35	負債比率	(固定負債+流動負債+借入資本金÷自己資本)×100
36	不良債務	流動負債-流動資産

2022 年度 病院年報編集委員会

委員長	病院長	黒木 嘉人
委員	看護師	宮本 洋子
委員	臨床工学技士	富本 善教
委員	管理調整係	古田 幸嗣
委員	管理調整係	上葛 健介

飛驒市民病院年報 第 12 号 (2022 年度)

2023 年 10 月発行 ISSN 2435-8142

発 行 国民健康保険飛驒市民病院
〒506-1111 岐阜県飛驒市神岡町東町 725
TEL 0578-82-1150 FAX 0578-82-1631
<https://hida-hp.jp>
